

これからの時代に求められる
資質・能力を育むための
カリキュラム・マネジメントの
在り方に関する調査研究

カリキュラム・マネジメントの手引き

広島県
尾道市教育委員会
尾道市立向島中学校
尾道市立高見小学校
尾道市立向島中央小学校
尾道市立三幸小学校

はじめに

本手引きは、尾道市向島中学校区で実施した文部科学省指定事業「これからの時代に求められる資質・能力を育むカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」の成果物として、広くその手法を広げるために作成したものです。

本研究は、平成31（令和元）年度、令和2年度の2年間にわたって行われました。研究に関わったのは、広島県尾道市内の向島中学校、高見小学校、向島中央小学校、三幸小学校の1中3小の学校区です。向島は、尾道市街から尾道水道を隔てた島で、文字通り尾道の向かい側に位置しています。かつては、造船のまちとして賑わいましたが、近年では、しまなみ海道の架かる最初の島として、国内外から多くのサイクリストが来島しています。

本研究を始めた当初、特に中学校で見られる課題として、不登校生徒の増加や学力定着の不十分さがありました。子供たちの中には、傷つくこと、失敗することを恐れる生徒、我慢する力が弱い生徒、対人関係を自ら形成することが難しい生徒も少なくなく、これらのことは3小でも共通していました。要因として、人間関係形成力やレジリエンスの弱さ、学力や学習意欲の低下が考えられ、学校として様々な取組を行ってきましたが、それぞれの学校の工夫だけでその解決を図ることは難しい状況でした。

そのような中、向島中学校区の先生方は、「向島で育った子供たちが、中学校を卒業するとき、あるがままの自分が好きで、自分のことは自分で決め、決めたことに責任をもてる生徒に育てて卒業してほしい。」「学習の基盤となる資質・能力、あるいは、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育て卒業してほしい。」という思いで数々の取組を進めてきました。小中連携におけるカリキュラム・マネジメントと各校の取組におけるカリキュラム・マネジメントが両輪として回り始めたとき、それぞれの学校が確実に動き始めたのを実感することができました。

本市では、学力向上や生徒指導、働き方改革などの諸課題をカリキュラム・マネジメントの手法で改善していくことで、「児童生徒と教職員が生き生きと輝く学校」の実現を目指しております。向島中学校区の先生方が感じられたカリキュラム・マネジメントの手応えを市内全中学校区でも実感することができるよう、教育委員会として、支援を行ってまいりました。

中学校区で進めてきたカリキュラム・マネジメントに係る実践事例を多数掲載しています。多くの方に参考にしていただければと思います。

令和3年3月
尾道市教育委員会

カリキュラム・マネジメント Q&A

資質・能力×カリキュラム・マネジメント

学校教育目標と資質・能力をどのように設定すればよいか。(中央小) P34

総合的な学習の時間に育む資質・能力をどのように設定すればよいか。(向島中) P90

学習の基盤となる資質・能力とは何か。(高見小) P55

算数科における学習の基盤となる資質・能力とは何か。(三幸小) P75

言語能力とは何か。(高見小) P56

言語能力を育成するためにどのような取組があるか。(三幸小) P82

情報活用能力とは何か。(高見小) P56

問題発見・解決能力とは何か。(高見小) P56

「表現力」を育成するためにどのような取組を行うとよいか。(中央小) P39

学習の基盤となる資質・能力を育成するためにどのような取組を行うとよいか。(高見小) P58

資質・能力の評価には、どのようなものがあるか。(中央小) P44

教育活動×カリキュラム・マネジメント

カリキュラム・マネジメントの手順にはどのようなものがあるか。P9

カリキュラム・マネジメントのポイントは何か。P9

カリキュラム・マネジメントを進めるためには、どのように組織すればよいか。P15

カリキュラム・マネジメントの見通しを立てるために、どのような取組があるか。P22

全国学力・学習状況調査の分析は、どのように行えばよいか。P26

学習の基盤を整備するために、どのような取組があるか。P21

学校実態を全教職員で共有するためには、どのような取組があるのか。(三幸小) P73

学校教育目標と取組が連動するためには、どのような取組があるのか。(中央小) P35

学校教育目標を実現するためにどのような研修を計画すればよいか。(中央小) P35

学校評価表には、どのようなものがあるか。(中央小) P47

授業研究の成果を日常の授業に生かす取組には、どのような例があるか。(三幸小) P83

異学年で取り組める活動には、どのようなものがあるか。(三幸小) P82

総合的な学習の時間の実践例にはどのようなものがあるのか。(向島中) P91

縦割り班活動の取組には、どのようなものがあるか。(中央小) P41

子供が学びをつなぐためにどのような取組があるか。(三幸小) P85

教師自身が学びをつなぐためにどのような取組があるか。(三幸小) P87

保護者・地域とつながるためにどのような取組があるか。(中央小) P43

授業実践×カリキュラム・マネジメント

- 小1年算数科「わかりやすくせいりしよう」(中央小) P48
- 小1年生活科「あきはかせになろう!～あきとなかよし～」(高見小) P61 資料2～4
- 小2年生活科「つくろう あそぼう くふうしよう～わくわくおもちゃランドをひらこう～」(高見小) P65 資料2～4
- 小3年道徳科「たからさがし」(中央小) P49
- 小3年総合的な学習の時間「向島・尾道～町のやさしさ発見～」(中央小) P50
- 小4年理科「サイエンス・マジック・ブックを発行しよう～ものの温度と体積～」(高見小) P63 資料2～4
- 小5年算数科「正多角形と円周の長さ」(三幸小) P78
- 小5年理科「台風に備えよう～台風と気象情報～」(高見小) P60 資料2～4
- 小5年総合的な学習の時間「守れ!島人の宝」(中央小) P52
- 小6年算数科「拡大図と縮図」(三幸小) P76
- 小特別支援学級算数科「たんぼぼ商店街で問題を解こう」(三幸小) P80
- 中1年総合的な学習の時間「日本文化追究・発信隊!～日本の文化を伝えよう～」(向島中) P98
- 中1年総合的な学習の時間「Teamしまっ子～尾道の魅力発見隊～」(向島中) P103
- 中1年総合的な学習の時間「Teamしまっ子～現代の課題について考えよう～」(向島中) P105
- 中2年総合的な学習の時間「向島のよさ(魅力)発信隊」(向島中) P94
- 中2年総合的な学習の時間「Dream キャッチ隊!～君たちはどう生きる?～」(向島中) P100
- 中3年総合的な学習の時間「島中世界探検隊～世界の国を知りつくそう～」(向島中) P91
- 中3年総合的な学習の時間「国際社会に生きる私たち～自分たちにできること～」(向島中) P96

各種資料

- 生活科年間学習計画, 理科年間学習計画(高見小) 資料1
- 単元構想図(高見小) 資料2
- 授業設計・(形成的)評価マトリクス(高見小) 資料3
- 向島中学校区 総合的な学習の時間 全体計画(向島中) 資料5
- 向島中学校区で育成を目指す資質・能力 表現力に係る系統(4校共通) 資料6

CONTENTS

はじめに

第1章 カリキュラム・マネジメントとは何か <理論編> P.7

第1節 カリキュラム・マネジメントとは何か P.8

- 1 子供が健やかに成長する学校にしていくために
- 2 カリキュラム・マネジメントに取り組む際の手順の一例
- 3 カリキュラム・マネジメントを進めていく上でのポイント

第2節 調査研究実施前の向島中学校区の実態 P.11

- 1 向島中学校区アップデート開始
- 2 各主任主事研修会の実際

第2章 カリキュラム・マネジメントの実際 <小中連携 実践編> P.13

第1節 年間を通じたカリキュラム・マネジメントの在り方 P.14

- 1 実践校の概要
- 2 向島中学校区教育目標
- 3 組織図
- 4 検討会議員とスケジュール
- 5 研究構想図等

第2節 カリキュラム・マネジメント推進のポイント P.22

- 1 見通しを立てる
- 2 4校の実態を見る
- 3 具体の取組を決める
- 4 全国学力・学習状況調査結果から児童生徒の状況を分析する
- 5 取組と学びを共有する，総合的な学習の時間を充実させる
- 6 研究示範授業から学ぶ
- 7 総合的な学習の時間を実践し，協議する
- 8 カリキュラム・マネジメントに係る取組を振り返る
- 9 育てたい資質・能力や計画を見直す

第3章 カリキュラム・マネジメントの実践例 <資質・能力育成 実践編> P.33

第1節 学校の教育目標等の設定及び実現に向けた取組 P.34

～尾道市立向島中央小学校～

- 1 学校の教育目標等の設定のために
 - (1)学校教育目標の設定
 - (2)資質・能力の設定
- 2 学校の教育目標等の実現のために
 - (1)学校評価表の活用
 - (2)確かな学力の育成～育成すべき資質・能力を意識した授業づくり～
 - (3)豊かな心の育成～育成すべき資質・能力を意識した仲間づくり～
 - (4)家庭や地域とともにある学校を目指して
 - (5)取組の評価
- 3 まとめ
- 4 資料

第2節 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた取組 1 P. 54

～尾道市立高見小学校～

- 1 高見小学校の概要
 - (1)本校の研究について
 - (2)育成を目指す学習の基盤となる資質・能力
 - (3)校内研修経過
 - (4)研究の重点
- 2 授業実践を通して
 - (1)第5学年理科「台風に備えよう～台風と気象情報～」
 - (2)第1学年生活科「あきはかせになろう！～あきとなかよし～」
 - (3)第4学年理科「サイエンス・マジック・ブックを発行しよう～ものの温度と体積～」
 - (4)第2学年生活科「つくろう あそぼう くふうしよう～わくわくおもちゃランドをひらこう～」
- 3 まとめ
 - (1)各学年の取組を通して
 - (2)全体を通して

第3節 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた取組 2 P. 72

～尾道市立三幸小学校～

- 1 三幸小学校の概要
 - (1)本校の取組について
 - (2)昨年度の取組から見えてきたこと
- 2 具体的な取組
 - (1)組織的なカリキュラム・マネジメントの推進に向けて～学校評価表への落とし込み～
 - (2)算数科における学習の基盤となる資質・能力の捉えの明確化
 - (3)子供と学びの実感を伴う取組の推進
- 3 まとめ
 - (1)成果
 - (2)課題
- 4 資料

第4節 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた取組 P. 88

～尾道市立向島中学校～

- 1 総合的な学習の時間を中心に子供の資質・能力を育成するために
 - (1)向島中学校区9年間を通した資質・能力の育成に向けて
 - (2)向島中学校区での単元の設定までの経緯
 - (3)育成を目指す資質・能力について
- 2 実践報告
 - (1)第3学年の取組について
 - (2)第2学年の取組について
 - (3)第1学年の取組について
- 3 まとめ
 - (1)成果と課題
 - (2)今後について

おわりに

資料

第1章

カリキュラム・マネジメントとは何か

<理論編>

カリキュラム・マネジメントとは何か

1 子供が健やかに成長する学校にしていくために

カリキュラム・マネジメントとは何かを述べる前に、「よい学校」とは、どんな学校だろうか。子供であれば、「楽しい学校」「友達に会える学校」「自分が成長できる学校」。保護者・地域であれば、「子供が毎日行きたくなる学校」「地域とともに歩む学校」。教職員であれば、「子供が成長する学校」「教職員間で協働し、課題を解決していく学校」「ここで働いてよかった。来年度もがんばろうと思える学校」などではないだろうか。



それぞれの立場によって「よい学校」の捉えは違うが、「子供が健やかに成長する学校」は、誰もが願うことである。

そのために学校で働く教職員にできることは何だろうか。それは、教育活動の質を向上させ、子供たちを成長させていくことである。それも力のある教職員個人の力量に頼るのではなく、何年経っても教育活動の質を向上し続けていくような学校文化を醸成していくことが求められる。



長年の努力によって、「〇〇指導計画」のような様々なカリキュラムが各学校で整備された。作成した当初は、目的を明らかにしながら教育活動に取り組んでいたかもしれない。しかし、月日が経つにつれ、カリキュラムのユーザー（使い手）となっている自分に気付くことがある。学校を取り巻く環境は日々、目まぐるしく変化している。現在は、新型コロナウイルス感染症の影響により、これまで慣例として行ってきた教育活動が同様に実施することが不可能になってしまった。いつまでもカリキュラムのユーザーでは、立ち行かなくなっている。学校で働く教職員は、カリキュラムのメーカーであり、カリキュラムのマネージャーである必要がある。その学校の教職員全員が、カリキュラムのマネージャーとして動いている学校は、強い。

本手引きでは、子供が健やかに成長する学校になっていくためのカリキュラム・マネジメントの在り方について述べる。第3章では、カリキュラム・マネージャーとして教職員一人一人が取り組んできた実践事例を紹介するので、参考にしていきたい。

平成29年告示小学校学習指導要領では、「カリキュラム・マネジメント」について以下のように示されている。

各学校においては、児童や学校、地域の実態を適切に把握し、

①教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、

②教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、

③教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと

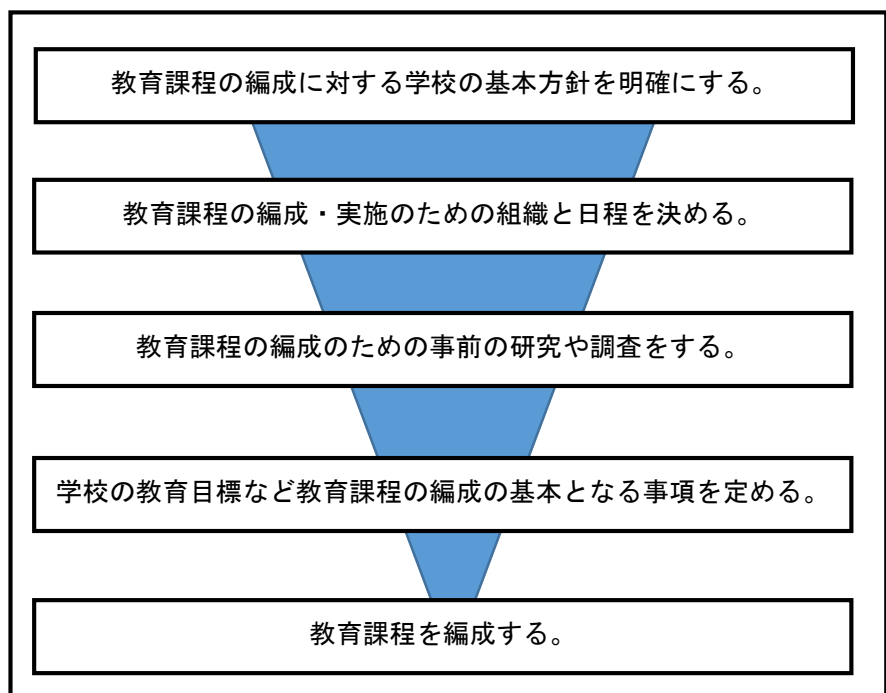
などを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくことに努めるものとする。（※記号、下線は筆者）

カリキュラム・マネジメントは、学校教育に関わる様々な取組を、教育課程を中心に据えながら組織的かつ計画的に実施し、教育活動の質の向上につなげていくことである。具体的には、①～③の下線部で示しているように、三つの側面から整理して示されている。

①～③は、手段であり、二重下線部で示した「教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと」こそが、カリキュラム・マネジメントの本質的なねらいであると述べられている。カリキュラム・マネジメントは目的ではなく、方法であることをここで押さえておく。

2 カリキュラム・マネジメントに取り組む際の手順の一例

カリキュラム・マネジメントに取り組む際の手順として、「教育課程の編成に対する学校の基本方針を明確にする」→「教育課程の編成・実施のための組織と日程を決める」→「教育課程の編成のための事前の研究や調査をする」→「学校の教育目標など教育課程の編成の基本となる事項を定める」→「教育課程を編成する」という流れが一つの例である。具体については、第2章「カリキュラム・マネジメントの実際」で紹介する。



3 カリキュラム・マネジメントを進めていく上でのポイント

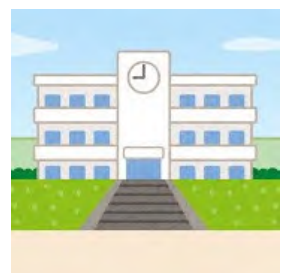
近年、カリキュラム・マネジメントの必要性が重視されるようになり、どの学校においても、「カリキュラム・マネジメントを進めなければならない」と取組を始めた学校が多い。しかし、カリキュラム・マネジメントは、それだけで成立するのではなく、「〇〇×カリキュラム・マネジメント」というように、何らかの目的があって、その目的を達成する手段としてカリキュラム・マネジメントは存在する。そのため、学校で育成したい資質・能力を設定するなどして目的を明らかにし、各校の実態を把握し、組織的、計画的に取り組むことが重要となってくる。

(1) 共有する

課題を共有する取組、取組を共有する取組を、学校の中だけでなく、できるだけ多くの人と共有する仕組みをつくること。

(2) 実態を把握する

効果的な取組を見いだすために、各種調査結果やデータ等に基づき、児童生徒の姿や学校及び地域の現状を定期的に把握したり、保護者や地域住民の意向等を的確に把握し、的確な実態把握を行うこと。



(3) 組織する

主任の力を最大限に発揮させ、校長の描く学校経営方針を主任が具体化するために、校長の方針の下に、校務分掌に基づき教職員が適切に役割を分担しつつ、相互に連携しながら、各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントを行うこと。

(4) 計画する

組織的かつ計画的に取組を進めるために、教育課程の編成を含めたカリキュラム・マネジメントに関わる取組を、学校の組織全体の中に明確に位置付け、具体的な組織や日程を決定していくこと。

校内の組織及び各種会議の役割分担や相互関係を明確に決め、職務分担に応じて既存の組織を整備、補強したり、既存の組織を精選して新たな組織を設けたりすること。

分担作業やその整備を含めて、各作業の具体的な日程を決めて取り組んでいくこと。

(5) 指導計画を作成する

教育課程の編成に当たっては、教育課程に関する法令や各学校の教育目標が定める教育の目的や目標の実現を目指して、指導のねらいを明確にし、教育の内容を選択して組織し、それに必要な授業時数を配当していくことが必要となり、各学校においては、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を選択し、各教科等の内容相互の関連を図りながら指導計画を作成したり、児童の生活時間と教育の内容との効果的な組み合わせを考えたりしながら、年間や学期、月、週ごとの授業時数を適切に定めたりしていくこと。

指導計画は、学校で育てたい資質・能力の育成につながっているかを考えながら計画することが大切であり、年度末途中で修正を加えるくらいのつもりで、実態に合わせて変更していくこと。

(6) 外部機関と連携する

改善については、校内の取組を通して比較的直ちに修正できるものもあれば、教育委員会の指導助言を得ながら長期的に改善を図っていくことが必要となるものもあるため、必要な体制や日程を具体化し組織的かつ計画的に取り組んでいくこと。

教育委員会や大学等から、画一的で形式的な指示や指導を受け、学校の意識がそれのみに向いてしまうと、カリキュラム・マネジメントの形骸化につながるおそれがあるので、注意すること。

「共有する」「実態を把握する」「組織する」「計画する」「指導計画を作成する」「外部機関と連携する」これらのポイントに留意するとともに、短いスパンで取組の評価改善を行うことで、一層の充実を図ることが期待できる。

以上が、カリキュラム・マネジメントの基本的な考え方である。ここまでの内容を一年間限りの取組に終わらせるのではなく、学校文化にしていくことが大切である。学校文化とは、教職員に共有された組織文化に、児童生徒に共有された児童生徒文化や、学校に定着した校風文化を加えたものである。

管理職も教職員も児童生徒も誰もがその学校のカリキュラム・マネジメントに加わり、学校の質を向上させていくシステムが構築できれば、「よい学校」はみんなの力で実現できる。

ここまで「カリキュラム・マネジメントとは何か」について述べてきたが、第2節では、本調査研究以前に4校で実施した向島中学校区ブロック研修会の様子について紹介し、次の章で、「カリキュラム・マネジメントの実際」について向島中学校区の平成31（令和元）年度の実践を中心に具体を紹介する。



調査研究実施前の向島中学校区の取組

1 向島中学校区アップデート開始

本調査研究が始まる2カ月前の平成31年2月7日(水)、向島中学校区4校の先生方が集まり、向島中学校区ブロック研修会を実施した。甲南女子大学教授村川雅弘先生を講師としてお招きした。尾道市教育委員会も参加した。ねらいは、向島中学校区の児童生徒の資質・能力を高めるためである。そのためには、小中学校の教員が9年間のカリキュラムをつくるために、共通認識をもち、各教員が意欲や実践力を高めることが重要である。

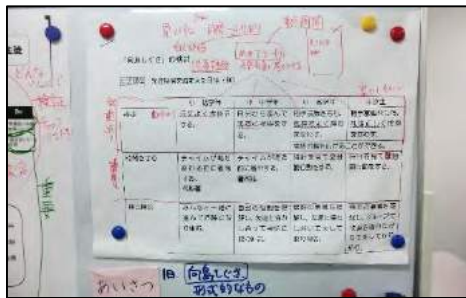


講師の村川先生から、「次期学習指導要領が求めている授業と学校～主体的・対話的で深い学びとカリキュラム・マネジメントを通して～」という演題で講話をしていただいた。その後、教務主任、生徒指導主事、研究主任、体力づくり、英語科・外国語活動担当者、小学校6年担任・中学校教員の6つのグループに分かれて各校の取組の交流と顔合わせを行った。向島中学校区のアップデート開始である。

2 各主任主事研修会の実際

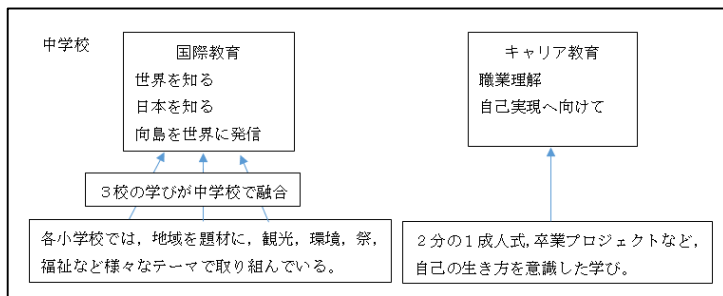
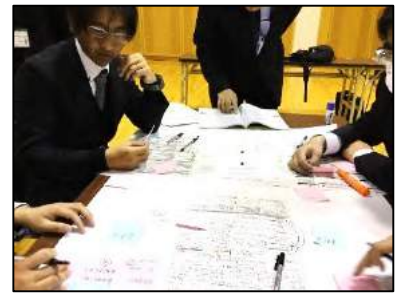
ブロック研修会の後、平成31年2月27日(水)と3月13日(水)にブロック主任主事研修会を実施した。生徒指導部会、総合的な学習の時間部会、体育部会の3部会に分かれて、児童生徒の実態を交流しながら、今後の4校の取組について協議を行った。

生徒指導部会では、「中学校区で育てたい豊かな心と体の育成を図るための小中9年間の系統性を踏まえたカリキュラム・マネジメントをどうつくるか」というテーマで研修を行った。学習と生活の基盤づくりのために、これまで4校で活用してきた「向島しぐさ」のバージョンアップに取り組んだ。また、生活規律や学習規律を高めていくために、授業開始時の立腰や挨拶のレベル等について話し合った。さらに、不登校対策として、児童会生徒会活動、わかる授業づくり、教育相談体制、小中間の定期情報交流、SC・SSWの活用の充実について話し合い、児童生徒の心の居場所と絆づくりを大切にしたい。

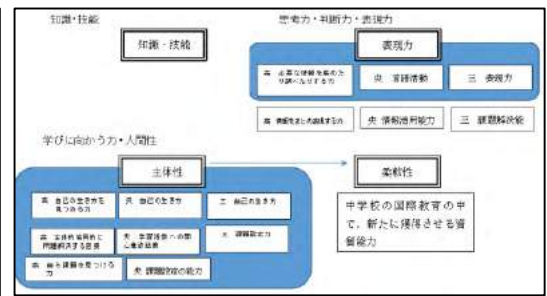


主任主事同士で交流する様子と協議の内容が書き込まれた模造紙

総合的な学習の時間部会では、「中学校区で育てたい資質・能力を核にした小中9年間の系統性を踏まえた総合的な学習の時間におけるカリキュラム・マネジメントをするためにどのようにしていくか」というテーマで研修を行った。内容のつながりと資質・能力のつながりを確認し、整理した。内容は、「国際教育」と「キャリア教育」の2つに整理された。資質・能力は、「知識・技能」「表現力」「主体性」「柔軟性」に整理された。また、各校で、設定した資質・能力のつながりを意識し、単元を見直すことになった。

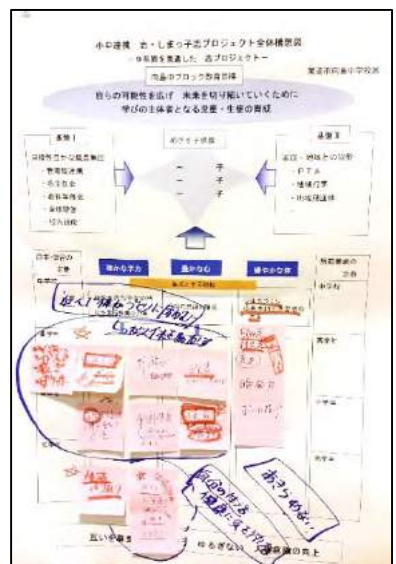


内容のつながりで整理する



資質・能力のつながりで整理する

体育部会では、各校の保健主事、体力づくりコーディネーター、体育科教諭が集まり、「中学校区で育てたい豊かな心と体の育成を図るための小中9年間の系統性を踏まえたカリキュラム・マネジメントをどうしていくか」というテーマで研修した。「体力づくり」と「基本的生活習慣」の2つの柱で協議した。小中共通して、50m走、持久力、ボール投げの項目に課題が見られた。そこで、目指す児童生徒の姿を共有した。「諦めずに最後まで粘り強く取り組む」「進んで体力づくりに励む」「自分の生活（健康）に気を付けていく」児童生徒の育成を目指すこととした。具体的な取組として、体育科の授業の中で、導入として走る運動や単元の特性を生かしたメニューを取り入れることにした。また、家庭学習や部活動において共通の運動を取り入れることにした。右の写真は、「小中連携 しまっ子 志プロジェクト」の構想図である。（P16参照）4校の各主任主事が集まって協議した内容を構想図にまとめた。向島中学校区の教育目標は、「自らの可能性を広げ、未来を切り開いていくために学びの主体者となる児童・生徒の育成」とした。



翌月の4月1日（月）、文部科学省委託「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」に内定した。その後、2年間の調査研究に取り組むことになったが、向島中学校区ブロック研修会が本調査研究を進めていく上での基盤となる取組となった。

第2章では、小中連携におけるカリキュラム・マネジメントの在り方について紹介する。また、第3章では、各校の取組におけるカリキュラム・マネジメントの在り方について紹介する。

第2章

カリキュラム・マネジメントの実際

＜小中連携 実践編＞

第 1 節

年間を通したカリキュラム・マネジメントの在り方

1 実践校の概要

(1) 向島中学校

選択した研究テーマ	c : 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究							
所在地	〒722-0073 尾道市向島町16058-20 電話 0848-44-0416 FAX0848-44-1144 e-mail mukaishima-j@onomichi.ed.jp							
(R2.3 現在)	1年	2年	3年				計	教員数
学級数	3	3	3				11	
生徒数	111	95	103				309	34

(2) 高見小学校

選択した研究テーマ	b : 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究							
所在地	〒722-0073 尾道市向島町2116-3 電話 0848-44-0983 FAX 0848-44-5240 e-mail takami-e@onomichi.ed.jp							
(R2.3 現在)	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	7	
児童数	14	18	24	9	17	23	105	17

(3) 向島中央小学校

選択した研究テーマ	a : 学校の教育目標等の設定及び実現に向けた研究							
所在地	〒722-0073 尾道市向島町5979番地 電話 0848-44-0414 FAX0848-44-0664 e-mail mukaishimachuo-e@onomichi.ed.jp							
(R2.3 現在)	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	17	
児童数	53	65	69	60	80	62	389	42

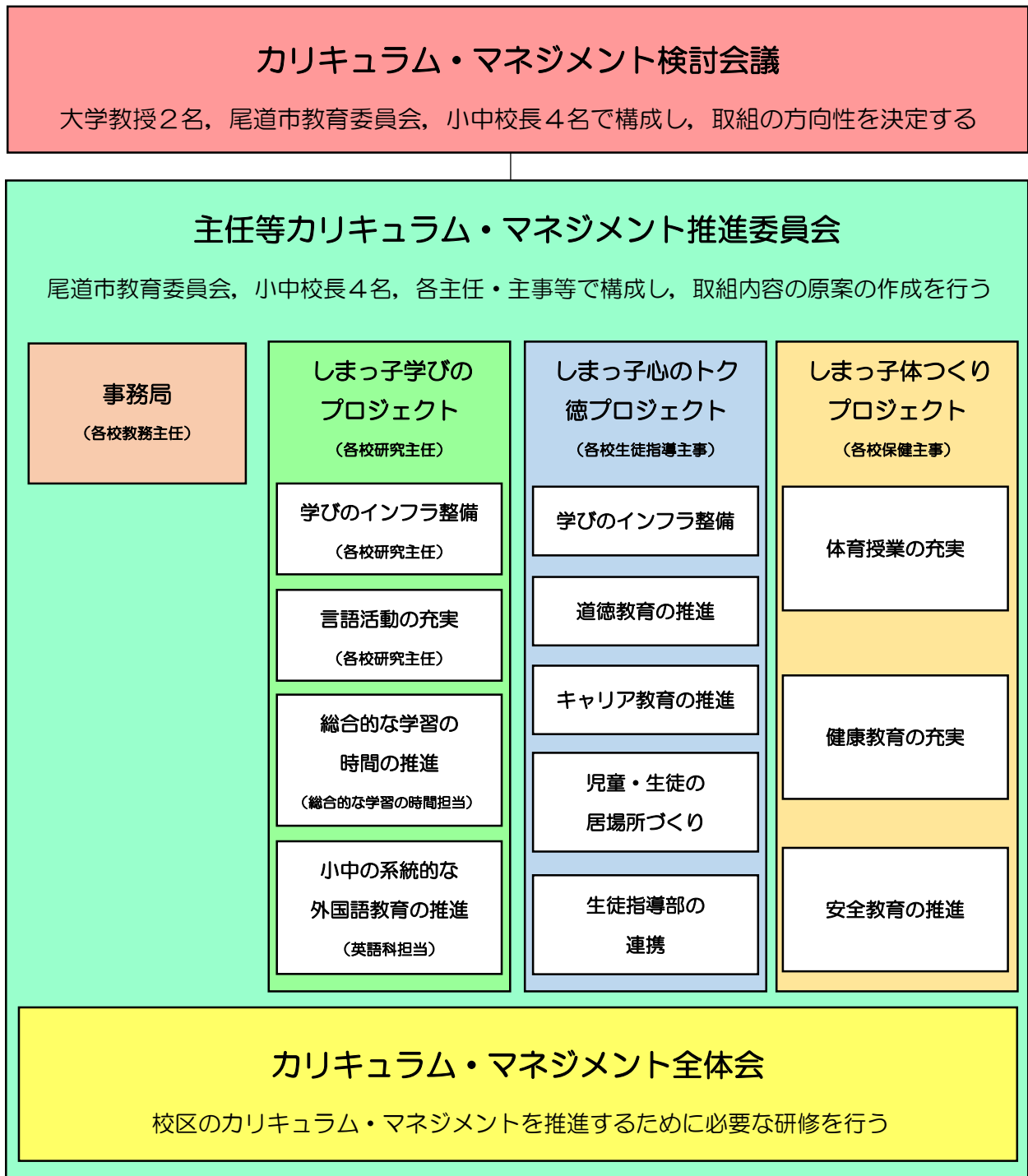
(4) 三幸小学校

選択した研究テーマ	b : 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究							
所在地	〒722-0073 尾道市向島町12617番地 電話(0848)44-0100 FAX(0848)20-6301 e-mail miyuki-e@onomichi.ed.jp							
(R2.3 現在)	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	7	
児童数	14	13	14	14	14	14	83	17

2 向島中学校区教育目標

自らの可能性を広げ 未来を切り拓いていくために
学びの主体者となる児童・生徒の育成

3 組織図



4 検討会議員とスケジュール

(1) 令和元年度

① 検討会議員

No.	氏名	所属・役職等
1	村川 雅弘	甲南女子大学 教授
2	深澤 広明	広島大学 教授
3	杉原 妙子	尾道市教育委員会 学校教育部長
4	豊田 浩矢	尾道市教育委員会 学校教育部 教育指導課長
5	石本 美喜	尾道市教育委員会 学校教育部 教育指導課長補佐兼係長
6	才谷 瑛一	尾道市教育委員会 学校教育部 教育指導課 指導主事
7	濱本 かよみ	向島中学校 校長
8	楠見 仁美	高見小学校 校長
9	本藤 展康	向島中央小学校 校長
10	土居 理恵	三幸小学校 校長

② 研究スケジュール

月	取組内容
5月	第1回カリキュラム・マネジメント推進委員会 広島大学大学院深澤教授による視察（4校）
6月	広島大学大学院深澤教授による視察（三幸小学校） 第2回カリキュラム・マネジメント推進委員会
7月	広島大学大学院深澤教授による視察（向島中央小学校） 広島大学大学院深澤教授による視察（向島中学校） 視察（IMETS フォーラム）
8月	第3回カリキュラム・マネジメント推進委員会 第4回カリキュラム・マネジメント推進委員会 先進地視察（甲南女子大学セミナー）
9月	第5回カリキュラム・マネジメント推進委員会
10月	第6回カリキュラム・マネジメント推進委員会 第7回カリキュラム・マネジメント推進委員会 視察（兵庫県小野市立河合中学校）
11月	第8回カリキュラム・マネジメント推進委員会 視察（鹿児島県鹿児島市立田上小学校）
12月	第9回カリキュラム・マネジメント推進委員会
1月	第10回カリキュラム・マネジメント推進委員会 第11回カリキュラム・マネジメント推進委員会
2月	第12回カリキュラム・マネジメント推進委員会 視察（東京都新宿区立西新宿小学校・教育課程研究協議会） 視察（京都府京都市立下京雅小学校）
3月	まとめ（中間）

(2) 令和2年度

① 検討会議員

No.	氏名	所属・役職等
1	村川 雅弘	甲南女子大学 教授
2	深澤 広明	広島大学 教授
3	杉原 妙子	尾道市教育委員会 学校教育部長
4	本安 公範	尾道市教育委員会 学校教育部 教育指導課長
5	石本 美喜	尾道市教育委員会 学校教育部 教育指導課長補佐兼係長
6	才谷 瑛一	尾道市教育委員会 学校教育部 教育指導課 指導主事
7	石川 敬一	向島中学校 校長
8	富保 直子	高見小学校 校長
9	加登谷 州章	向島中央小学校 校長
10	土居 理恵	三幸小学校 校長

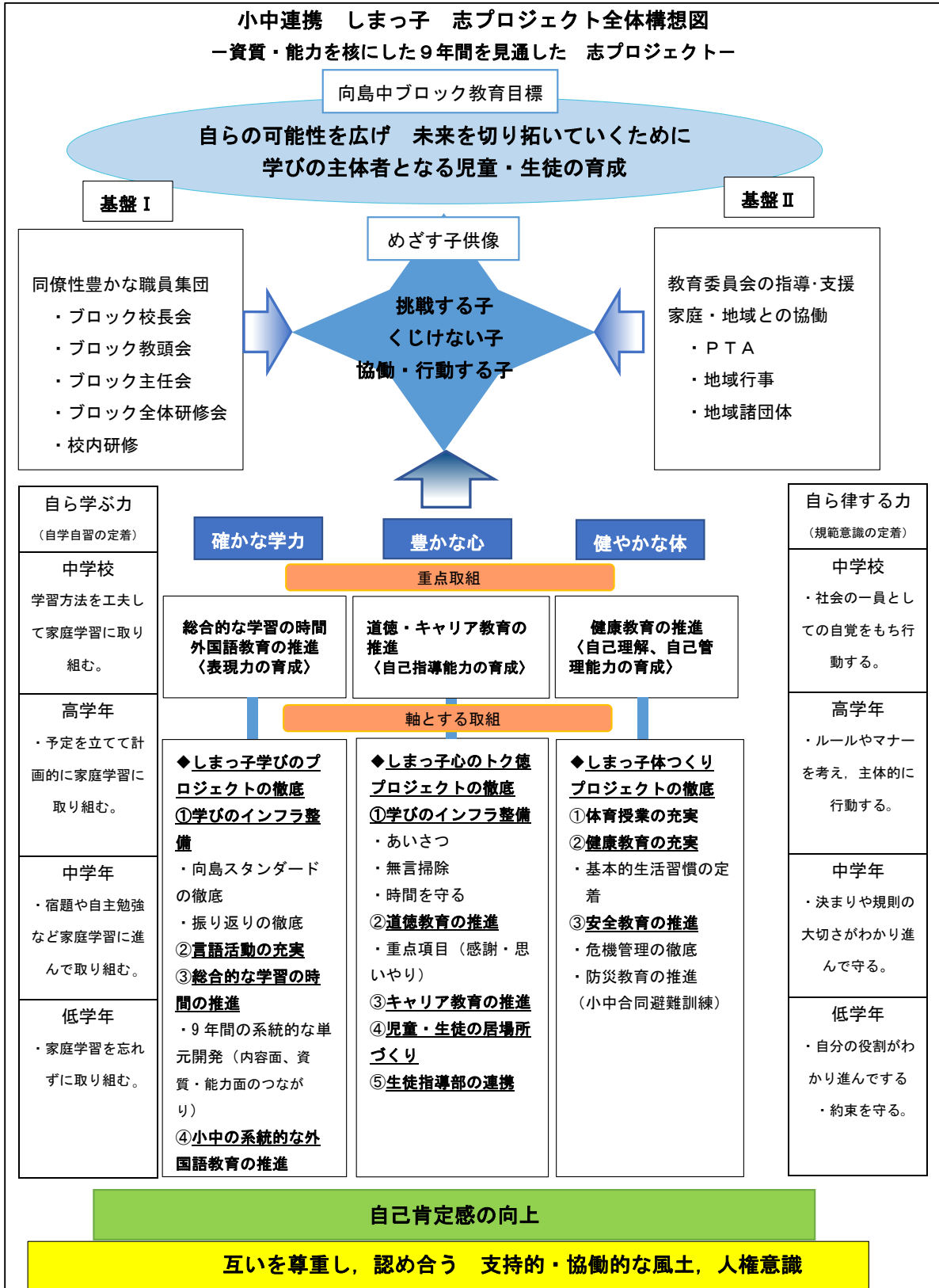
② 研究スケジュール

月	取組内容
4月	カリキュラム・マネジメント検討会議（今年度の研究の概要及び計画、「カリキュラム・マネジメントに係る手引き」作成に向けた計画等）
5月	第1回カリキュラム・マネジメント推進委員会（今年度の研究の概要及び計画，総合的な学習の時間の小中全体計画を作成する）
6月	カリキュラム・マネジメント検討会議（4校訪問）
7月	第2回カリキュラム・マネジメント推進委員会 各校で1学期の取組の評価・分析・改善を行う。
8月	カリキュラム・マネジメント検討会議（1学期の評価・分析・改善，「カリキュラム・マネジメントに係る手引き」作成に向けた計画等）を実施する。 第3回カリキュラム・マネジメント推進委員会（G Suiteを活用した授業の在り方，4校の連携方法について検討する。）
11月	第4回カリキュラム・マネジメント推進委員会（「カリキュラム・マネジメントに係る手引き」作成に向けた計画等）
12月	各校で2学期の取組の評価・分析・改善を行う。
1月	第5回カリキュラム・マネジメント推進委員会（「カリキュラム・マネジメントに係る手引き」作成に向けた計画等）
2月	各校で取組の評価・分析・改善を行う。 第6回カリキュラム・マネジメント推進委員会（「カリキュラム・マネジメントに係る手引き」作成に向けた計画等）
3月	まとめ カリキュラム・マネジメントに係る手引き完成 委託事業完了報告書等の提出

5 研究構想図等

(1) 小中連携 しまっ子 志プロジェクト

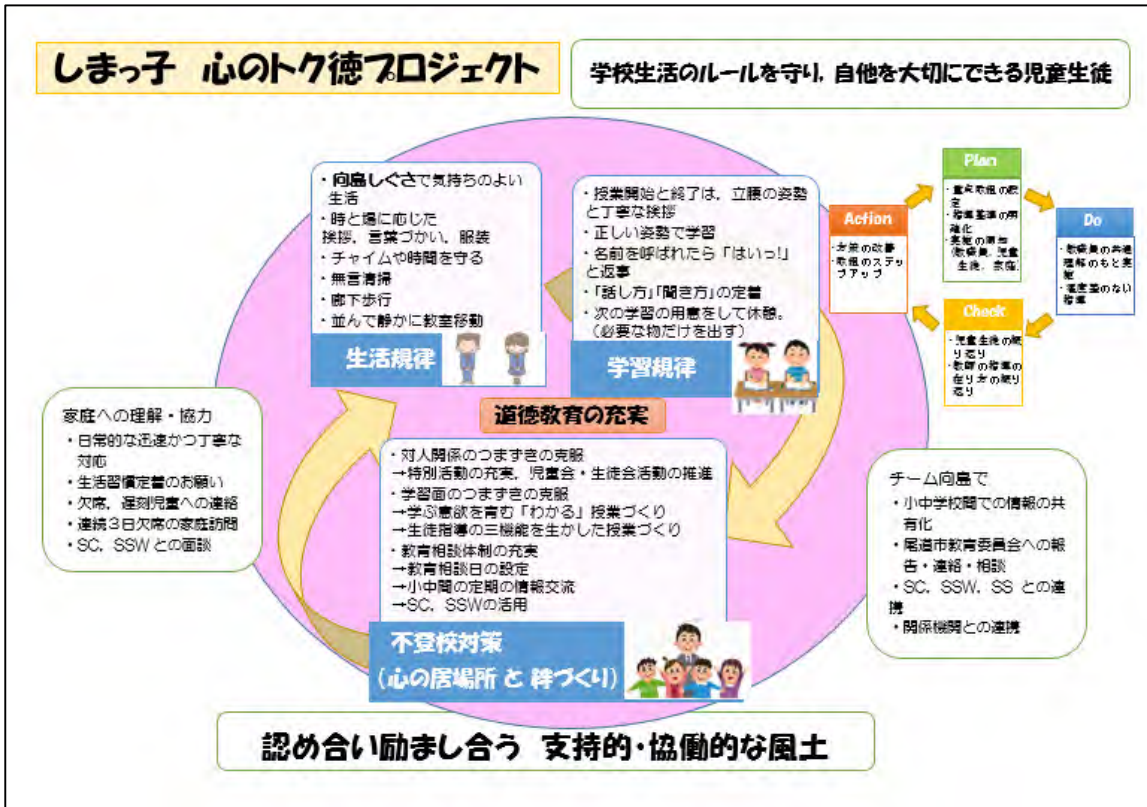
調査研究を始める以前から、小中連携を進める中で、協議を通して、全体構想図を作成した。



(2)しまっ子 心のトク徳プロジェクト

平成30年度に4校の生徒指導主事を中心に協議を行い、「しまっ子 心のトク徳プロジェクト」を作成した。

① しまっ子 心のトク徳プロジェクト (小学生)



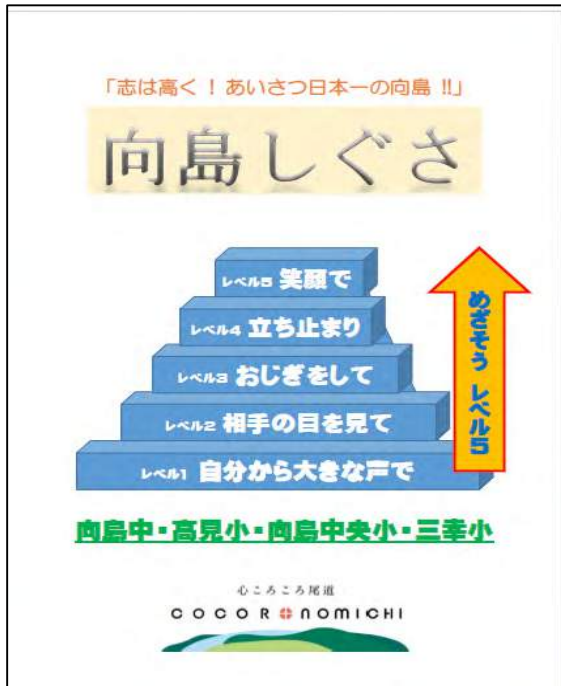
② しまっ子 心のトク徳プロジェクト (中学生)



(3)向島しぐさ しまっ子しぐさ

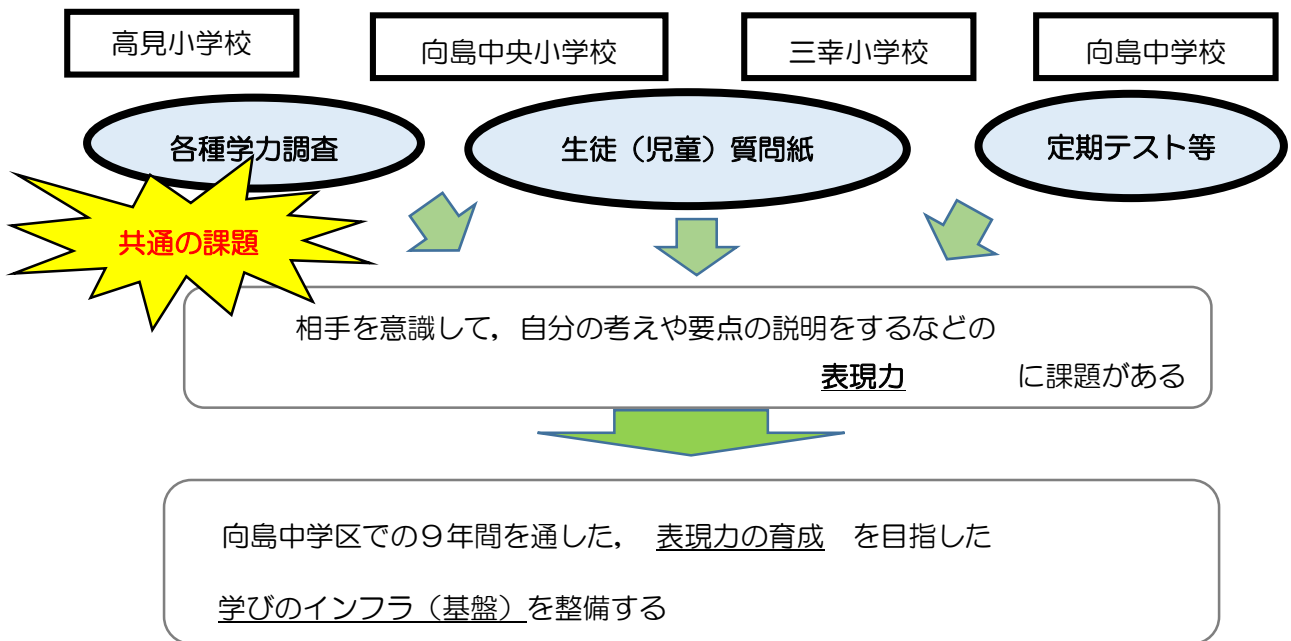
あいさつとその指導の向上を目指し、平成30年度に4校で「向島しぐさ」を作成した。

「向島しぐさ」と同じく、あいさつの向上を目的として、令和元年度に「しまっ子しぐさ」を作成した。



(4)しまっ子 学びのプロジェクト

各種調査等の結果から児童生徒の表現力を高めたいという願いから、学びのインフラを整備することを決定した。



(5) 向島スタンダード

学びのインフラの整備としてはじめに取り組んだのが、向島スタンダードの作成である。話し方、聞き方、伝え方の指導の仕方を整理し、児童生徒にも活用させた。

話し合おう！(向島スタンダード)

(レベル1) 友だちの意見につけ加え、自分の考えを持つ
 ＊つけ加えます。 ＊ほかにもあります。 ＊期待します。

(レベル2) 友だちの考えの理由をさぐる
 ＊・・・だから・・・と考えたんですね？
 ＊OOさんは・・・ということが言いたいのですね？
 ＊つまり、・・・ということですね？

(レベル3) 友だちの意見を生かしてよりよい解決方法を見つけてどうする
 ＊もっとこうすればいいんじゃないかな？
 ＊もっとかんたんになると、・・・ですね？
 ＊もし・・・だとすると、・・・ですね？
 ＊前に習ったこと、・・・が同じですね？(教えてください)

(レベル4) 合意形成に向けて自分や友だちの考えを見つめたい、広げたい
 ＊OOさんの～の考え方がすばらしいので、それを取り入れて・・・にするとういと思います。

聞き合おう！(向島スタンダード)

(レベル1) 反応しながら聞く
発言
 ＊同じです。 ＊わかりました。 ＊わたしも、そう思います。
質問
 ＊うなずく ＊首をかしげる ＊はくしめをする

(レベル2) 問いかけ
 ＊どうして・・・に思ったのですか？
 ＊・・・まではわかったけど、・・・がわからないので、教えてください。
 ＊・・・の意味がわからないので、教えてください。

(レベル3) 比べながら聞く
 ＊ちがう意見があります。
 ＊OOさんと、少しちがいます。
 ＊OOさんと、似ています。

(レベル4) 自分の考えを広げながら聞く
 ＊最初、・・・だったけれど～～のように自分の考えが変わった。

伝え合おう！(向島スタンダード)

(レベル1) はっきりとした声で話す
 ＊声のものを意識して
(レベル1) わかりやすく話す
語彙から
 ＊わたしは、・・・だと思います。
語彙を詳しく
 ＊はしめに、・・・
 ＊つぎに、・・・
 ＊さいごに、・・・

(レベル2) わかりやすく話す
理由を詳しく
 ＊わりは、・・・だからです。

(レベル3) わかりやすく話す
例をあげる
 ＊たとえば、・・・
 ＊もし・・・なら、・・・

(レベル4) 友だちの反応をたしかめながら話す
考えを深め、広げる
 ＊～～は、いいですか？
 ＊～～までで質問はありませんか？

① みんなに聞こえる声で話そう！

② 友達の話最後まで受け止めてから、自分の気持ちを伝えよう！

③ 考えが違う意見も大切にしよう！

④ 難しい問題もあきらめず協力して答えを探そう！！

目指せ！話し合いの達人★



振り返りの書き方(中学校)

① **どんなことが分かったか。どんな技能が身についたか。**
 ・授業を通して、わかったこと
 ・授業の中で、できるようになったこと

② **こんな考え方ができるようになった。**
 ・授業を通して、考えたこと
 ・授業の前と授業の後で、自分の考えが変わったこと

③ **授業で学んだことを〇〇でも使ってみよう。**
 ・もっと、〇〇について知りたいと思うこと
 ・次の授業でもっと学んでみたいこと

振り返り3つの視点

※ ①～③のうち、2つ以上の視点から振り返りを書こう。

(6) しまっ子 外国語教育 CAN-DOリスト

外国語活動、外国語を系統的に指導することができるように、「CAN-DOリスト」を作成した。

しまっ子 外国語教育 CAN-DOリスト				
中学校学習目標につづいて				
<p>●3つの「Can-Do」の達成を目標とし、積極的な英語活動を行い、3つの「Can-Do」を達成しようとする力</p> <p>●外国語を学習する意欲を高め、積極的に英語活動を行い、3つの「Can-Do」を達成しようとする力</p> <p>●外国語を学習する意欲を高め、積極的に英語活動を行い、3つの「Can-Do」を達成しようとする力</p> <p>●外国語を学習する意欲を高め、積極的に英語活動を行い、3つの「Can-Do」を達成しようとする力</p>				
学習目標達成状況の目安です				
	小1-小2	小3-小4	小5-小6	中1-中2(初)
自費中学校「ブックアップ」としての機能(実施)				
	小1-小2	小3-小4	小5-小6	中1-中2(初)
	<p>●3つの「Can-Do」の達成を目標とし、積極的な英語活動を行い、3つの「Can-Do」を達成しようとする力</p> <p>●外国語を学習する意欲を高め、積極的に英語活動を行い、3つの「Can-Do」を達成しようとする力</p> <p>●外国語を学習する意欲を高め、積極的に英語活動を行い、3つの「Can-Do」を達成しようとする力</p> <p>●外国語を学習する意欲を高め、積極的に英語活動を行い、3つの「Can-Do」を達成しようとする力</p>	<p>●3つの「Can-Do」の達成を目標とし、積極的な英語活動を行い、3つの「Can-Do」を達成しようとする力</p> <p>●外国語を学習する意欲を高め、積極的に英語活動を行い、3つの「Can-Do」を達成しようとする力</p> <p>●外国語を学習する意欲を高め、積極的に英語活動を行い、3つの「Can-Do」を達成しようとする力</p> <p>●外国語を学習する意欲を高め、積極的に英語活動を行い、3つの「Can-Do」を達成しようとする力</p>	<p>●3つの「Can-Do」の達成を目標とし、積極的な英語活動を行い、3つの「Can-Do」を達成しようとする力</p> <p>●外国語を学習する意欲を高め、積極的に英語活動を行い、3つの「Can-Do」を達成しようとする力</p> <p>●外国語を学習する意欲を高め、積極的に英語活動を行い、3つの「Can-Do」を達成しようとする力</p> <p>●外国語を学習する意欲を高め、積極的に英語活動を行い、3つの「Can-Do」を達成しようとする力</p>	<p>●3つの「Can-Do」の達成を目標とし、積極的な英語活動を行い、3つの「Can-Do」を達成しようとする力</p> <p>●外国語を学習する意欲を高め、積極的に英語活動を行い、3つの「Can-Do」を達成しようとする力</p> <p>●外国語を学習する意欲を高め、積極的に英語活動を行い、3つの「Can-Do」を達成しようとする力</p> <p>●外国語を学習する意欲を高め、積極的に英語活動を行い、3つの「Can-Do」を達成しようとする力</p>

第 2 節

カリキュラム・マネジメント推進のポイント

1 見通しを立てる

令和元年5月「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」がスタートした。4校は、これまでも毎月ブロック校長会を開催するなど、小中連携を実施してきた。しかしながら、改めてカリキュラム・マネジメントの視点で取り組んでいくためには、どうすればよいのか不安が募った。そこで、5月10日（金）、カリキュラム・マネジメント推進のポイントを学ぶため、甲南女子大学教授村川

雅弘先生を招き、第1回カリキュラム・マネジメント推進委員会を実施することにした。参加したのは、4校の校長、教務主任、研究主任である。この会を通して、カリキュラム・マネジメント推進のポイントを学ぶことができた。協議の手順や参加した先生方の感想は、次のとおりである。



(1) 協議の手順

2年間の「カリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」を進めるに当たって、最初に取り組んだことが、中学校区で育てたい資質・能力を決めることである。協議の進め方は右の通りである。

4校の教員で協議したことをマトリクスに整理し、向島中学校区で育てたい資質・能力は「主体性」「表現力」の大きく2つに絞られた。この活動を通して、4校の教員で共通認識を図るとともに、今後の取組について見通しをもつことができた。このとき、大切にすることは、各主任のリーダーシップに火をつけることである。主任がリーダーシップを発揮し、組織的に取組を進めていくことが、生徒指導、教科指導の充実につながる。

協議の手順

- ① 課題を選ぶ
- ② 原因・要因を分析する
- ③ 具体の取組を決める
- ④ 目指す児童生徒の姿を設定する
- ⑤ 評価方法と時期を決める



(2) 協議の内容



学校	長期的な取組	評価 (方法的研究)	合同
M	成果		
C			
R			
K			
T			

課題を選択し、具体的な取組や評価、評価方法を決定する

「表現力」「主体性」のほかに、「基礎学力」「意欲」「生徒指導上の課題」など、児童生徒の課題や、「指導力」「働き方」など、教職員自身の課題も挙げられた。向島中学校区の児童生徒に育てたい資質・能力は「表現力」と「主体性」に決まったが、課題には、様々な要因が関係していることが協議の中で見えてきた。評価方法としては、これまで全国学力・学習状況調査やアセス（学校環境適応感尺度）しかなく、これまでの学校の取組は評価のシステムが弱いことが分かった。日常的に評価する習慣を取り入れることがカリキュラム・マネジメントを進めていく上で重要であることが分かった。

(3) 協議を終えた感想

① 教務主任の先生方の感想

- ・地域人材が生かせていないという課題を抱えていたが、小学校では、地域人材マップを作成していることなどが交流を通じてわかった。また、共通の課題も多く中学校で抱えている課題の多くを3小学校でも同様に感じていたり、様々な取組をされていることがわかった。成果などを貼る場面があったが、どのような成果（生徒がどのように変容したか）がわかると参考になるし、本校でも取り組んでいけるのではないかと考えた。
- ・中学校区の各小中学校における課題が明確になると同時に、育てたい子供の姿も感じられた。共通して取り組むことを明確にして連携し、確認しながら、足並みをそろえて進めていきたい。
- ・学校の課題を出し合い、グルーピングしていくことで、ブロックの課題が明らかになった。本校でも、主体性などに課題が見られるので本校での取組を見直したり、新しい方法を取り入れたりすることで、改善させていきたい。課題から解決への見通しがわかりやすく参考になった。
- ・中学校区の課題について、グルーピングすることを通して、焦点化・共有化することができた。結果に対する原因や要因をしっかりと分析することが大切であると思った。成果や提案については、今までの取組の中でもやってきていることもあるので、成果が出ない部分については、指導がしきれていないのか、方法がよくなかったのか等、PDCAの中で吟味、検討していく必要があるのではと思う。形をつくって、やればよいのではなく、どのようにやると児童生徒教師にとって有意義なものになるか満足感をもてる取組にしていきたい。

② 研究主任の先生方の感想

- ・各主任でお互いの小中学校の課題を出し合う中で、中学校の課題がそのまま中学校区の課題であり、共通理解できた。児童・生徒の課題を多面的に見ることができたので参考になった。具体的にどのような取組を行うかをできるだけ早く明確化し、学校全体で取り組みたい。
- ・基礎学力、ことばの力、授業力向上など、4校で共通する課題があるということ、課題から成果、提案、評価方法をあらかじめ一覧にまとめるという研修の持ち方が参考になった。
- ・中学校ブロックの全小中校で課題を出し合い、整理した中で、改めて、実施していることの妥当性、有効性を検証する必要性を感じた。中学校に送った児童の進路保障を考える中で、本校で何を改善すべきか考えるスタートに立てたことが参考になった。具体的に何をどのようどこまで、またいつまでするかを明確にしたい。そのためのご指導をお願いしたい。働き方改革という中で、主任層への負担が増大する危険を抱えていて、その不安を払拭したい。
- ・転任してきて間もないので、“向島”の子の課題が共通的に見えてきてよかった。新たな取組が入り、多忙感だけが残ることのないようにしていきたい。本当に子どもたちのためになることプラス先生たちのためになることを見極め、取組を進めていきたい。

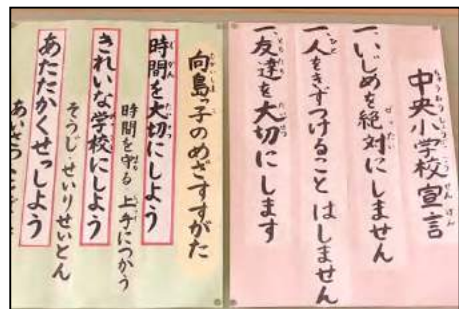
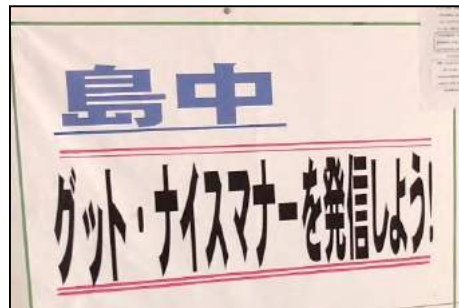
2 4校の実態を見る

マトリクスを活用した方法は、先生方にとって、とても分かりやすいものであった。課題、課題の要因、今後の取組等が明らかになるとともに、これまで慣行として行ってきた学校の取組を見直すきっかけとなった。次の推進委員会では、研究主任、生徒指導主事が、各校の話型、授業スタイル、振り返りカード、学習の約束、生徒指導規程、掃除のルールなどを持参して、さらに具体的な取組について協議することにした。

また、実際に4校の児童生徒の学習や生活の状況を見てることが大切ではないかという話になった。そこで、5月15日（水）広島大学大学院教授深澤広明先生を招いて、1日かけて4校を回っていただいた。

午前2校、午後2校、各校1時間程度訪問し、授業の様子を中心に4校の実態を把握した。

深澤教授から、「教師と児童、児童と児童の間にやりとりのある授業を大切にしていこう」「児童生徒が少しがんばれば達成できそうな学習課題を示し、教師が要求したことに対して、必ず児童生徒に評価を返すようにしていこう」などとアドバイスをいただいた。今回の訪問を通して、共通した授業の課題や4校の掲示物等の状況が確認できた。



3 具体の取組を決める

第1回カリキュラム・マネジメント推進委員会から1か月あまりが経った6月26日（水）、第2回カリキュラム・マネジメント推進委員会を実施した。研究主任は、話型、授業スタイル、振り返りカード、学習の約束を持ち寄り、協議を行った。生徒指導主事は、生徒指導規程、掃除のルールなどを持ち寄って、さらに具体的な取組について協議を行った。協議の柱は、児童生徒の「表現力」や「主体性」を育むための学習指導、生活指導の具体的な取組である。4校の生徒指導主事と研究主任の協議は白熱した。推進委員会を終えた後の感想は、次のとおりである。



(1) 生徒指導主事の先生方の感想

- ・ 小学校の取組を知れたこと、今後の取組について4校で確認することができたのはよかった。今後も取り組んだ内容を4校で集まって確認ができればと思う。今回あいさつに関する取組についてのみだったので、続けて同じ協議の柱で話し合う機会があるとよい。
- ・ あいさつについて今後取り組む際に、「あいさつをすることで〇〇な姿になる」という具体をもつことで、必然性をもたせて、取り組ませることができると感じた。子供たち一人ひとりが主体的に活動できるようにするためにも、共通理解をして進めていきたい。村川先生の最後の講話が大変参考になった。
- ・ 4校で取り組んでいることの交流ができたことで、他校でやっていることが参考になった。また本校では、「あいさつ」に取り組むことを決定していたので、4人で相談することでよりよい取組にしていけると考える。生徒指導での問題も、本校が多く抱えているので、中学校との連携をもつ機会が増えるといいと思う。
- ・ 4校で共通認識をもってあいさつに取り組むことになった。昨年度から考えていたものを使って、まずは取り組み、また見直しをしていくことが確認できた。あいさつプラス一言というように、広げていくという村川先生のことばも参考になったし、それぞれの学校であいさつができない要因の捉え方も違うということもわかった。今後の取組（1学期中）あいさつをすることのよさを児童に考えさせる。教職員がだれにでもあいさつするようにする。

(2) 研究主任の先生方の感想

- ・ 小学校でどのような視点（方法）で振り返りを行っているか参考になった。中学校では、「書く力」「読む力」が課題となっているが、小学校でも同じように課題になっている点が4校で交流する中で分かった。実際に振り返りの充実を行ってみたいの生徒児童の変容について調べていきたい。
- ・ 村川先生の話の中で、言語活動を充実させること、自分の授業をセルフチェックしていくことが、参考になった。また、三幸小では「学びのすすめ」の冊子があった。やはりあった方が特に若い先生にも子供にも良いと思った。
- ・ 振り返りの内容や記述量が他校に比べて、弱い状況にあることがわかった。小学校段階で「書く」ことに抵抗感をなくし、「書く力」として高めていけるようにしたい。思いを伝えることが「得意」な子が育つ環境をつくりたい。
- ・ 中学校から学力調査の課題を示され、読む、書くという力についてどう小学校が取り組むかについて協議した。市の大きな施策の振り返りの質的向上に鑑みた。高見小の実践をベースに話を進めた。振り返りの視点を吟味し書く力を向上させたい。中学校との連携を具体的な学力や実態をもとにしてできたと思う。本校で何を改善させるのかについてスタート地点に立てたと思う。記述式問題にどう実行していくか、まず自分でできることを早急に考え、やってみたい。

今回の協議で、生徒指導主事の先生からは、「あいさつ」を通した取組の充実による児童生徒の人間関係調整力等の育成、研究主任の先生からは、「振り返り活動」を通した取組の充実による基礎的・基本的な学力の定着と授業改善について具体的に協議できた。協議を通して、みんなで取り組んでいこうという気持ちが高まり、「共通理解」「整合性」が図れたことも大きな成果であった。学校での取組も統一したり、整合性を図ったりすることにより、より効果的に子供たちの力を育てていくことができると感じた。

4 全国学力・学習状況調査結果から児童生徒の状況を分析する



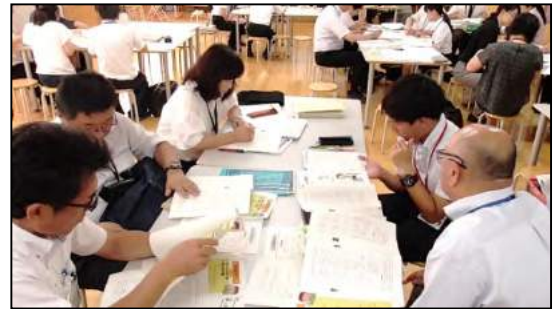
向島中学校の協議の様子



高見小学校の協議の様子

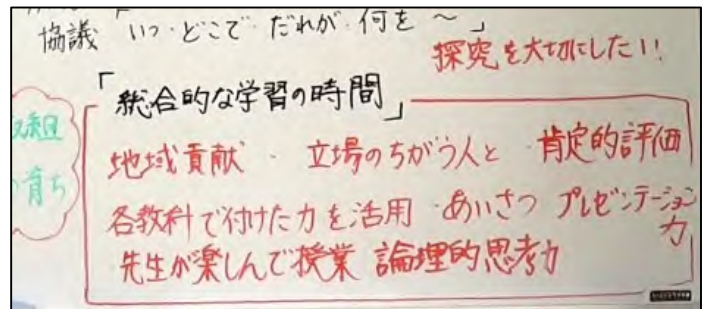


向島中央小学校の協議の様子



三幸小学校の協議の様子

例年、各校独自で全国学力・学習状況調査の分析を行っていた。今年度は、4校合同で結果分析を行った。4校の状況をお互いに知っておく方がよいからである。8月1日（木）、第3回カリキュラム・マネジメント推進委員会は、4校の全教員が集まっての大規模な会となった。



全国学力・学習状況調査から各校の課題や4校で共通する課題が見えてきた。大切なことは、課題を出して終わらないことである。見えてきた課題をもとに、「いつ」「だれが」「何を」のかを明らかにして、取り組んでいくことが大切である。今回は、総合的な学習の時間を充実させて、子供たちの力を育てていこうという意見にまとまった。総合的な学習の時間を実施する意義が一人一人の先生方に自覚された。キーワードは右の通りである。

総合的な学習の時間で大切にしたいこと

- ・ 地域貢献になるように単元を設計する。
- ・ 立場の違う人と関わる。
- ・ 肯定的評価を行う。
- ・ 各教科で付けた力を活用できるようにする。
- ・ 出会った人にあいさつをする機会を増やす。
- ・ プレゼンテーション力を育成する。
- ・ 先生が楽しんで授業研究を行う。
- ・ 論理的思考力を育てる。

5 取組と学びを共有する、総合的な学習の時間を充実させる

夏休みも終わりに近づいた8月28日(水)、第4回カリキュラム・マネジメント推進委員会を実施した。夏休み中に多くの先生が、先進地視察に行き、多くの学びを得ることができた。特に、IMETSフォーラムと甲南女子大学セミナーには多くの先生が参加し、カリキュラム・マネジメントについて学んだ。これらの学びを個人の学びで終わらせることなく、4校の教職員に還元した。IMETSフォーラムに参加した先生からは、実態把握が大切であることや小さなPDCAを回していくことの大切さについて紹介があった。甲南女子大学セミナーに参加した先生からは、学びの連続性を大切にするということについて紹介があった。



また、第2回推進委員会で生徒指導主事と研究主任が考えた挨拶や振り返り活動の取組を4校の職員に共有した。生徒指導主事の先生からは、「島っ子しぐさ」を教室に掲示し、みんなで取り組んでいくことや振り返り表を使って、子供たち自身に挨拶について振り返らせることについて提案があった。研究主任の先生からは、授業後に振り返りを行い、その時間の学びを自覚させることや聞き方を大切にした指導をしていくこと、アンケートをとって児童生徒の変容を把握することについて提案があった。2学期からの挨拶や振り返りの指導の仕方を4校の全教員でイメージすることができた。



後半では、総合的な学習の時間の単元見直しのワークショップを行った。前回の会で確認した総合的な学習の時間に大切にしたいことを意識しながら、2学期以降に実践する総合的な学習の時間の授業について交流した。多くの学校が2学期の授業公開等で今回開発(ブラッシュアップ)した単元を公開し、参加者から意見をもらう予定である。



講師の村川先生からは、「総合的な学習の時間は、課題を見つけるだけの授業ではなく、地域の宝を探して、地域活性化、地域貢献につながる学習にしていくこと」を教えていただいた。

また、協議の視点として、①探究的な(学び)課題・活動、②教科・道徳・特活・外国語活動との関連、③地域とのかかわり、④異学年・校種間連携を大切にしたい授業を目指すことを確認した。

第3回と第4回の推進委員会を通して、地域資源を活かした探究的な学習について充実させることができた。

6 研究示範授業（たつの市立新宮小学校 主幹 石堂 裕 教諭）から学ぶ

2学期がスタートし、9月18日（水）、第5回カリキュラム・マネジメント推進委員会を実施した。5月に深澤先生からご指導いただいた「教師と児童、児童と児童の間にやりとりのある授業を大切にしていこう」とい、「児童生徒が少しがんばれば達成できそうな学習課題を示し、教師が要求したことに対して、必ず児童生徒に評価を返すようにしていこう」という課題を解決していくためである。そのための示範授業を4校の教員で集まって参観することにした。向島中央小学校4年生の総合的な学習の時間の授業を公開することにした。示範授業をしてくださったのは、たつの市立新宮小学校主幹の石堂裕先生である。T2として、向島中央小学校の村上友紀先生が参加した。示範授業を実施するにあたって、夏休み中から、石堂先生には、事前に授業の相談をさせていただいた。

向島中央小学校の4年生は、9月末に社会見学で、広島市の平和公園に行くことになっていた。そこで、本時のねらいは、「平和公園がみんなに伝えたいことを探ることで、見学で確かめてくることを明確にして課題意識とその解決への意欲を高める。」に決定した。教材として、ワークシート、ふせん、朝日小学生新聞記事、「時の翼」「平和記念公園」「原爆の子の像」の写真資料を準備した。石堂先生の授業は、まさに4校の先生方が目指すべき素晴らしい授業であった。テンポのよい授業の中で、4年生の子供たちは、いきいきとして、社会見学への意欲を高めることができた。

示範授業の後、協議会でリフレクションを行った。石堂先生からご指導いただいた内容の一部は次のとおりである。

- ・本時までには子供たちが積み上げてきたものは何か明確にしておくこと。
- ・授業の導入は、児童が、何を知っていて、見たことがあるのかを切り口とすること。
- ・どんな資料をどのタイミングで渡すかが重要になってくること。
- ・情報を全部出すのではなく、探究のプロセスが動くように注意すること。
- ・支援を要する子には「テンポ」が大事であるため、教師の言葉も短い言葉で話すこと。
- ・個人思考は2～3分で、反応がなくなったら、次の手で思考させること。
- ・例えば、同心円プリントやベン図プリントなど、思考ツールを活用すること。
- ・理由をしっかりと書かせることを重視すること。
- ・学級経営と学力向上は相関関係があること。
- ・児童の学びの連続性を意識すること。つぶやきをどう拾うか。誰と対話させるのか。
- ・ルーブリックを自分たちで作らせ、評価すること。
- ・知識がないと子供は話せないため、既存の知識と新たな知識を増やすように心がけること

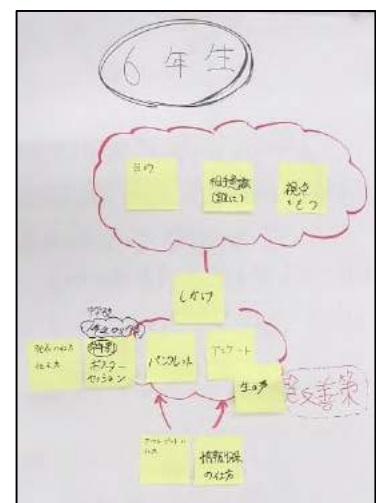
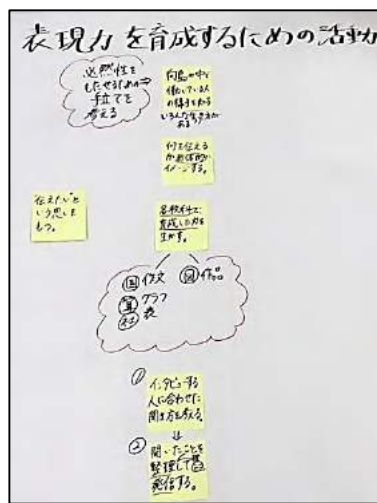
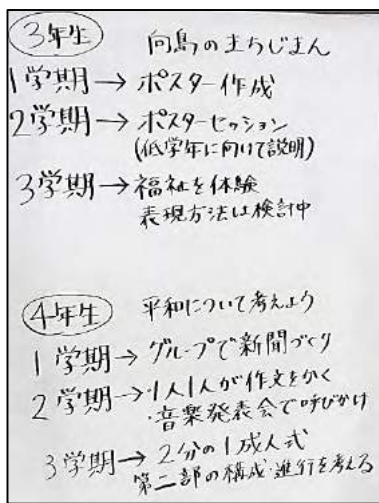
今回の推進委員会を終えて、4校の先生方は、上質な授業イメージを抱くことができた。また、夏休み中に開発、ブラッシュアップした総合的な学習の時間の授業を実践することが楽しみになった。



7 総合的な学習の時間を実践し、協議する

10月3日（木）は、向島中学校の授業公開の日であった。第4回カリキュラム・マネジメント推進委員会も兼ね、向島中学校に3小の先生方もたくさん参加した。また、他校からも参加者が集まった。各教科の授業を公開した。その中には、夏休みに協議した総合的な学習の時間の授業も公開された。

各教科等の授業公開の後、全体会では、他校の先生も交えて総合的な学習の時間の授業づくりについて協議を行った。向島中学校で作成した総合的な学習の時間の単元について評価していただくとともに、新たな視点でのアドバイスをいただいた。開発した単元をブラッシュアップするきっかけとなった。



8 カリキュラム・マネジメントに係る取組を振り返る

11月25日（月）は、第8回カリキュラム・マネジメント推進委員会を実施した。第3回、第4回の推進委員会で作成した総合的な学習の時間の単元を高見小学校で公開し、4校の職員で参観した。4校職員で授業について協議するとともに、村川先生から指導講話をいただいた。授業については、高見小学校が思考のすべてとしている比較、分類、関係付け、言語化、かかわり、これら全てを黒板に貼ることで、授業がさらに充実していくとご指導いただいた。また、資質・能力は2、3年では育たないため、長期的な指導が大切であることをご指導いただいた。

さらに、カリキュラム・マネジメントの手引きの作成については、読む人にとって読みやすいものに工夫したいことやこれまでどんな手続きを踏んできたかが分かるようにしたいこと、どのように計画したか、どのように実施したかということに記載することが大切であるとアドバイスをいただいた。



総合的な学習の時間の協議が終わった後に、これまでの調査研究（5月～11月）で行った取組について振り返った。振り返りの視点の1つ目は、「小中学校で授業を見ることについて」である。

教務主任	生徒指導主事
<ul style="list-style-type: none"> 他校の学習規律、実践のよさを取り入れることができる。自校に足りないものは何か気付くことができる。 資質・能力をもとにどのような内容に取り組んでいるか具体的にわかる。（向島スタンダードなどの活用） 他校種の先生と意見を出し合うことで自校とのつながりを意識できる。 小学校の手法を学ぶことができる。（今回なら「すべての活用」など中学校では既習事項〈手法〉としても活用できる） 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間で何について取り組んでいるかは、中学校での学びに関係するので、交流する必要がある。また、内容の質を高めるためにも授業の姿を見ることは大切。 小学校同士で授業の工夫等を共有することが可能。 小中でのつながりを意識したり、活動を考えたりしていくことができるようになっていく。 他校の取組が具体的に見える。同じ方向性を各学校独自のやり方でしているのが参考となる。 他校での実践を見ることで、研究教科以外の授業のポイントについて詳しく知ることができる。
保健主事	研究主任
<ul style="list-style-type: none"> 他の先生の授業の仕方や工夫を学び、自らに生かすことができる。 普段見られない他の学校の取組や実態を知ることができる。 小→中の学びのつながりが見えやすい。 先生とのつながりをつくることができる。日々の交流、情報共有ができる。 違う学校を見ることで、学年での様子の違いや授業の様子を見て自分の指導につなげることができる。 各学校の子供について深く知らない先生に授業を見ていただくことで取組が分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育及び総合的な学習の時間の学びをどう中学校につないでいくかの協議が必要。 総合的な学習の時間の授業を見る機会が設定でき、進め方について多少理解できた。 共通課題をもとに具体策や手立てを焦点化して協議できる。単学級編成の学校では、同学年の話ができないが、研修ではできる。

振り返りの視点の2つ目は、「学習のスタンダードを設定することについて」である。

教務主任	生徒指導主事
<ul style="list-style-type: none"> しまっ子プロジェクトとして統一したものが出来上がり、各校でそろえていくことができる。 学校3校の共有した学びのスタイルが中学校でも継続でき、学びの一貫性を図ることで児童生徒教職員にプラスをもたらす。 スタンダードを用いることで、どのレベルまですることができるようになったかを知ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じような指導をどの子にもすることができるので、中学校に入っても戸惑うことがない。 中学校区で同じ学び方をしていくことで、安心して授業を受けることができる。 4校で共通した目指す姿があることで、中学校へのギャップを減らすことができる。 他校の実態から、中学校に行くまでに自分の学校の子供たちにどんな力を付けなければならないか考えることができる。 発言や話合いの場で一人一人が発言しやすく、生きるものにしなくてはならない。
保健主事	研究主任
<ul style="list-style-type: none"> 同じ目標や基準のもとで授業を進めることで現状を確認したり、問題や改善点を見つけたりできる。 小中同じものを持ち指導することで、校種が変わっても基準が変わらず、効果的。子供が安心できる。 しまっ子プロジェクトを学校でどうやって活用しているかが見える。 	<ul style="list-style-type: none"> しまっ子プロジェクト、スタンダードが各学年、学校でどれくらい定着しているか調査したい。 何に取り組み、その進捗状況がどうであるかを確認できる。今日、4校で話し合って作成できた。

9 育てたい資質・能力や計画を見直す

3学期になり、1月8日(水)、1月21日(火)、2月4日(火)とカリキュラム・マネジメント推進委員会を3回実施した。2月には、各校で次年度の教育計画が作成される。その前に、教務主任の先生方で集まり、今年度の成果や課題を振り返って次年度に生かしていくためである。



向島中学校区で育成を目指す資質・能力 表現力 にかかる系統						
	小学校			中学校		
	1・2年	3・4年	5・6年	1年	2年	3年
表現力	自分の思いや考えをもち、順序立てて考えたことや、感じたり想像したりしたことを、日常生活における人との関わりの中で伝え合うことができる。	自分の思いや考えをまとめ、筋道立てて考えたことや、豊かに感じたり想像したりしたことを、日常生活における人との関わりの中で伝え合うことができる。	自分の思いや考えを広げ、筋道立てて考えたことや、豊かに感じたり想像したりしたことを、日常生活における人との関わりの中で伝え合うことができる。	自分の思いや考えを広げたり考えたりして、論理的に考えたことや、深く共感したり豊かに想像したりしたことを、社会生活における人との関わりの中で伝え合うことができる。		
キーワード	<ul style="list-style-type: none"> ○考えをもつ ○順序立てる ○相手意識 ・発言を受けて話をつなぐ 	<ul style="list-style-type: none"> ○考えをまとめる ○筋道立てる ・理由や根拠 ○相手意識 ・意見の共通点や相違点に着目 ○目的意識 ○場面意識 	<ul style="list-style-type: none"> ○考えを広げる ○筋道立てる ・理由や根拠 ○相手意識 ・相手の反応を踏まえる ・他者の考えと比較、批判的検討 ○目的意識 ○場面意識 	<ul style="list-style-type: none"> ○考えを広げ、深める ○論理的に ・根拠の的確さ ・相手を説得できる論理の展開 ○相手意識 ・立場や考えを尊重、合意形成 ○目的意識 ○場面意識 		

低学年	中・高学年				
伝え合おう！(向島スタンダード)	伝え合おう！(向島スタンダード)	伝え合おう！(向島スタンダード)	伝え合おう！(向島スタンダード)	伝え合おう！(向島スタンダード)	伝え合おう！(向島スタンダード)

育成を目指す「表現力」にかかる系統表

まずは、今年度作成した向島スタンダード等の取組の進捗状況について交流した。難しかったことは、作成した後に、どのように活用していくかということである。向島スタンダードを効果的に活用している学校のアイデア等を共有した。次に、育成する資質・能力を具体的にしていくことが必要という意見が出た。そこで、系統表を作成し、今後、各学校における指導で活用できるように協議を行った。さらに、次年度に各校で取り組む内容について確認した。

第3章

カリキュラム・マネジメントの実践例

＜資質・能力育成 実践編＞

1 学校の教育目標等の設定のために

(1) 学校教育目標の設定

小学校学習指導要領解説総則編では、「教育課程の編成に当たっては、学校教育全体や各教科等における指導を通して育成を目指す資質・能力を踏まえつつ、各学校の教育目標を明確にする」と示している。

本校の学校教育目標は、「心豊かで 確かな力を持ち たくましく生きる子どもの育成」である。何十年も前から目標であると推測される。令和2年度の学校教育目標の設定に当たっては、その伝統を踏まえ、時代の移り変わりにおいても、「心豊か」「確かな力」「たくましく生きる」というキーワードが示す子供像が、どうあるべきかを見据えていくことが大切であると考え、学校教育目標は変更せず、その達成に向けて育成すべき資質・能力を位置付けることとした。

本校の学校教育目標に関する実態や思い等

- ・これまで学校教育目標設定等について全体で協議や検討をする機会はなかった。
- ・設定の経緯(時, 込められた思い)が不明である。
- ・継続している意義や伝統がある。
- ・「徳・知・体」を軸にしていると考えられ、時を超えて当てはまる。
- ・具体性を有しているとはいえ、言葉からイメージする児童像も多様である。

アクションプラン

- ・長期的な視野を踏まえ、学校教育目標は継続する。
- ・「心豊か」「確かな力」「たくましく生きる」が示す児童像を児童や学校、地域の実態から考え、具体化する。

(2) 資質・能力の設定

① 資質・能力のとらえ直し

平成31年度に設定した資質・能力(回復力, 創造力, 協働力)について、児童の実態から成果と課題を整理し、学校教育目標の実現に向けて、資質・能力をとらえ直した。

研修のねらい	主な内容
<p>令和2年1月9日, 10日</p> <p>Check Action Plan</p> <p>学校教育目標に示された子供の姿, 育てたい資質・能力について, 具体的に言語化し, イメージを可能な限り共有する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校教育目標に示された子供の姿を具体的にする。 2 資質・能力に分類する。(必要に応じ資質・能力を見直す) 3 資質・能力に分類した具体的な子供の姿を3つに絞る。 4 低・中・高の系統を明らかにする。

学校教育目標 「心豊かで 確かな力を持ち たくましく生きる子どもの育成」		
① 徳力 (徳)	② 知識・技能 (知)	③ 身体・運動・健康 (体)
④ 協働力	⑤ 創造力	⑥ 回復力
特に育てたい姿	⑦	⑧
⑨	⑩	⑪
系統別	⑫	⑬
⑭ 低	⑮ 中	⑯ 高
⑰ 低	⑱ 中	⑲ 高
⑳ 低	㉑ 中	㉒ 高



そして、次のように、令和2年度（案）として整理した。

心豊か	確かな力を持ち	たくましく生きる
気付く力	つかう力	挑戦する力
①身近な物事に触れて、感謝・感動することができる。 ②思いやりをもって人とかかわることができる。 ③自分を大切にできる。	①基礎・基本の学力が身に付いている。 ②学習したことを生活に生かしている。	①目標に向かって前向きに努力できる。 ②気持ちを切り替えて立ち上がることができる。

② 資質・能力の系統化

令和2年度4月、昨年度（案）を踏まえ、新たなメンバーで、本校児童に付けたい資質・能力を「気付く力」「つかう力」「挑戦する力」とすることを確認した。

その際、低・中・高の系統を明らかにするとともに新学習指導要領が示す三つの資質・能力の柱を整理した。

	気付く力	つかう力	挑戦する力
低学年 主観的	①「ありがとう」「すごい！」にたくさん出会う。 ②ふわふわ言葉で友達に優しくする。 ③自分のことを知る。 (好きなことや苦手なこと)	①既習事項をつかって考える。 ②身の回りから学習したことを見つける。	①(与えられた)目標に向かって楽しんで頑張ったりすることができる。 ②最後までやり切ることができる。
中学年	①身の回りのことに感謝する。 ②相手の気持ちを想像できる。 ③自分のよさに気付く。	①共通点や差異点をとらえて考える。 ②生活の中の物事を学習と結び付けて考える。	①自分に合ったちょっと難しい目標に向かって頑張ることができる。 ②(落ち込みそうになっても)その態度自分で考え、振り返りながら、目標を目指すことができる。
高学年 客観的	①感謝や感謝の気持ちを学校や地域へ広げることができる。 ②地域の人へ優しくできる。 ③自分に自信をもち、よさを伸ばす。	①よりよい方法を選択したり、工夫したりして考える。 ②学んだことを生活の中で応用し、課題解決につなぐ。	①探究心をもって創造することができる。 ②目標一歩振り返りと、目標が達成できるように自分でサイクルをまわすことができる。

2 学校の教育目標等の実現のために

(1) 学校評価表の活用 資料 1

学校教育目標の具現化に向けては、学校評価表の活用が有効であると考え、短期経営目標や方策等に本校で育成すべき資質・能力に係る項目を位置付けることで、全ての教職員が意識して取組を進め、実現状況を共有できるようにした。

学校教育目標
心豊かで 確かな力を持ち たくましく生きる 子どもの育成
○感謝・感動することができる (気付く力)
○学んだことを生かすことができる (つかう力)
○くじけず、目標に向かって努力できる (挑戦する力)
ミッション
組織的な学校経営を確立するカリキュラム・マネジメントの推進
ビジョン
学校は面白いところ！子供達を「つなぐ」教育活動の創造



	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策
への挑戦 新たな学び	【確かな学力の育成】 主体的な学びが育まれる学校 風土の醸造	育成すべき資質・能力 (気付く力・つかう力・挑戦する力) を意識した授業づくり	・カリキュラム・マップを活用した教科横断的な視点での課題発見・解決学習の推進
指導の推進 積極的生徒	【豊かな心力の育成】 子供達の笑顔と温かな空気があふれる学校の創造	育成すべき資質・能力 (気付く力・つかう力・挑戦する力) を意識した仲間づくり	・縦割り掃除と縦割り活動を通じた異学年交流の充実 ・外遊びを中心にした体力づくり、仲間づくりの推進

(2) 確かな学力の育成 ～育成すべき資質・能力を意識した授業づくり～


小学校学習指導要領解説総則編では、総合的な学習の時間の特質が学校の教育目標の実現に生かされるようにしていくことが重要であると示している。

平成31年度（令和元年度）の教科研究の取組を通して、教科等横断的な視点での学びが十分でなく、各教科及び総合的な時間の学習での学びが学校教育目標の実現、資質・能力の育成につながっていないことが課題として明らかになった。そこで、令和2年度は、資質・能力を「学びでつなぐ」ことを意識し、「新教育課程におけるカリキュラム・マップの作成・活用、評価改善」、「算数科、総合的な学習の時間、道徳科を核にした教科等横断的な学びの推進」を重点に置き、次の内容で研修を実施し、検証・改善を図った。

実態	<ul style="list-style-type: none"> 教科等を横断した学びを、資質・能力の育成や学校教育目標の実現につなぐという視点をもてていない。 総合的な学習の時間と各教科等の関連（資質・能力面、教科の見方や考え方の活用等）を意識した取組に至っていない。 活動に意欲を示すが、探究的な学びのよさを理解し、実感している児童は少ない。
アクションプラン	<ul style="list-style-type: none"> 本校で設定した資質・能力でつなぐカリキュラム・マップの作成・活用 教科等横断的な学習の推進、総合的な学習の時間の研究授業の実施→教師の意識向上、取組の充実 総合的な学習の時間の単元開発（実社会や実生活の中から問いを見出し、課題追究へ）

① 令和2年度の研修内容

研修のねらい	内 容
4月9日 Plan ○ 本校で育成を目指す資質・能力の系統を共有する。 ・学習規律等について共通理解を図る。 ・総合的な学習の時間の全体計画、単元計画を確認し、探究的な学習の見通しやイメージをもつ。	1 育成を目指す資質・能力の共有 2 全教科等年間指導計画に、各教科等で習得した知識・技能を探究的な学習に活用できるよう、矢印⇄でつなぐ。
4月23日（臨時休業中） Plan ○ 教科等を貫いて資質・能力を育成することができるようにするために、育てたい資質・能力を軸としたカリキュラム・マップをつくる。	1 学年部でカリキュラム・マップの作成
5月21日（臨時休業中） Plan ○ 資質・能力の育成を目指した授業づくりに向けて、学習指導案の共通理解を図る。 ○ 教科等横断的な視点での資質・能力の育成に向けて、各教科等の重点単元における資質・能力が発揮された児童の姿を明確にする。	1 学習指導案形式の共通理解 2 資質・能力の具体化 3 重点単元における資質・能力が発揮された児童の姿の明確化
6月18日 Plan Check ※ サテライト講座 （講師：広島県立教育センター指導主事）	「カリキュラム・マネジメント」講座 1 カリキュラム・マネジメントの基礎・基本 2 【演習】「育成を目指す力」を軸にした単元構想
6月25日 Check Action Plan ○ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、児童ノートを交流・評価することを通して授業改善に生かす。	ノート実態交流 1 児童ノートやワークシートの教師間交流 2 思考・表現する場面の有効性（自らの考えを広げ深めているかどうか）の検証 3 思考過程や振り返りの記述内容を分析・評価

<p>7月16日 Check Action Plan</p> <p>○ 教科等横断的な視点での資質・能力の育成に向けて、資質・能力が発揮された児童の姿の達成状況を検証し、今後の取組の改善を図る。</p>	<p>カリマネ検証</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 資質・能力の達成状況を検証 2 今後の取組の改善について検討 																																																																																				
<p>7月30日 Check Action Plan</p> <p>○ 1学期の取組を振り返り、成果と課題を明らかにするとともに、2学期への見通しをもつ。</p>	<p>学校評価表に基づく1学期の取組の検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・マップを活用した教科等横断的な視点での課題発見・解決学習の推進 ・学期末テスト（算数）の正答率80%以上の児童の割合 ・振り返りの視点に沿った記述が概ねできている児童の割合 目標値70%以上 ・資質・能力（気付く力、つかう力、挑戦する力、表現力）に係る児童の変容 																																																																																				
<p>8月4日(夏季休業中) Check Action</p> <p>○ 育成を目指す資質・能力の系統表に基づき、達成の進捗状況を見取る。</p>	<p>カリマネ進捗状況（概ね達成できた児童の割合）の評価</p> <table border="1" data-bbox="853 757 1337 1025"> <thead> <tr> <th></th> <th>気付く力</th> <th>つかう力</th> <th>挑戦する力</th> <th>表現力</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>算数</td> <td>😊😊😊😊😊</td> <td>😊😊😊😊😊</td> <td>😊😊😊😊😊</td> <td>😊😊😊😊😊</td> </tr> <tr> <td>国語</td> <td>😊😊😊😊😊</td> <td>😊😊😊😊😊</td> <td>😊😊😊😊😊</td> <td>😊😊😊😊😊</td> </tr> <tr> <td>英語</td> <td>😊😊😊😊😊</td> <td>😊😊😊😊😊</td> <td>😊😊😊😊😊</td> <td>😊😊😊😊😊</td> </tr> <tr> <td>総合</td> <td>😊😊😊😊😊</td> <td>😊😊😊😊😊</td> <td>😊😊😊😊😊</td> <td>😊😊😊😊😊</td> </tr> <tr> <td>道徳</td> <td>😊😊😊😊😊</td> <td>😊😊😊😊😊</td> <td>😊😊😊😊😊</td> <td>😊😊😊😊😊</td> </tr> <tr> <td>体育</td> <td>😊😊😊😊😊</td> <td>😊😊😊😊😊</td> <td>😊😊😊😊😊</td> <td>😊😊😊😊😊</td> </tr> <tr> <td>音楽</td> <td>😊😊😊😊😊</td> <td>😊😊😊😊😊</td> <td>😊😊😊😊😊</td> <td>😊😊😊😊😊</td> </tr> <tr> <td>美術</td> <td>😊😊😊😊😊</td> <td>😊😊😊😊😊</td> <td>😊😊😊😊😊</td> <td>😊😊😊😊😊</td> </tr> <tr> <td>保健</td> <td>😊😊😊😊😊</td> <td>😊😊😊😊😊</td> <td>😊😊😊😊😊</td> <td>😊😊😊😊😊</td> </tr> <tr> <td>生活</td> <td>😊😊😊😊😊</td> <td>😊😊😊😊😊</td> <td>😊😊😊😊😊</td> <td>😊😊😊😊😊</td> </tr> <tr> <td>外国語</td> <td>😊😊😊😊😊</td> <td>😊😊😊😊😊</td> <td>😊😊😊😊😊</td> <td>😊😊😊😊😊</td> </tr> <tr> <td>キャリア教育</td> <td>😊😊😊😊😊</td> <td>😊😊😊😊😊</td> <td>😊😊😊😊😊</td> <td>😊😊😊😊😊</td> </tr> <tr> <td>総合的な学習の時間</td> <td>😊😊😊😊😊</td> <td>😊😊😊😊😊</td> <td>😊😊😊😊😊</td> <td>😊😊😊😊😊</td> </tr> <tr> <td>特別活動</td> <td>😊😊😊😊😊</td> <td>😊😊😊😊😊</td> <td>😊😊😊😊😊</td> <td>😊😊😊😊😊</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>😊😊😊😊😊</td> <td>😊😊😊😊😊</td> <td>😊😊😊😊😊</td> <td>😊😊😊😊😊</td> </tr> </tbody> </table> <p>改善に向けてのキーワード</p> <table border="1" data-bbox="890 981 1337 1025"> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		気付く力	つかう力	挑戦する力	表現力	算数	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	国語	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	英語	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	総合	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	道徳	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	体育	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	音楽	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	美術	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	保健	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	生活	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	外国語	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	キャリア教育	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	総合的な学習の時間	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	特別活動	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	その他	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊				
	気付く力	つかう力	挑戦する力	表現力																																																																																	
算数	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊																																																																																	
国語	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊																																																																																	
英語	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊																																																																																	
総合	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊																																																																																	
道徳	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊																																																																																	
体育	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊																																																																																	
音楽	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊																																																																																	
美術	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊																																																																																	
保健	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊																																																																																	
生活	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊																																																																																	
外国語	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊																																																																																	
キャリア教育	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊																																																																																	
総合的な学習の時間	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊																																																																																	
特別活動	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊																																																																																	
その他	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊																																																																																	
<p>10月29日 Check Action Plan</p> <p>○ 資質・能力の育成に向けた取組の進捗状況を確認し、改善を図る。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童の姿や指導の在り方について、学年部で前回（7月段階）と比較し振り返る。 2 カリキュラム・マップへ加筆・修正を行う。 																																																																																				
<p>11月12日 Check Action Plan</p> <p>○ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、児童ノートを交流・評価することを通して授業改善に生かす。</p>	<p>ノート実態交流</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 児童ノートやワークシートの教師間交流 2 思考・表現する場面の有効性（自らの考えを広げ深めているかどうか）の検証 3 思考過程や振り返りの記述内容を分析・評価 																																																																																				
<p>12月17日 Check Action Plan</p> <p>○ 教科等横断的な視点での資質・能力の育成に向けて、資質・能力が発揮された児童の姿の達成状況を検証し、今後の取組の改善を図る。</p>	<p>カリマネ検証</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 資質・能力の達成状況を検証 2 今後の取組の改善について検討 																																																																																				
<p>令和3年1月21日 Check</p> <p>○ 振り返りの記述が概ねできていると評価した児童の記述内容を分析し、振り返りの指導の在り方について共有する。</p>	<p>ノート実態交流</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 記述内容を分析・評価 2 成果の共有 																																																																																				
<p>2月4日 Check Action</p> <p>○ 来年度に向けた資質・能力の系統性の整理を行い、教職員間の共通意識を高める。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 本年度の資質・能力の整理 2 グループ協議 3 発表 																																																																																				

② カリキュラム・マップの作成、活用、評価・改善

教科等を貫いて資質・能力を育成することができるようにするために、育てたい資質・能力を軸に関連する学習を線でつなぎ視覚化した。職員室に掲示することで、全学年の進捗状況の見える化と随時加筆修正ができるようにした。

4月9日 研修

Plan

4月23日 研修

人間性等、 気付く力、	知識及び技能、思考力、判断力、表現力等、 つかう力、	学びに向かう力 人間性等、 挑戦する力、
①身近な物事に触れて、感謝・感動することができる。②思いやりをもって人とかわることができる。③自分を大切にできる。④	①基礎・基本の学力が身に付いている。②学習したことを生活に生かしている。	①目標に向かって前向きに努力できる。②気持ちを切り替えて立ち上がることができる。

カリキュラムマップの作成

気付く力 つかう力 挑戦する力

資質・能力で教科をつなぐ学習の推進

Do

随時 加筆修正

Check

系統表

学年	気付く力	つかう力	挑戦する力
低学年	①「ありがとう」「すごい」にたくさん出会おう。②ふわふわ言葉で友達に楽しそうにする。③自分のことを知る。(すきなことや得意なこと)	①既習事項をつかって考える。②身の回りから学習したことを見つける。	①(与えられた)目標に向かって楽しんだり頑張ったりすることができる。②最後までやり切ることができる。
中学年	①身の回りのことに感謝する。②相手の気持ちを想像できる。③自分のよさに気付く。	①共通点や差異点をとらえて考える。②生活の中の物事を学習と結びつけて考える。	①自分に合ったちょっと難しい目標に向かって頑張ることができる。②(落ち込みそうになっても)その都度自分で考え、振り返りながら、目標を目指すことができる。
高学年	①感動や感謝の気持ちを学校や地域へ広げることができる。②地域の人へ優しくできる。③自分に自信をもち、よさを伸ばす。	①よりよい方法を選択したり、工夫したりして考える。②学んだことを生活の中で応用し、課題解決につなぐ。	①探究心をもって創造することができる。②目標→頑張る→振り返り→目標が達成できるように自分でサイクルをまわすことができる。

5月21日 研修

Plan

Check

Action

7月16日, 12月7日 研修

資質・能力が発揮された児童の姿を具体化した。 → 達成できた児童の割合を出し、成果と課題を確認した。

教科等横断的な視点での資質・能力の育成

質 量 報 表

1年

3年

学期	資質・能力	教科等横断	単元(教科)名 学校行事等	資質・能力が発揮された児童の姿 ～できる。～している。	履修達成できた児童の割合 (%)	
					1年	2年/3年
1	2	生活科	げんきにそでわたしのはな	咲いた花の数を数えたり、記録したりしている。	73	64 / 79
		算数	あわせていく ふえるといくつ	日常の事象や経験をもとに、自分で場面を考えてお話をづくり、説明している。	79	42 / 39
		成果・課題	あさがおの花がいくつさいているか関心をもち観察しているが、記録を継続できていない児童がある(個人差が大きい)。毎朝、記録する時間を取る。算数科の用語づくりにあさがおの花が関に合わなかったため、教科書の資料をもとに問題づくりをした。			

学期	資質・能力	教科等横断	単元(教科)名 学校行事等	資質・能力が発揮された児童の姿 ～できる。～している。	履修達成できた児童の割合 (%)	
					1年	2年/3年
2	2	国語	読みたいな、わたしの好きな時間	相手を見て選んだり選りわけている。	83	75 / 79
		国語	パラリンピックが目標のよき	目的を定めて、中心となる語や文を見つけて整理している。	58	53 / 55
		総合	両島・両道～町のやさしさ発見～	図や表を読み取って、わかりやすくまとめ、発表している。【まとめ・発表】	48	53 / 55
成果・課題			「読みたいな、わたしの好きな時間(国語)」が新たにつかう力として使われていた。パラリンピック「目的を定めて、中心となる語や文を見つけて整理している。」			

6月18日 研修

本校で育成を目指す資質・能力の「気付く力」(人間性等)と「挑戦する力」(学びに向かう力、人間性等)について、講師の指導・助言の下、評価の観点(主体的に学習に取り組む態度)に照らして整理し、捉えることとした。

また、教科等横断的な資質・能力として教科で育成できる資質能力であるなら、教科学習として、しっかり行うことが重要であり、それと汎用的な資質・能力とは異なることを確認した。

【悩み】

- 学校で育成を目指す資質・能力と、教科で育成を目指す資質・能力との関係がはっきりしない。

【解決方法】

- 学校で設定した資質・能力が、学習面において児童のどのような姿をイメージしているのか整理する。
- 教科で育成する資質・能力は、教科の学習で確実に身に付けさせる。

【気付く力】

「向社会的な学習意欲」

- ①クラスの人と協力して学んでいる(協力)
- ②クラスの人と助け合いながら学んでいる(助け合い)
- ③やればできるとして学んでいる(効力感)

【挑戦する力】

低学年「内発的な学習意欲」が中心

- ①興味・関心をもっておもしろく学んでいる(興味・関心)
- ②楽しく学んでいる(楽しさ)

高学年「自己実現への学習意欲」

- ①目標をもって学んでいる(目的・目標・意図)
- ②自己調整して学んでいる(自己調整)
- ③努力している(努力)
- ④粘り強く学んでいる(粘り強さ)

『指導と評価』(2020.6)『主体的に取り組む態度』をどうとらえるか。(標準意識)を基に作成

8月4日 研修

Check

Action

学年部で、育成を目指す資質・能力の達成状況を見取り、改善点を考えた。今後の取組をキーワード化し、確認した。

資質・能力定着度バロメーター



		気付く力 😊	つかう力 😊	挑戦する力 😊	表現力 😊
3年	良かった点	生き物の飼育を通して生命に感動することができた。総合の町探検で地域の人に感謝することができた。マスクや飲料水などの寄付を通して、感謝することができた。	授業中に「比べる」機会を多く設定し、そこから児童が共通点や差異点を見つけていくことができた。各教科同士の学びをつなげたり、道徳での学びを生かして日常生活の自分を振り返りやすくなった。	学級でうまくいかない事案が起きた時に、建設的な意見を出して解決しようとするのができた。	意見と理由を合わせて発表することができた。
	改善点	自分自身への気づきが弱かった。振り返りの形は分かっているが、どのような内容がよりよいのかわからない。⇒教師が何を振り返らせたいのかわかりやすくイメージをもって書く内容を指導していく。	新学習指導要領に沿った授業づくりができていなかった。⇒教師が児童に何の力をつけたいのかわかりやすく明確にしよう。	自分でうまく目標が設定できず、PDCAのサイクルが回っていかなかった⇒短いサイクルで回していく。自分を客観的に見るように振り返りをする。(気付く力との関連)	相手意識をもった発表ができていなかった。⇒場の設定、話し合いの型の学習(役割分担、言葉遣いなど)

キーワード

自己分析

付けたい力

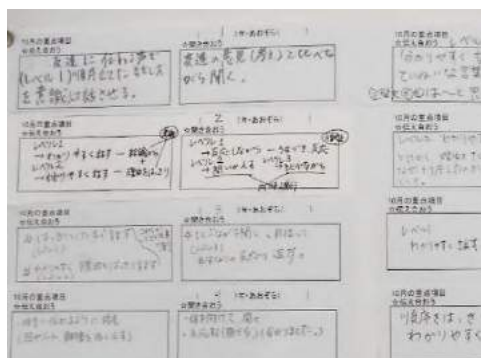
振り返り

場の設定

中学校区で目指す「表現力」の育成に向けて

【向島スタンダードの活用】

表現力については、向島中学校区共通の課題であり、その克服に向け、中学校区で作成した「話し合い・伝え合い・聞き合い」の話型を活用し、各学年で目標レベルを決めて習得に取り組んだ。月1回、暮会時に各学年の取組状況を交流する場を設け、有効である手立てを共有し、指導の改善を図った。



【児童ノート交流の実施】

学期に1回、ノート交流の研修を設定し、学習中の児童の考えや、学習の終わりに書かせる振り返りの記述から、教師が児童の理解度や学習に向き合う態度などを見取り、授業改善の視点をもった。

6月25日 研修

研修（児童ノート交流）



児童ノート

Check

Action

振り返りの視点



Do



11月12日 研修

Check

Action

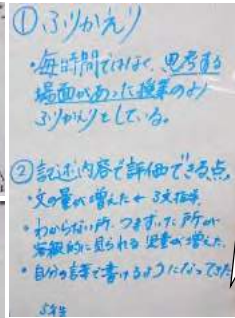
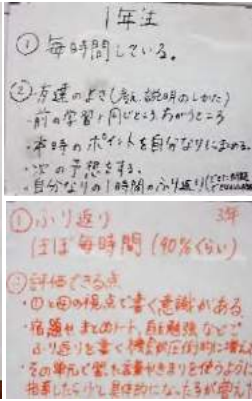
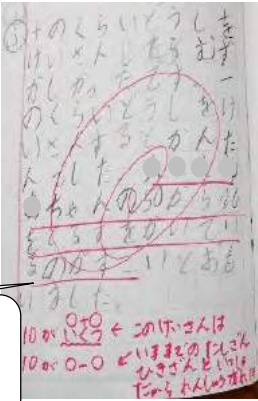
(成果○ 課題● →今後の手立て)

1年	<ul style="list-style-type: none"> ○全員が毎時限の振り返りを書くことが満ち満ちしている。(豊前) ○友達の良い考えに気づいた振り返りを書くようになってきた。 ○つかった考えをもとに、振り返りを書いている。 ●振り返りの内容に個人差がある。 → 参考になる振り返りを紹介する。 → 友達同士で振り返りを交流する。 → 振り返りの視点を与える。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ○友達の良い考えや教えたもらった経験から書ける児童が増えた。 ○分かったことやできたことをもとに自分なりにまとめる子もいる。 ●課題がある児童は、感想だけになることが多い。 → 思っているも書けない子がいる。 → 「〜が分かった」+aが書けない子がいる。 → 「〜が〜な」考えさせる。 → 振り返りを紹介して考えを広げたり価値づけたりする。 ●振り返りの時間の確保 → 時間をとる。時間を考えて授業を進める。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○振り返りの①の視点に沿って自分の言葉も付け加えながらまとめられる児童が増えた。 ○自力解決で、図をかいたりポイントを抜き出して付けて足したりなど、書き方の幅が広がった。 ●①以外の視点で書くことが少ない。「つかう」気持ちや他教科や生活と具体的につながらない。 ●表現や書く量の個人差がある。 → 友達の良い考えも付け足せる時間をとる。 → 算数の言葉やキーワードを自立させて、振り返りでも使えるようにする。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ○振り返りで、「まとめ」を丸写しする児童が減ってきた。 ○「振り返りを必ず書く」意識が、教師も児童も向上した。

令和3年1月21日 研修



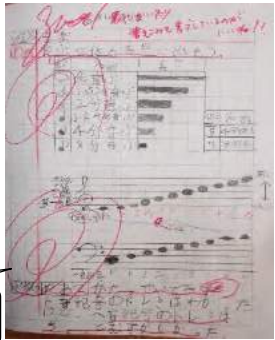
1年生も振り返りの視点に沿って、しっかりと書く児童が増えた。



①振り返りの頻度、②記述内容で評価できる点を交流し、継続した振り返り指導による成果を共有した。

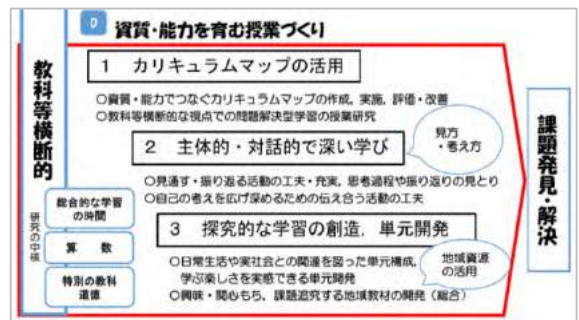
振り返りについては、毎時間や単元で重点とする時間、単元後のまとめで書く時間を設定したり、宿題や自主学習においても自分でめあてや振り返りを書かせたりするなど、振り返りを通して自己の学びに向き合い、「挑戦する力」を育む工夫が見られた。教師も各学年の取組から、指導のよさを取り入れていくことができた。

自主学習ノートを取組



③ 教科等横断的な学びの推進

平成31年度（令和元年度）は、算数科を中心に教育研究を進めた。令和2年度は、研究主題を「自ら考え伝え合い、学びを深める児童の育成～資質・能力を育む課題発見・解決学習の授業づくりを通して～」と設定した。算数科、総合的な学習の時間、道徳科を研究の中核に据え、授業研究班を中心に教科等横断的な学びを推進することで研究主題に迫っていった。



(ア) 研究授業、協議会の実施

Do

月日	学級	教科等	単元名等
令和2年 7月10日	特別支援 知的1	算数	「長さ」
	特別支援 知的2	算数	「どちらが長い」「水のかさ」
	特別支援 自情4	算数	「長さ(1)」「[2年], 「分数のわり算」[6年]
9月3日	3年2組(TT)	道徳	「やっぱり、やめよう」
9月10日	1年1組	算数	「わかりやすくせいりしよう」
	6年2組	算数	「円の面積」
10月1日	3年1組	総合	「向島・尾道～町のやさしさ発見～」
	6年1組	総合	「自分が輝く未来のために～将来のわたし～」
10月8日	特別支援 自情3	算数	「3つのかずのけいさん」[1年], 「どのように変わるか調べよう」[4年]
	特別支援 自情5	算数	「かけ算の筆算(1)」[3年]
11月5日	1年2組	算数	「ひきざん」
	4年1組(TT)	算数	「垂直、平行と四角形」
11月25日	5年2組	算数	「比べ方をかんがえよう(1)」
令和3年 1月14日	2年1組	算数	「長い長さをはかってあらわそう」
	5年1組	総合	「島人の宝～宝, 自慢編～」



学習指導案には、教科で育成すべき資質・能力及び本校で設定した資質・能力、カリキュラム・マップに記した他教科等とのつながりを明記した。事前には授業検討会を行った。シミュレーション等を通して、ねらいの達成に向けて児童の思考の流れを考えたり、授業者の悩み等の解決に向けてアイデアや情報提供を行ったりなど、知恵を出し合った。事後の協議会ではワークショップ型の研修を行い、児童の姿をもとに「本時の目標や育む資質・能力は身に付いたか」「思考・表現する場面の設定や手立ては有効であったか」を視点に、自由な雰囲気での思いや考えを交流し、講師の指導・助言をもとに授業改善の視点を共有した。

他教科等との関連		Plan
つかう力	国語 「自分の考えを述べよう」	自分の考えとそれを支える理由との関係を確認して、書き表し方を工夫する。
気付く力	国語 「パラリンピックが目指すもの」 「おじいちゃんとの思い出」 「同じなかまだから」	教材を通して高めた情報を比較したり分類したりして、パラリンピックや福祉について自分が考えたことを明確にする。 話に際しても相手を思いやり、親切心をもって話しようとすることの大切さについて。 公正・公平に接することの大切さについて考え、相手によって態度を変えないことの大切さについて気付く。

(2) 児童観【単元の学習内容に関する実態】

質問項目	選択割合
①単元で課題を見つけて、その課題を解決する方法を考えることができる。	60%
②目的に合わせて、調べ方方法を選んで調べることができる。	52%
③調べたことをメモやワークシートにまとめることができる。	74%
④調べたことを分かりやすくまとめることができる。	70%
⑤学習したことや生活に活かすことができる。	55%

【資質・能力に関する実態】

【つかう力】
1学期の学習経験から、他教科の学習とつなげて考えようとする児童が数多い。また、他教科と関連付けられたものの活動を楽しんでいる児童がいた。

【気付く力】
身近な友達について相手の気持ちや思いやった行動をみることは多く、優しく温かい雰囲気の中で学ぶ児童がいた。しかし、助言がほしい場面など多様な人があることやそれらの人々の生活などを知りたい児童がいた。



(イ)実践事例 **資料2**

(3)豊かな心の育成 ～育成すべき資質・能力を意識した仲間づくり～

「人をつなぐ」「心をつなぐ」をキーワードに、「縦割り掃除と縦割り活動を通じた異学年交流」に取り組んだ。

【育成する資質・能力が発揮された児童の姿】

気付く力：同じ班の人のいいところや優しいところ、がんばりを見つけることができる。

実態

- ・異学年で日常的にかかわり合う場面が少ない。
- ・かかわりを通じた喜びや友達のよさを実感している児童が少ない。

アクションプラン

- ・縦割り掃除の継続 ・縦割り遊び等の実施
- ・ペア学年によるペアづくり→上級生としての自覚、上級生の優しさや下級生の頑張り等に気付く。

① 縦割り掃除の取組

6月の学校再開後、1ヶ月間クラス単位での掃除を

行った後、異学年交流の視点から縦割り班（なかよし班：1年～6年までの14人程度で編成、ペア学年によるペアを編成）による清掃活動の取組を始めた。掃除の前にめあてを確認し、掃除後には視点をもとに振り返りを行っている。教師も昨年度と比べ、静かに掃除ができていると評価しており、6年生が1年生をリードする等、上級生が下級生にかかわり、班員で協力して無言清掃に取り組む姿が多く見受けられている。

【ピカピカクリーン活動・掃除マイスターの取組】

Action

Plan

ねらい 気付く力：同じ班の人の掃除の様子を見ることを通して、よりよい掃除の仕方や班員のよさを見つけることができる。

つかう力：これまでに培った掃除の仕方を生かして、丁寧に掃除をすることができる。

挑戦する力：周囲から評価される掃除の仕方を目指すことにより、一人一人が前向きに努力することができる。

内容

- ・教師が掃除の取組状況を点検し、「だまって（無言掃除、役割分担）」「すみずみまで（ぞうきんの拭き方等）」の2つの観点で評価を行う。
- ・できている掃除場所には、シール(大)を渡す。児童玄関掲示板に、シールを貼ることで評価を視覚化する。
- ・特によく頑張っている児童には、シール(小)を渡す。振り返りカードにシールを貼って記録を残すことで誰が頑張っていたかを可視化する。



- 5点満点(1つ1点)
- ㊦ つと あつまる
 - ㊧ すかに
 - ㊨ みずみまで
 - ㊩ んいんで きょうりよく
 - ㊪ うじ後の ごみのしまつと ようかくくにん

昨年度と比べると、静かに一生懸命に掃除を頑張れる子が増えたね！

だけど、掃除開始時の集めに遅れてくる子がいるね…。

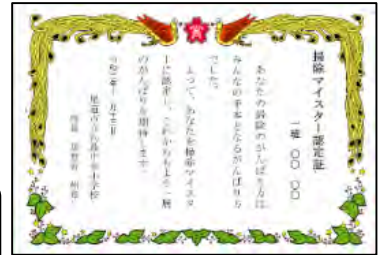


Action

集めに遅れた児童には、放課後に残ってでもきちんとやり切らせるようにしよう！

挑戦する力を育む指導

自分の気持ちを切り替え、当たり前のことを当たり前として取り組み、やり切ることができる。



② 縦割り活動(なかよし班)の取組

6月からの学校再開後、児童会役員と6年生児童が中心となって企画・運営を行い、自己紹介や名刺カードの交換、ゲーム等を行い、1学期中にお互いを知り合うことができた。

Do

1学期：コロナ禍の中だけれど、縦割り班で仲良くできるようにしたい…。



3学期：みんなで仲良く外遊び。ペア学年の友達と一緒に楽しいね。

2学期：仲良くなるために縦割り班でウォークラリーをしよう。



(4) 家庭や地域とともにある学校を目指して

小学校学習指導要領解説総則編では、教育目標の設定と、教育課程の編成についての基本的な方針の家庭や地域との共有の重要性について示している。

コロナ禍にあり、学校行事等を例年通りの形で行うことが困難な状況ではあったが、おたよりや写真・映像を通して、学校の取組や子供達の学びの様子が伝わるように工夫した。

実態

- ・例年4月に行う保護者を対象とした学校紹介での説明ができなかった。
- ・学校の取組については、学校だよりやHP等での公表になっている。

アクションプラン

- ・各種おたより、HP等を通じた情報発信の充実。
- ・校内掲示等の工夫。

学校と保護者・地域との共有

Do

玄関ホールにおいて、大掲示板やテレビモニター等を活用し、資質・能力の育成に向けた取組の様子を児童や保護者、来校者がいつでも興味をもって見てもらえるように視覚化した。



学習や生活の様子をスライドショーや動画で常時流している。



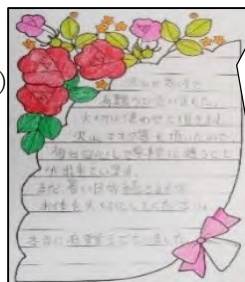
地域の人への感謝

Plan Do

【寄贈に対する感謝の取組】（7月末）

- ねらい** 気付く力 : コロナ禍にあって、自分の周りで多くの人が思いやりを寄せてくれていることが分かり、感謝の気持ちをもつことができる。
- つかう力 : 思いやりに対して、感謝を手紙という形で示すことができる。
- 挑戦する力: 感謝の気持ちを一人一人がどのように示すか考えることができる。

コロナ禍にあって、地域の方々からも、児童に多くの思いやり（アルコール・マスク・飲み物等）が寄せられた。児童は、感謝の気持ちを手紙という形で表現していくことで、地域の方々のやさしさや思いやりの輪の大切さに気付いていた。



たくさんの寄付をありがとうございました。大切に使用させていただきます。
毎日安心して学校に通うことができます。

気付く力	
低学年	①「ありがとう」「すごい！」にたくさん出会う。 ②ふわふわ言葉で友達に優しくする。 ③自分のことを知る。 (好きなことや苦手なこと)
中学年	①身の回りのことに感謝する。 ②相手の気持ちを想像できる。 ③自分のよさに気付く。
高学年	①感動や感謝の気持ちを学校や地域へ広げることができる。 ②地域の人へ優しくできる。 ③自分に自信をもち、よさを伸ばす。

広げよう挨拶の輪の取組

- ねらい** 気付く力 : お互いに交わす挨拶の気持ちよさを実感し、自分から進んであいさつをする意識を高める。
自分からあいさつをする習慣やできたというよさに気づき、自信をもつことができる。

平成31年度当初に向島中学校区で「しまっ子 しぐさ」をつくり、進んで挨拶ができる児童の育成に向けた取組を推進している。

本校でも、児童会が「あいさつ運動」の取組を提案し、クラス単位で自主的に担当場所に集まって登校する友達と挨拶を交わしている姿が見受けられる。今後、子供達が地域への愛着を育み、また、子供達の元気な姿が学校と地域との信頼につながるように、学校から地域へと挨拶の輪を広げていきたい。



(5) 取組の評価

① 資質・能力バロメーターによる教師評価

資質・能力定着度
バロメーター



1年

観測・評価	気付く力	つかう力	挑戦する力	表現力
バロメーター				
育成 【有知な子ども（学びの意欲）】	<ul style="list-style-type: none"> ・異教科において、前期までの学習との違いを意識し、課題に取り組みやすくなっている。 ・生活科では、体験活動（取っつけ、お手回しなど）を通して、自ら発見したり、気づいたりする姿が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し返すことで、既習の知識を使って考えたり、問題を解いたりすることができるようになってきている。 ・生活科の観察カードは、国語科の学習（「はっけんしたよ」など）で学んだことを生かして具体的に書き、内容に深まりが出てきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最後までやりとげる姿勢が見られるようになった。そのことで、友達同士のおいづれが楽しんでいる。 ・子どもが新しいことを学びを楽しんでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達に伝える、友達の考えを聞く姿が見られるようになった。 ・態形を示し、よい言葉の発音を褒めて取り上げることで、表現力が高まってきている。（振り仮名も含む）
評価 【適切な学習態度】	<ul style="list-style-type: none"> ・気づく視点を与える。 ・前期との学習の違い、観察する・考える・整理する学習を継続する。 ・気づいたことを認め、全体に伝える。（まねさせる。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しを大切にすること。 ・前期のカードを提示して、児童に意識づける。 ・つかうと課題が解決できることを実感させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者が提示して挑戦するということがほとんどで、児童自ら「やってみよう」ということは少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人差が大きい。 ・間違いを生かす学習の雰囲気をつくる。 ・表現の仕方を教える、実感を伴ってレベルを上げていく。

4年

観測・評価	気付く力	つかう力	挑戦する力	表現力
バロメーター				
育成 【有知な子ども（学びの意欲）】	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科で気づく視点を与えたことによって、つなげることができるようになってきた。 ・自分の行動を振り返り、友達の思いに気づくことができるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の思いどころを吸収し、自分もまねようとする姿が見られるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「どりあえずやってみよう」とする児童が増えた。 ・失敗をしても、すぐに立ち直ったり、我慢をしたりすることができるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の意見を受け入れ、自分の考えを丁寧に伝えるようになった。
評価 【適切な学習態度】	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発言を価値付けする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の学習を使うことよさを感じられるような活動を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・頑張りを評価、全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなの前で発表をする機会をふやしたり、朝の会で短いスピーチをする時間を設けたりする。 ・緊張感を与えることができる活動を仕組む。

2年

観測・評価	気付く力	つかう力	挑戦する力	表現力
バロメーター				
育成 【有知な子ども（学びの意欲）】	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の気づきや考え、子供から言葉（質問との違い、新しい課題発見に関する）が出た。 ・「きりり（表発見）」で、お礼の言葉が出るようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科の学習を生活科で活用することが多い。 ・異教科で既習の活用が多くなってきた。 ・国語科の類似単元の活用ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仮活動で、責任感が出てきており、頑張ろうとする姿勢が見られる。 ・難しいことにもチャレンジしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えをもてる児童が増えてきた。 ・聞き言葉（声の大きさ） ・理由を付けた発言が少なくなってきた。
評価 【適切な学習態度】	<ul style="list-style-type: none"> ・気付かない子への手立て ・声かけやクラスでの広げ方 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の見聞や気づきを促す声かけ、学習活動の設定を調整して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・確定的評価、相互評価による意欲向上、諦めずにやる心を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・順序立てて考えるのが難しい。 ・聞き言葉（わかりやすく説明する力） ・伝え方の指導（語彙、接続先行）

5年

観測・評価	気付く力	つかう力	挑戦する力	表現力
バロメーター				
育成 【有知な子ども（学びの意欲）】	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の学習が生活の中に生きてきている。 ・あいさつ運動から学校のために働くことへの気持ちに気づくことができた。 ・課題で、計画→テスト→分析→練習をすることで自分の弱点への気づき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数科では、既習事項から考えることができるようになってきた。 ・社会の新聞作り、国語科の学習を生かすことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字テスト ・やる気 ・休憩時間の友達同士の声かけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回よりは話の内容も相手に伝わりやすいものになってきた。
評価 【適切な学習態度】	<ul style="list-style-type: none"> ・人の話を聞く姿勢づくり。 ・活動をしたらペーパーでの振り返りなど、強しておくとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・けんかの原因が伝え方にある場合が多い。

3年

観測・評価	気付く力	つかう力	挑戦する力	表現力
バロメーター				
育成 【有知な子ども（学びの意欲）】	<ul style="list-style-type: none"> ・子供達同士の声掛けが豊かになってきた。（漢語、教材研究） ・福祉に関わる学習を通して、相手の気持ちを想像する機会が増えた。 ・振り返りジャーナルを使って、自分の得意・不得意を見つけることができてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中の故事と学習を結び付けて、考えられる機会が増えた。（社会、理科、総合） ・総合のまとめの時に、国語で学習したことをつかおうとする姿勢が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スモールステップで成長することができた。学習目標を振り返り、今の自分達を振り返り、新たに目標設定ができた。（国語科「言葉集を築く」） ・体育の授業で、落ち込んでも自分を奮い立たせて、気持ちを切り替えて頑張ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「同じです、付け加えます、他にもあります」などの反応がでるようになってきた。（勉強スタンダード）
評価 【適切な学習態度】	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の良さを見つけたら、それを活かすように指導している。（子供に自由にやらせること、教師側が教えることを分けて指導する） ・何の力をつけるために授業をするのか。（インプットからアウトプットへ） 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供が主体的に、やりたいと思わせるように指導している。（子供に自由にやらせること、教師側が教えることを分けて指導する） 	<ul style="list-style-type: none"> ・画面の目標は、意欲を促すように設定している。（子供に自由にやらせること、教師側が教えることを分けて指導する） 	<ul style="list-style-type: none"> ・壁では考えがもてていないが、表現の仕方がまだうまくできていない。 ⇒話す型の指導がまだ不十分だったので、教えていく。

6年

観測・評価	気付く力	つかう力	挑戦する力	表現力
バロメーター				
育成 【有知な子ども（学びの意欲）】	<ul style="list-style-type: none"> ・児童中学校オープンスクールや低学年・高学年のクラブ体験学習を通して、自分の現状のままでいい、改善する必要があることに気づくことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集したものを自分で電子機器を使ってまとめさせたことで力がついていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生や高校生と交流したことで、自分達がめざす姿やあこがれる存在を身近に感じることができ、自分を見つめ直り、変えようとするようになった。 ・新しいこと（エイサー）や苦手なこと（そうじ・授業）などにも挑戦できるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間で調べたものをまとめる際に、相手に伝わりやすいように構成を考え、材料を選び作成することができた。 ・クラブ体験のお礼の手紙にも感謝の気持ちを伝えることができた。
評価 【適切な学習態度】	<ul style="list-style-type: none"> ・どんなにいろいろな人と出会っても、人から学ぶ力を育成している。その時、視点を明確にして感じさせ、学ばせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これからは、自己満足ではなく、常に伝える相手を意識したものを作成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これからは、成功体験を積み重ね、高まると同時に、自信をつけさせ次へのエネルギーにさせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料をもとに相手に意識した伝え方（スピーチ）ができるようにする。 ・学んだことを人に伝える場を設定していく。

定着状況（1学期、2学期）を学年の数で表すと、次の表のようになる。

資質・能力	気付く力					つかう力					挑戦する力					表現力				
バロメーター																				
1学期	2	2	2	0	0	0	0	4	2	0	2	4	0	0	0	2	2	2	0	0
2学期	0	0	1	5	0	0	0	2	4	0	0	1	3	2	0	0	2	1	3	0

どの学年も、育成を目指す資質・能力におけるバロメーター表示では、向上か現状維持を示しており、取組が一段前进了たものと捉えている。「気付く力」については、学習対象や内容、友達や学習で出会った様々な人との関わりを通して、感謝や感動、思いやりの気持ちの醸成につながったと考える。「つかう力」については、児童の言動の中に既習の活用や他教科で学んだことを生かそうとする姿が多く見受けられるようになってきた。「挑戦する力」については、友達の励ましや協働的な関わりが、頑張ろうとする力や自信につながっていった面が大きいと考える。「表現力」については、話型の指導や発表の場の設定等を通して、発表への抵抗感が少なくなり、また、相手を意識した発表の仕方が少しずつ身に付いてきていると考える。

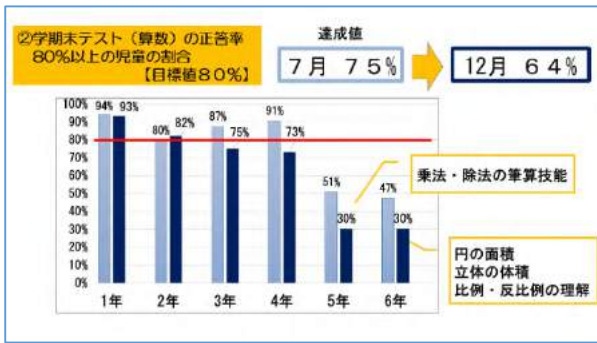
② 校評価の達成状況

(ア) 学校評価表 資料1

(イ) 確かな学力の育成に係る結果

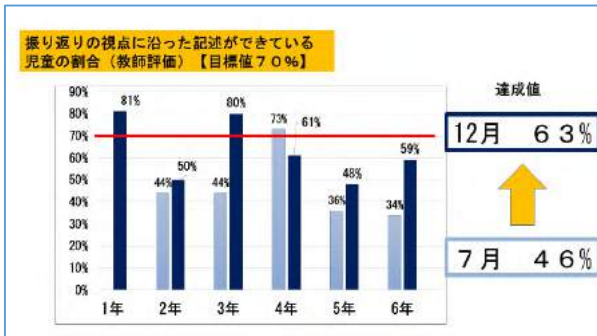
①学びの変革アンケート（児童）		12月 76% (7月 68%)			
児童項目（4年以上実施）	4年	5年	6年	平均	
課題発見・解決学習	解決しようとする課題について、「なぜだろう」「やってみよう」と思う。	82 (73)	88 (76)	79 (73)	83 (74)
	情報を比べたり、仲間分けしたり、関係を見付けたりして、何が分かるのかを考えている。	63 (63)	78 (76)	77 (64)	73 (68)
	自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫している。	71 (51)	68 (67)	61 (51)	67 (56)
	友だちと話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしている。	73 (73)	85 (76)	77 (62)	78 (70)
	「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め、整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。	81 (57)	85 (76)	63 (61)	75 (65)
	ふだんの生活や学習の中で、これまでに学習した内容や学習の進め方を使っている。	73 (71)	87 (78)	80 (82)	80 (77)

①学びの変革アンケート（教師）		12月 86% (7月 71%)		児童 76%
教師項目	教師平均	児童評価		
課題設定の場において、課題を自ら見つけられるような指導を工夫した。	90 (79)	83 (74)		
情報を、比較したり、分類したり、関係づけたりして分析するよう指導を工夫した。	90 (50)	73 (68)		
自分の考えとその理由を明確にして、相手に分かりやすく伝えるために発表を工夫するよう指導をした。	90 (58)	67 (56)		
友達と話し合うなどして、考えを深めたり、広げたりするよう指導を工夫した。	80 (100)	78 (70)		
「総合的な学習の時間」では、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導を工夫した。	75 (73)	75 (65)		
児童が、日常生活や学習の中で、これまでに学習した内容や学習の進め方を活用するよう指導を工夫した。	90 (83)	80 (77)		



尾道市学力定着実態調査 (12月実施)

	国語			算数		
	目標値	本校	尾道市	目標値	本校	尾道市
1年	71.3	75.1	74.1	72.3	79.1	86.6
2年	75.2	73.7	72.7	75.6	72.4	72.5
3年	62.7	66.0	65.8	63.0	66.5	71.5
4年	64.8	68.5	69.1	66.5	62.7	58.7
5年	66.9	64.5	66.9	67.1	63.2	57.4
6年	66.2	57.3	67.1	66.4	59.4	68.5



児童アンケートでは、課題発見・解決学習に係る各項目に一定の向上は見られたが、目標値は下回った。授業研究等で、総合的な学習の時間の充実を図っていった結果、探究学習に取り組んでいると考えている児童の割合が高まった。学力調査や学期末テストから、高学年の算数科に課題が大きいことが明らかである。積み上げを意識した指導の充実が求められる。

(ウ) 豊かな心力の育成に係る結果

積極的生徒指導の推進

豊かな心力の育成：縦割りそうじ、縦割り活動 目標値 80%

【評価指標】	【7月】		【12月】	
	児童評価	教師評価	児童評価	教師評価
縦割り掃除に対する児童評価及び教師評価の肯定的回答の割合	92%	100%	90%	95%
縦割り活動に対する児童評価及び教師評価の肯定的回答の割合	82%	100%	79%	95%

達成値は若干低くなったが、目標値には至った。仲間づくりを目指した異学年交流を実施し、友達のよさを見つけたり気付いたりすることが概ねできたと考える。児童が自分なりの目標をもって取り組み、振り返るサイクルが定着できるように、学年に応じて資質・能力を身に付けた児童像をより明確にし、児童に提示していく必要がある。

3 まとめ

【成果】

- 学校教育目標を基に、育成を目指す資質・能力を設定し、共通理解を図ることができた。学校評価表やカリキュラム・マップの作成、活用を通して、児童の姿から進捗状況や達成度を教職員間で共有することが概ねできた。
- 研修計画の中に検証の時間を定期的に位置付けたことにより、PDCAサイクルを回す際に課題であった評価(C)・改善(A)機能の向上につながった。
- 総合的な学習の時間の研修を充実させたことにより、特に既習事項を「つかう力」を用いた教科等横断的な視点での学習への意識が教師に高まり、児童にも浸透してきた。

【課題】

- カリキュラム・マップの活用状況に学年間で差が見受けられた。また、学年内のマップ活用にとどまり、6年間の系統や教科の系統、中学校とのつながりを明確にできなかった。資質・能力の育成に向けて、有効な活用方法を検討する必要がある。
- 学校教育目標の実現、資質・能力の育成に向けた具体的な目標を、教職員と子供達が共有して取り組むための手立てが十分ではなかった。
- 学校教育目標等の保護者・地域への理解や、人的・物的資源の有効活用が十分とはいえず、その在り方の検討が必要である。

令和2年度 学校評価表

学校教育目標	心豊かで 確かな力を持ち たくましく生きる子どもの育成		
a ミッション	組織的な学校経営を確立するカリキュラム・マネジメントの推進	a ビジョン	学校は面白いところ！子供達を「つなぐ」教育活動の創造

尾道市立向島中央小学校

評価計画				自己評価					学校関係者評価			改善計画		
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 達成のための	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ		
【確かな学力の育成】 主体的な学びが育まれる学校風土の醸成	育成すべき資質・能力（気づく力・つかう力・挑戦する力）を意識した授業づくり	カリキュラムマップを活用した教科横断的な視点での課題発見・解決学習の推進	・学びの変革アンケート（児童・教師）の肯定的回答の割合 ・学期末テスト（算数）の正答率80%以上の児童の割合 ・標準学力テスト目標値基準以上の児童の割合	80%	68%	71%	87%	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学びの変革アンケートの達成値は、児童が68%、教師が71%で、全体として69.5%であり、目標値を下回った。「自分の考えと理由を明らかにして、相手に伝えるように発表を工夫している」と回答した児童の割合（56.3%）が低く、伝えることに苦手意識をもっている児童が多いと考える。同様に、教師側も「（そのように）発表を工夫するように指導をした」割合（58%）が低かった。「相手にわかりやすく表現する力」を身に付けさせる指導の充実が必要である。また、総合的な学習の時間で探究的な学習に取り組んでいると考えている児童の割合（64.7%）が低かった。課題発見・解決に向けて、探究の過程を児童にも意識させた学習活動が十分でなかったためと考える。 ・学期末テスト（算数）の達成値は75%であり、目標値を下回った。1年～4年は目標値を上回ったが、5・6年の達成値が低かった。5年は、乗法と除法の計算技能に課題が見られた。6年は、文字式の表し方や分数倍の意味の理解に課題が見られ、文章題に弱い傾向がある。低学年からの数の概念についての理解や基礎的な計算の習得・定着が十分でないことが要因であると考え、既習で学んだことの積み上げ（「つかう力」の育成）を図っていく必要がある。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○確かな学力をつけるため、授業の工夫改善もされ、自ら学ぼうとする子ども達を育てようとしていっていることがよくわかりました。 ○高学年算数学期末テストの課題が明らかにされているので、今後それに対する取組をし、今後それに対する取組をしっかりと行い、子ども達一人ひとりの確かな学力定着につなげてほしいと思います。 ○「伝える力」が不足しているのは気になります。課題が把握できているので、解決に向けての取組をお願いします。 ○今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、大変な環境の中での学習だと思えます。自分の言葉で表現するという大人でも大変難しい課題をいかに工夫し身につけていくかは難しいことだと思います。 ○いかに子ども達が興味関心をもち、「面白い」「楽しい」と感じながら学習できると良いと感じます。 ○どこでつまづいているのか、分析がきちんと行われている。基礎を固めた上で、次のステップへ移行できる振り返りとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に見直しをもって取り組ませ、視点に沿って学習を振り返らせる指導（ノート指導）を徹底する。 ・伝えることの苦手意識をなくしていくため、少人数（ペアやグループ）で伝え合う活動を1時間に1回は取り入れる。また、向島スタンダード（話型）の活用を充実させる。 ・単元末テストで定着が不十分であった問題については、再度丁寧に指導する。 ・問題解決にあたり、既習事項の活用を意識させた学習を展開する。 ・ITや少人数指導を実施することで、児童のつまづきに応じた指導に力を入れる。 		
				80%	75%	94%	B							
				80%	-	-	-							
【豊かな心力の育成】 子供達の笑顔と温かな空気がある学校の創造	育成すべき資質・能力（気づく力・つかう力・挑戦する力）を意識した仲間づくり	・縦割り掃除に対する児童評価及び教師評価の肯定的回答の割合 ・縦割り活動を通じた異学年交流の充実 ・外遊びを中心とした体力づくり、仲間づくりの推進	・縦割り掃除に対する児童評価及び教師評価の肯定的回答の割合 ・縦割り活動に対する児童評価及び教師評価の肯定的回答の割合 ・強化週間（1日1回以上外遊びをした児童の割合	80%	92%	100%	120%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・縦割り掃除は7月から行った。職員の間感として、昨年度と比べて、静かに掃除をすることができるようになったと思われる。ペア学年の上級生が、下級生に対して掃除の仕方を教えることも、特に1・6年生のペアではできていた。 ・縦割り活動として、1学期は自己紹介・名刺カードの交換・班員集合ゲームを行った。児童の数値がやや低いのは、出会いが中心となる活動であり、遊びなどではなかったことが影響したと思われる。 ・縦割り掃除と縦割り活動に関わって、共通する課題として2点考えている。1つ目は、異学年交流の在り方として、ペア学年をより生かすことができる関わり方を教師がいかに指導するかということが挙げられる。2つ目は、育成すべき資質・能力を身につけた児童像をより明確にして取組を進める必要があることが挙げられる。 ・全児童が外に出て遊ぶことはできたが、自分から楽しんで意欲的に体を動かした児童もいれば、学級遊びや学級レクリエーションだから仕方ないと思っ外に出ている児童もいる。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○縦割り掃除や縦割り活動を通して、子ども達に温かな雰囲気や生まれていることはとても嬉しいですね。 ○7月からの取組であるにもかかわらず、どの指標に対してもしっかり達成できているというところは、目標やそれに対する方策が適切であったのかを考察していく必要があるのではないかと感じました。 ○異学年交流は良いことだと思います。今後も継続して発展させていくことを期待します。 ○コロナ禍で、子ども達もストレスを抱えていると思うので、外で体を動かすことが楽しいと感じる子が増えたと良いと思います。 ○縦割り活動はとも子ども達の育ちにとって大切なことだと思います。 ○活動内容や様子を確認しながら充実させていくことが重要だと考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・縦割り掃除では、掃除場所の変更を適宜行い、その機会を仲間づくりのきっかけとしていく。特に、ペア学年を意識した掃除分担など上級生は下級生を指導し、下級生は上級生に憧れをもつことができるようにしていく。 ・縦割り活動では、育成すべき資質・能力を身につけた児童像をより明確にして取り組み、児童の仲間づくりが進むようにしていく。 ・暑さや熱中症等に十分に配慮しながら、外遊びを中心とした体力作り・仲間作りの推進や生活振り返り表を活用して基本的な生活習慣の確立を図りながら、体力の向上と健康の推進に努めていく。 ・みんなが、喜んで外遊びをして「体を動かすと気持ちいいな」「友達っていいな」「○○ちゃんを誘って遊ぼう。」と思えるようにしていく。 		
				80%	82%	100%	114%	A						
				80%	100%	125%	A							

【自己評価 評価】
A : 100 ≤ (目標達成) B : 80 ≤ (ほぼ達成) < 100
C : 60 ≤ (もう少し) < 80 D : (できていない) < 60

【外部評価】 イ : 自己評価は適正である。ロ : 自己評価は適正でない。 ハ : わからない。

評価計画				自己評価					学校関係者評価			改善計画		
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 達成のための	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ		
【確かな学力の育成】 主体的な学びが育まれる学校風土の醸成	育成すべき資質・能力（気づく力・つかう力・挑戦する力）を意識した授業づくり	カリキュラムマップを活用した教科横断的な視点での課題発見・解決学習の推進	・学びの変革アンケート（児童・教師）の肯定的回答の割合 ・学期末テスト（算数）の正答率80%以上の児童の割合 ・標準学力テスト目標値基準以上の児童の割合	80%	68%	71%	98%	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学びの変革アンケートの達成値は、児童が76%、教師が81%で、全体として78.5%であり、目標値をやや下回った。7月との比較では全項目で肯定的回答をした児童の割合が上回っており、授業研究等を通して、教科横断的な学習を意識して取り組んだことや、表現する手立てを充実させていったことが、児童の意識の変容につながったものと考えられる。 ・学期末テスト（算数）の達成値は64%で、目標値を下回った。既習事項の復習等、つまづきを克服するための指導に力を入れたが、高学年の課題克服には至らなかった。思考力・表現力を問う文章問題が弱い傾向にある。 ・学力テスト目標値基準の達成率は、国語63%、算数64%で、目標値を下回った。学年の平均正答率をみると、国語は1・3・4年が、算数では1・2・3年が上回っていた。学期末テストの結果と同様、高学年へ学びをつなぐことを意識した授業改善が必要である。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○確かな学力をつけるため、授業の工夫改善もされ、自ら学ぼうとする子ども達を育てようとしていっていることがよくわかりました。 ○高学年算数学期末テストの課題が明らかにされているので、今後それに対する取組をし、今後それに対する取組をしっかりと行い、子ども達一人ひとりの確かな学力定着につなげてほしいと思います。 ○「伝える力」が不足しているのは気になります。課題が把握できているので、解決に向けての取組をお願いします。 ○今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、大変な環境の中での学習だと思えます。自分の言葉で表現するという大人でも大変難しい課題をいかに工夫し身につけていくかは難しいことだと思います。 ○いかに子ども達が興味関心をもち、「面白い」「楽しい」と感じながら学習できると良いと感じます。 ○どこでつまづいているのか、分析がきちんと行われている。基礎を固めた上で、次のステップへ移行できる振り返りとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に見直しをもって取り組ませ、視点に沿って学習を振り返らせる指導（ノート指導）を徹底する。 ・伝えることの苦手意識をなくしていくため、少人数（ペアやグループ）で伝え合う活動を1時間に1回は取り入れる。また、向島スタンダード（話型）の活用を充実させる。 ・単元末テストで定着が不十分であった問題については、再度丁寧に指導する。 ・問題解決にあたり、既習事項の活用を意識させた学習を展開する。 ・ITや少人数指導を実施することで、児童のつまづきに応じた指導に力を入れる。 		
				80%	75%	64%	80%	B						
				80%	-	64%	80%	B						
【豊かな心力の育成】 子供達の笑顔と温かな空気がある学校の創造	育成すべき資質・能力（気づく力・つかう力・挑戦する力）を意識した仲間づくり	・縦割り掃除に対する児童評価及び教師評価の肯定的回答の割合 ・縦割り活動を通じた異学年交流の充実 ・外遊びを中心とした体力づくり、仲間づくりの推進	・縦割り掃除に対する児童評価及び教師評価の肯定的回答の割合 ・縦割り活動に対する児童評価及び教師評価の肯定的回答の割合 ・強化週間（1日1回以上外遊びをした児童の割合	80%	92%	100%	109%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・縦割り掃除は10月から掃除場所の変更を行った。また、ヒカヒカクリーン・掃除マスターの取組を10月下旬に行った。特に取組の最中は、静かに掃除をすることができ、よりよい掃除の仕方を指導しようとする姿が見られた。がんばっている個人に焦点化した取組が効果的に作用したと思われる。 ・縦割り活動として、2学期は校内ウォークラリーを行った。児童・職員共に数値が上がった。がんばり、いいところ、やさしさに気づくことができたか尋ねるようにしたため、そこまでできなかったと評価したのだったと思われる。 ・育成する資質・能力の中で、「挑戦する力」に関わって、自分自身はがんばることができると評価できる児童は多くいる。一方で、「気づく力」に関わって、他者のがんばりやよさに気づくことができるような指導を行っていく必要がある。 ・教師の声かけや児童同士の呼びかけで、外遊びをした児童の割合は100%だった。しかし、遊びの内容が固定化している。自分から楽しんで意欲的に体を動かした児童もいれば、学級遊びや学級レクリエーションだから仕方ないと思っ外に出ている児童もいる。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○縦割り掃除や縦割り活動を通して、子ども達に温かな雰囲気や生まれていることはとても嬉しいですね。 ○7月からの取組であるにもかかわらず、どの指標に対してもしっかり達成できているというところは、目標やそれに対する方策が適切であったのかを考察していく必要があるのではないかと感じました。 ○異学年交流は良いことだと思います。今後も継続して発展させていくことを期待します。 ○コロナ禍で、子ども達もストレスを抱えていると思うので、外で体を動かすことが楽しいと感じる子が増えたと良いと思います。 ○縦割り活動はとも子ども達の育ちにとって大切なことだと思います。 ○活動内容や様子を確認しながら充実させていくことが重要だと考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・縦割り掃除では、掃除場所の変更を適宜行い、その機会を仲間づくりのきっかけとしていく。特に、ペア学年を意識した掃除分担など上級生は下級生を指導し、下級生は上級生に憧れをもつことができるようにしていく。 ・縦割り活動では、育成すべき資質・能力を身につけた児童像をより明確にして取り組み、児童の仲間づくりが進むようにしていく。 ・暑さや熱中症等に十分に配慮しながら、外遊びを中心とした体力作り・仲間作りの推進や生活振り返り表を活用して基本的な生活習慣の確立を図りながら、体力の向上と健康の推進に努めていく。 ・みんなが、喜んで外遊びをして「体を動かすと気持ちいいな」「友達っていいな」「○○ちゃんを誘って遊ぼう。」と思えるようにしていく。 		
				80%	82%	79%	93%	B						
				80%	100%	100%	125%	A						

【自己評価 評価】
A : 100 ≤ (目標達成) B : 80 ≤ (ほぼ達成) < 100
C : 60 ≤ (もう少し) < 80 D : (できていない) < 60

【外部評価】 イ : 自己評価は適正である。ロ : 自己評価は適正でない。 ハ : わからない。

授業実践

令和 2 年 9 月 10 日

1 年 1 組 算数科 単元名「わかりやすくせいりしよう」

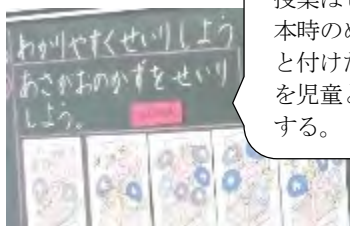
1 育成する資質・能力が発揮された児童の姿

身の回りにある数量を具体物を操作しながら分類整理する方法を考え、簡単な絵や図に表したり読み取ったりする活動を通して、友達と考えを伝え合いながら課題を解決しようとする姿。

評価規準と児童の姿に基づいた評価

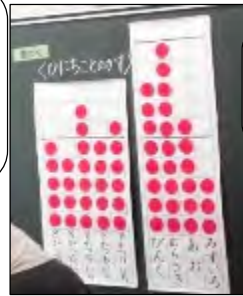
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		【つかう力】【表現力】	【挑戦する力】 【気付く力】
評価規準	ものの個数を種類ごとに分類整理し、簡単な絵や図を用いて表したり読み取ったりすることができる。	データの個数に着目し、身の回りの事象について簡単な絵や図を用いて特徴をとらえている。	簡単な絵や図を用いて、データの個数を表したりその特徴をとらえたりした過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。
評価	絵グラフの読み取りは概ねできていた。整理する観点が意識できないまま取り組む児童や時間内に終わらない児童が数名見受けられた。	教師が提示した絵グラフをもとに、一番多いもの、少ないもの、2つの観点の違いなどの特徴を概ねとらえていた。	同じ資料でも、2つの違う観点で調べているので、違う絵グラフになることに気付いていた。

2 授業を通して



授業はじめに本時のめあてと付けたい力を児童と共有する。

挑



「ええっ。自分のとちがうな。」



絵グラフが完成できた児童は、既習を生かし、読み取った個数や特徴をノートに文章で記述していた。

つ

同じ資料でも観点（日にち別、色別）によって結果が変わることに気づいた。

気

3 成果 (○) と課題 (●)

挑

○問題の提示（生活科と関連させた身近な題材、2種類の観点のグラフをランダムに配付）の仕方が工夫されていた。児童の活動意欲を引き出し、新たな思考を促して学びを深めさせる点（まとめる観点によって結果が異なる）で有効であった。



○日常のノート指導がよくできているため、絵グラフを描いた後、児童が気付いたことをノートに書き進めていくなど、進んで学ぼうとする姿が見受けられた。

つ

○前時の学習と同様の視点で、絵グラフから読み取ったこと（個数の一番多いものや一番少ないもの、個数の違い等）を発言することができていた。

●絵グラフに誤りがあったり、時間内での完成が困難であったりした児童が見受けられた。個への支援を具体化するとともに、グラフを読み取る前提として、正しくグラフを書く力を付けていきたい。

授業実践

令和2年9月3日 3年2組 道徳科 教材名「たからさがし」(主題名「やっぱり、やめよう」)

1 育成する資質・能力が発揮された児童の姿

相手の気持ちを想像して、自信をもって一番良いと思う判断をする姿。

評価規準と児童の姿に基づいた評価

本時のねらい	迷いながらも「もりあげ方がまちがっているよ。」と言った「ぼく」の気持ちを考えることから、正しいと判断したことを、自信をもって行おうとする意欲を養う。
評価規準	正しい判断を伝えることで友達にも迷惑をかけず、自分も後悔せずにいられることに気づいたか。
評価	<p>振り返りの記述分析より</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「友達の気持ちを考えて勇気をもって伝える」といった記述・・・ 2名 ○「その人が間違っているでも、勇気をもって伝える」といった記述・・・ 21名 ○「勝手に人の物をとってはいけない」「授業の感想」・・・ 2名 ○記述なし・・・ 1名

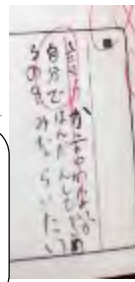
2 授業を通して



自分だったらどうするかな...

悩みなあ...

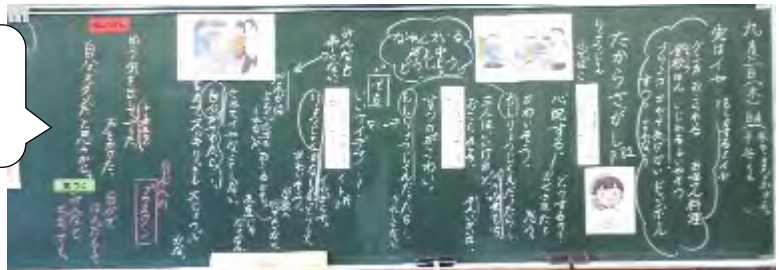
言うか言わないか自分で判断して決めるのを見習いたい。



みんなと意見が違っても、勇気を出して意見を言うところ。

意図的指名により児童に考えさせたいことを全体で共有化できた。

気



3 成果 (○) と課題 (●)

挑

○身近な素材を扱った教材であり、自我関与を強める「自分だったら」と導入で問うことにより、児童が意欲的に学習を進めることができた。

○終末の振り返りにおいて、「これからの自分にプラスワンのこと」として振り返りの視点を与える工夫をしている。教材の登場人物の生き方に対して、共感的に考える手助けとなり、自分事として考えることに効果的であると思われる。

気

○展開後段での児童の反応を見て、当初予定していた発問ではなく、「りょうじくんのすごいところはどこだろう。」と発問をしたことにより、本時のねらいに迫るようにすることができた。

●終末の中で、導入で出させた自身の経験と結び付けて考えさせると、具体的な場面での気付く力の育成につながったと考えられる。「プラスワン」を児童に考えさせるとともに、導入との関連付けを意識して行うようにもしていきたい。

●中心発問では、今回の『盛り上げ方が間違っているよ』と言ったときのぼくの気持ちは。」と発問する以外に「どんな盛り上げ方ならよかったか。」と発問することも考えられた。児童の実態に即して、どんな中心発問がよいのか考えていくようにする。

授業実践

令和2年10月1日 3年1組 総合的な学習の時間 単元名「向島・尾道～町のやさしさ発見～」

1 育成する資質・能力が発揮された児童の姿

既習事項を使って、問題を解決したり、他者に伝えるために表現したりすることができる。町には多様な人々がいることを知り、自分以外の人々のことを考える視野が広がっている。相手のことを思いやって、自分にできることを考えて行動しようとするすることができる。

評価規準と児童の姿に基づいた評価

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		【つかう力】 【表現力】	【挑戦する力】【気付く力】
評価規準	町に住む人々の多様性と、人々の暮らしを支える人々の存在や仕組みを理解している。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の関心から福祉についての課題を設定し、解決方法を考えて追究している。【課題の設定】 目的に応じて調べる対象を決め、体験や図書資料、インターネットなどから情報を集めている。【情報の収集】 教えてもらったことや町にあるやさしさを分類して、特徴を整理している。【整理・分析】 図や表を取り入れて、わかりやすくまとめ、表現している。【まとめ・表現】 学習したことを振り返り、生活に生かそうとしている。【振り返り】 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のよさや自分にできることに気付いている。【自己理解】 人々の多様性に気付き、相手の立場を理解している。【他者理解】
評価	町に住む人々の多様性について学習前よりも考えが広がり理解が深まった。暮らしを支える物について理解したが、仕組みまでは理解が及ばなかった。	<ul style="list-style-type: none"> 課題意識をもって取り組めた。解決方法を考えて追究することまでできたのは半数ほどである。 体験や図書資料をもとに、おおむね調べる対象を決めて情報収集をすることができた。 特徴を整理したり、分析したりする力はまだ弱い。 学年発表会の場で、相手意識をもって発表することができた。 学習後も、他教科で関連付けた発言が見られ、生活に生かそうとする児童が多く見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体験や授業での学習をもとに、考える児童が増えた。しかし、人々を支える物に着目したことで、自分にできることまで考えが及ばない児童もいる。 人々の多様性については見方が広がり、相手の立場を考えた発言や行動が見られる。

2 単元を通して

課題の設定

問い『やさしい町』ってどんな町だろう？
「向島は『やさしい町』かな」

安心・安全、便利、気持ちよく過ごせる町と思う。

情報収集
整理分析

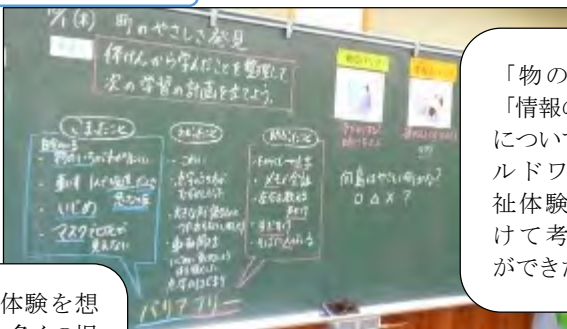
フィールドワーク、福祉体験、
図書資料、
インターネット等



本時

新たな課題の設定

点字ブロックやスロープの役割、声のかけ方



バリアフリーについて知り、考える

「物のバリア」「情報のバリア」について、フィールドワークや福祉体験と結び付けて考えることができた。

「助ける」の心のバリアは……
「どうかがあってかわいそう、助けてあげないと何もしないから目線になってないかな？」

「心のバリア」について知り、今までの考え方や行為について、子供達なりに真剣に考える姿が見られた。

気

福祉体験を想起し、多くの児童が障がい者の立場になって、気付きを発言した。



かわいそう。
上から目線。
どうすればいいの？

向島の町をやさしい町にするために、町や自分に必要なことは何だろう。



まだわからないからもっと調べたい。

助けが必要かは聞いてみないとわからない。

できないって決めつけるのはやさしくないね。

新たな課題追究

誰もが過ごしやすい町に！

情報収集 整理分析

バリアフリーやユニバーサルデザインについて調べ、整理する。

まとめ・表現

発表の準備・練習



発信

学年発表会



3 成果（○）と課題（●）

気

○福祉体験でボランティアの方々とお会いした経験や、点字や手話、バリアフリーやユニバーサルデザインなどの人々を支える物について学習を通して知識が増えたことにより、児童の障害や困難さを持つ人の存在についての見方が広がった。それによって、相手の立場に立って考えることをしようとする姿が見られるようになった。

●人々を支える物を中心に学習する展開となったため、人や町の仕組みについての気付きが浅くなった。人と人との支え合いやボランティアの方々の思いなどに触れる機会や、市役所等の方との連携の機会をもつようにして、「やさしい町づくり」について考えを深める展開にするとよかった。

っ

○「課題の設定、調べる、整理する、まとめ・表現する、振り返る」といった探究的な学びの進め方を児童に提示しながら学習を進めたことで、児童が学びの進め方を意識することができた。

○まとめ・表現の展開では、国語科の学習と関連付けて発表の内容を組み立てるようにしたことで、他教科の力を使うという力が高まった。また、カリキュラム・マップを活用して、国語科の教材の内容や道徳科の内容項目の関連を意識したことで、児童の方から関連付けた発言がたびたび聞かれ、教科同士の学びをつなぐようになってきた。

●調べた内容を整理したり、新たな課題を見いだして追究したりするまでの力はまだついていない。調べたことの中から共通点や相違点を探したり、問題点を見つけたりさせるような指導が必要だった。

●他教科との関連を意識してカリキュラムを組んだが、うまく活用できなかった場面もあった。他教科の力を有効的に発揮できる展開をもっと工夫したい。

授業実践

令和3年1月14日 5年1組 総合的な学習の時間 単元名「守れ！島人の宝～宝，救出編～」

1 育成する資質・能力が発揮された児童の姿

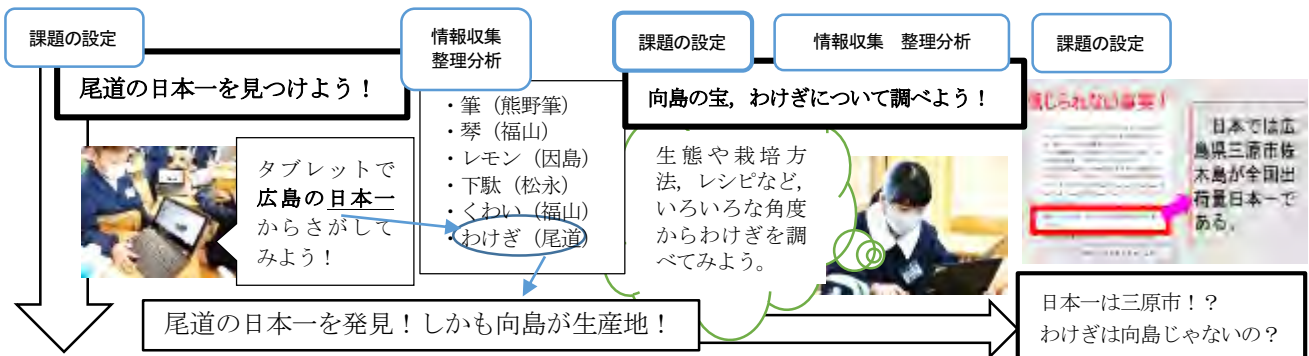
集めた情報を「すぐに取り組めること」「自分達でできること」などに整理し、そこから何ができるのか整理している。わけぎの良さや生産者の思いを考え、社会に向けて提案をしようとしている。向島地域の特徴や良さに気付き、その地域の一員として行動することの楽しさに気付いている。

評価規準と児童の姿に基づいた評価

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		【つかう力】 【表現力】	【挑戦する力】【気付き力】
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 向島の産業のよさと課題及び、それに携わる人々の願いを理解している。 向島の産業の発展に向け、地域の一員であるという自覚をもち、考え行動することの大切さを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> わけぎ生産の減少という課題から、自分たちができることについて提案している。【課題の設定】 尾道市やJAの取組や願いなどについてインターネットや資料で調べたり、実際にインタビューしたりしている。【情報の収集】 集めた情報を「すでに取組んでいること」「願い」などに分類し、そこから何ができるのか整理している。【整理・分析】 わけぎ産業について調べたことをプレゼンテーションとしてまとめている。【まとめ・表現】 学習を振り返り、生活に生かそうとしている。【振り返り】 	<ul style="list-style-type: none"> 課題の解決に向け、目的意識をもって意欲的に取り組んでいる。【主体性】 わけぎの良さや生産者の思いを考え、社会に向けて提案をしようとしている。【他者理解】 向島地域の特徴や良さに気付き、その地域の一員として行動することの楽しさに気付いている。【自己理解】
評価	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの地域の特産物に誇りを持ち、地域の困りごとに貢献したいという思いで課題解決に取り組んでいた。 	<ul style="list-style-type: none"> インタビューや調べたことの中から目的や自分たちにできること等の視点を定めながら情報収集ができた。 情報の整理分析にあたっては、思考ツールをうまく活用することができていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決に向け、意欲的に班活動を進める姿やお互いの発言から新たな課題を見出せていた。 生産や販売に携わる人の思いに気付き、自分たちにできることを考えることができた。

2 単元を通して

1学期 「守れ！島人の宝～宝，発掘編～」



2学期 「守れ！島人の宝～宝，救出編～」



3学期 「守れ！島人の宝～宝, 宝自慢編～」

課題の設定

3月3日に向けてわけぎの魅力をもPRしよう。

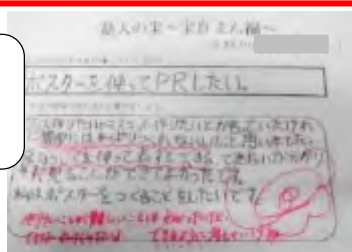
本時

活動提案・整理分析



時間がかかるし、周りの人の協力もいるね。

思考ツール（座標軸）を使って活動内容について考える。



考えている以上に、活動をするには誰かの協力が必要であることに本時を通して気付いていた。



計画・実行

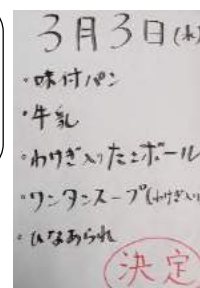


カレンダーを用いて、活動の計画を話し合う。



栄養士に献立のお願いをする。

わけぎの献立を考えました。ぜひ給食にしてください。



3 成果（○）と課題（●）

気

○わけぎの学習を通して、生産者やその販売に関わる人の思いに触れ、改めて向島の町に生きる一員であることを自覚し、わけぎを守っていきたいという気持ちをもつ児童が多くいた。

●もっと地域と関わる活動を仕組むことで、違う価値の気付きが出てきたと思う。

っ

○社会科で農業や工業について学習した内容と関連させて仮説を立てることができた。

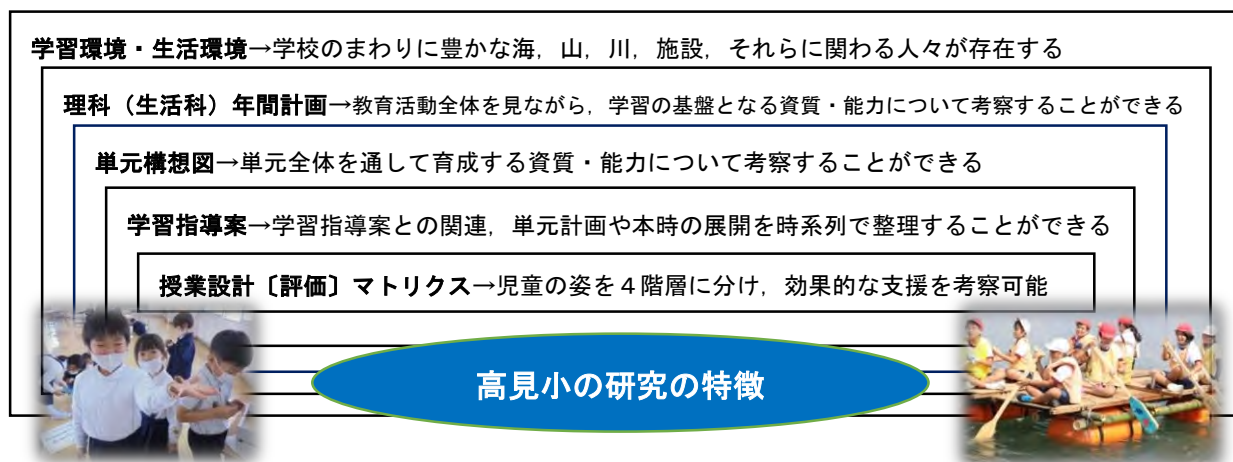
○理科の問題解決の流れ（仮説→実験→結果→考察）と、課題設定からまとめまでの流れとを関連させて行うことができた。

○他教科でも思考ツールを使用し考える場面があったので、児童も自然に思考ツールを使って話し合いができた。

～尾道市立高見小学校～

1 高見小学校の概要

(1) 本校の研究について



本校の学校教育目標は、「未来を拓く 心豊かな たくましい高見っ子の育成」である。カリキュラムに整理された各教科の学習内容を効率よく定着させることに偏っていた学校教育を内容ベースから資質・能力ベースの学びへ変革することが求められている現在、子供たち一人一人がもつ底力的な学力となる資質・能力を育成することにより、学校教育目標の実現に向けて研究を進めている。

本校の研究の特色として、学校の周りにある豊かな自然（海・山・川）やそれに関する施設や人々の中で、長きにわたり教科研究の土台が築かれている理科（生活科）教育を中心とした研究の歴史があり、令和元年度より理科教育を基盤としたカリキュラム・マネジメントによる教育活動の充実を図っている。

理科（生活科）が好きで、主体的に学習を進める児童は多いものの、学んだことを総合的に活用しながら論理的に表現できる児童は少ない。このような児童の課題から、児童が主体的に問題発見・問題解決する中で、理科・生活科における教科固有の資質・能力及び学習の基盤となる資質・能力である「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」の向上を図ることが必要であると考えた。

そこで、本年度の研究主題を「表現力を育成する理科・生活科学習の創造」とし、サブテーマを「～学習の基盤となる資質・能力の向上を図るカリキュラム・マネジメントを通して～」と設定した。児童が教材や他者とかかわり合いながら問題発見・問題解決することを通して、自らの考えをもち、論理的に表現すると共に、考えを広げたり、深めたりする学習活動として展開させていくことを目指していく。研究のポイントを「学習の基盤となる資質・能力を育成するためのカリキュラム・マネジメント」と設定し、理科、生活科及び総合的な学習の時間を主軸とした「理科・生活科年間学習計画」の作成・活用・改善や資質・能力を育成するための単元を貫いた課題の設定を行い、生活経験や既習事項が活用できる場面を工夫した授業づくりを通して、児童が学んだことを論理的に表現する力を育成することとした。

そのために、本稿の研究の柱である理科・生活科年間学習計画（理科・生活科カリマネマップ）・単元構想図・授業設計評価マトリクスについてのより良い改善と工夫に組織的に取り組んでいる。

(2) 育成を目指す学習の基盤となる資質・能力

平成31年度当初に設定した育てたい資質・能力（主体性、表現力、かかわり合い）のうち、「表現力」について、児童の姿から成果と課題を整理し、令和2年度に向けての資質・能力を再定義した。

研修のねらい	主な内容
令和元年12月26日、 令和2年1月14日 Check Action Plan それぞれの資質・能力について、学校教育目標と照らし合わせながら、具体的に言語化し、イメージを可能な限り共有する。	1 学校教育目標に示された子供の姿を具体化する。 2 資質・能力（表現力、かかわり合い）について、31年度の実践をもとに定義し直し、低・中・高の系統を明らかにする。

本研修を踏まえ、理科、生活科のみならず、汎用的な表現力として、次のように改善した。

平成31年度版

1・2年	3・4年	5・6年
自分の考えについて、理由を付けて表現することができる。	根拠を明らかにして自分の考えを整理し伝える相手や目的を意識しながら表現することができる。	自分や他者の考えを基に学びの過程を明らかにしながら効果的な表現方法を選んで整理し、発信することができる。



令和2年度版

1・2年	3・4年	5・6年
<ul style="list-style-type: none"> 身近なことや経験したことなどから、自分の思いや考えをもつ。 相手に伝わるように、事柄の順序を考えて表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的を意識して、自分の思いや考えをまとめる。 相手に伝わるように、理由や事例を挙げながら伝えたいことの中心が明確になるように構成を考えて表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的や意図に応じて、自分の思いや考えを広げる。 内容が明確になるように、事実と感想・意見を区別するなど、構成を考えて表現する。

昨年度は、理科・生活科における思考・表現を問う評価問題について、目標値に達しなかったことが課題として残った。「表現力」の育成のためには、学習の基盤となる資質・能力の育成が不可欠と考え、本校における学習の基盤となる資質・能力を下記のように設定し、令和2年3月に、資質・能力育成のための理科・生活科年間学習計画（理科・生活科カリマネマップ）を作成した。 **資料1**

理科・生活科を中心にしながら、次のように学習の基盤となる資質・能力を具体的に設定した。

<p>本校における「学習の基盤となる資質・能力」</p> <p>次の3点について、教科等横断的な視野に立って育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆言語能力：国語科を要としつつ全ての教科等においてそれぞれの教科の特質に応じた言語活動を通して育成する能力 ◆情報活用能力：情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用した学習活動等を通して育成する能力 ◆問題発見・解決能力：問題を見だし解決していく過程を重視した学習活動等を通して育成する能力

学習の基盤となる資質・能力についての児童実態

言語能力	情報活用能力	問題発見・解決能力
<ul style="list-style-type: none"> 順序立てて表現することができない。 根拠をもとに伝えることができない。 相手意識をもって伝えることができない。 自分の思いを自信をもって表現することができない。 他者の意見をもとに自分の考えを広げたり、深めたりすることができない。 意図に応じて話の内容を捉えることができない。 他者の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができない。 	<ul style="list-style-type: none"> どうやって情報を集めて良いかわからない。 どこにどんな情報があるかわからない。 調べたものから必要な情報を選択し、整理することができない。 結果を比較・分類したり関係付けたりしながら自分の考えをまとめることができない。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な問題と関連付けながら、課題意識をもつことできない。 既習事項をもとに課題解決ができない。 課題解決した後、新たな課題を見だし、主体的に持続した学びにつなげていくことが難しい。

目指す子供像

言語能力	情報活用能力	問題発見・解決能力
<ul style="list-style-type: none"> 分かったことと、自分の考えを説明する。 事実と意見を区別しながら表現する。 伝えたいことの内容を明らかにして伝える。 接続語を使いながら順序立てて話す。 話型や枠組みを提示する。 他者の意見を受け入れながら自分の考えを再考する。 言葉と演示、図、表、グラフなどの「もの」の両方を使って表現する。 図、表、グラフなどの情報から分かることを説明する。 話の中心を捉えて聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 書籍やPC・タブレット、インタビュー、アンケートなど多様な情報収集の仕方について学ぶ。 調べたいことに対して、必要に応じて辞書を活用したり、他者に聞いたりしながら内容を理解し、必要な情報を取捨選択する。 目的に応じて情報を要約する。 条件を変え、試行錯誤しながら必要な情報を収集する。 類似点や相違点に着目して比較する。 立場や視点を変えて多面的・多角的に捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活との結びつきから課題を捉える。 予想や仮説を立て、解決方法の見通しをもつ。 既習事項をもとに解決方法を見いだす。 学びを発展させるために新たな課題を見いだす。

(3) 校内研修経過

マネジメント・サイクルを確実に回すために、P D C Aサイクルを意識し、次のような研修を実施した。

研修のねらい	内 容
4月3日 Plan ○本校で育成を目指す資質・能力（主体性、 表現力 、かかわり合い及び学習の基盤となる資質・能力）及びその系統性を共有する。 ○学習規律等について共通理解を図る。	○令和元年度の研究内容について ○令和2年度の研究の方向性について ○総合的な学習の時間年間指導計画について
4月9日 Plan ○本校が重点にしている資質・能力「表現力」「主体性」を付けるための見通しをもち、共有する。	○「表現力」「主体性」が高まっている姿とは ○教師としての自分、目指す子供像（グループによるワークショップ）
4月16日 Plan ○理科カリマネマップについての共通理解を図る。	○理科カリマネマップについて
4月21日 Plan ○資質・能力育成のための単元構想図や授業設計評価マトリクスの活用方法と書き方について共有化する。	○資質・能力育成のための単元構想について ○授業設計評価マトリクスを活用した指導と評価の改善について
4月30日 Check Action ○「授業づくりについて」アンケートを記入し、授業改善に向けての見通しをもつ。	○「授業づくり」アンケート
6月18日 Plan Check ○理科・生活科における教科固有の資質・能力と学習の基盤となる資質・能力について、及び評価についての共通理解を図る。	○理科・生活科における教科固有の資質・能力と学習の基盤となる資質・能力について ○カリキュラム・マネジメントのツールとしての理科カリマネシラバスと指導の具体例について
6月30日 Plan Check ○理科・生活科における教科固有の資質・能力と学習の基盤となる資質・能力を育成するカリキュラム・マネジメントとその手法としての授業設計評価マトリクスについての共通理解を図る。	○第5学年理科「台風と気象情報」単元構想図及び本時の授業設計評価マトリクス検討 ○理論研修授業設計評価マトリクスの具体例について
7月16日 Do Check ○授業研究を通して、理科における教科固有の資質・能力と学習の基盤となる資質・能力を育成するカリキュラム・マネジメントとその手法としての授業設計評価マトリクスについての共通理解を図る。	○第5学年理科「台風と気象情報」授業研究及び協議会 ○指導・助言 
8月3日（夏期休業中） Check Action ○「授業づくりについて」アンケートを記入し、授業改善に向けての見通しをもつ。 ○1学期の取組を振り返り、成果と課題を明らかにするとともに、2	○「授業づくり」アンケート ○学校評価表に基づく1学期取組の検証

学期への見通しをもつ。		
8月20日（夏期休業中）	Check Action	○カリマネマップの改善
○各学年のカリマネマップを振り返り、より効率的な教科・横断的学習になるよう改善を図る。		
8月25日（夏期休業中）	Check Action	○第1学年生活科「あきとなかよし」及び第4学年理科「ものの温度と体積」単元構想図及び指導案検討
○1学期授業研究の成果と課題を踏まえ、理科・生活科における資質・能力及び学習の基盤となる資質・能力を育成するためのカリキュラム・マネジメントの在り方についての共通理解を図る。		
10月30日	Check Action	○「授業づくりについて」アンケート
○「授業づくりについて」アンケートを実施し、授業改善に向けての見通しをもつ。		
10月8日	Check Action	○全国学力・学習状況調査の採点及び学年全体における課題、改善策の作成 分析：学習の基盤となる資質・能力ベース
○第6学年が実施した全国学力・学習状況調査の分析を通して、それぞれの学年における学力向上に向けた取組についての共通理解を図る。		
10月23日	Plan Do Check Action	○第1学年生活科及び第4学年理科の模擬授業を通して、児童一人一人の支援のあり方についての改善を図る。
○第1学年生活科及び第4学年理科の模擬授業を通して、児童一人一人の支援のあり方についての改善を図る。		
10月26日	Do Check	○第1学年生活科「あきとなかよし」及び第4学年理科「ものの温度と体積」授業研究及び協議会 ○指導・助言
○授業研究を通して、理科・生活科における教科固有の資質・能力と学習の基盤となる資質・能力を育成するためのカリキュラム・マネジメントについての共通理解を図る。		
10月29日	Plan Check	○第2学年生活科「つくろうあそぼうくふうしよう」単元構想図及び指導案検討
○生活科における表現力と学習の基盤となる資質・能力を育成するためのカリキュラム・マネジメントの在り方についての共通理解を図る。		
10月30日	Check Action	○「授業づくりについて」アンケート ○児童アンケート（第4～6学年）
○「授業づくりについて」アンケート及び児童アンケートを実施し、授業改善に向けての見通しをもつ。		
11月5日	Check Action	○「向島スタンダード」について ・取組の成果 ・「向島スタンダード」に手を加える必要性 ・より良くしていくための次の一手
○向島中学校区で行っている資質・能力の向上を図るカリキュラム・マネジメントにおける取組の現状を振り返り、4校共通の方向性を打ち出すための本校の意見をまとめる。		
11月12日	Plan Check Action	○理科カリマネシラバス改善及び生活科カリマネシラバス作成
○4月に提示した各学年の理科カリマネシラバスを振り返り、改善する。また、その有効性を踏まえて生活科カリマネシラバスを作成する。		
11月19日	Do Check	○2学年生活科「つくろうあそぼうくふうしよう」授業研究及び協議会 ○指導・助言
○授業研究を通して、生活科における教科固有の資質・能力と学習の基盤となる資質・能力を育成するためのカリキュラム・マネジメントについての共通理解を図る。		
12月25日	Check Action	○「授業づくりについて」アンケート ○児童アンケート（第4～6学年）
○「授業づくりについて」アンケート及び児童アンケートを実施し、授業改善に向けての見通しをもつ。		
1月7日	Check Action	○授業設計評価マトリクスレベル3以上の児童の割合について ○理科単元末テストにおける思考力・判断力・表現力を問う問題の平均通過率及び今後に向けた取組について
○2学期の取組を振り返り、成果と課題を明らかにするとともに、3学期への見通しをもつ。		

(4) 研究の重点

① 理科・生活科カリマネマップの作成と改善

研究教科である理科，生活科を軸に，教科等横断的に学習することを通して効率的に学習の基盤となる資質・能力を育成するために，カリマネマップを作成した。 **資料1**

バージョン2 令和2年11月に前年度担任が作成したものを修正したもの

第5学年 理科年間学習計画(カリマネマップ)											
月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
時数											
単元名・小単元名											
重点を置く学習内容											
すべ											
言語能力											
情報活用能力											
問題発見・解決能力											
総合的な学習との関連											
各教科・領域等との関連											
学校行事											

重点を置く学習内容を明記

すべ…「比較」「関係付け」「条件制御」「多面的思考」 本校では理科のみならず全教科で活用

学習の基盤となる資質・能力のうち、「言語能力」「情報活用能力」はそれぞれ「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体性」に分けてそれぞれの具体的な姿を明記

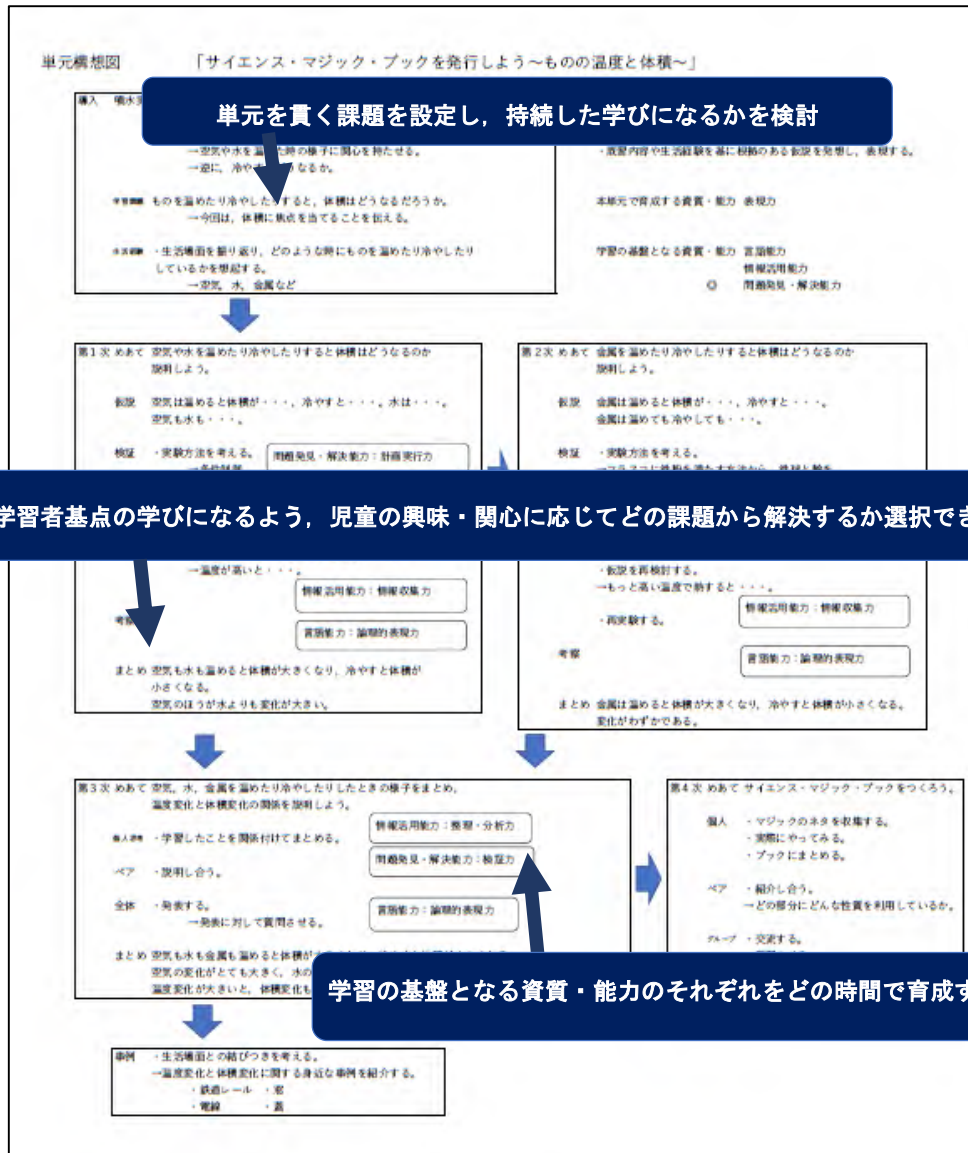
総合的な学習の時間，各教科・領域，学校行事との関連が一目で分かるように明記

11月には実際に実施したものをフィードバックしたバージョン2を作成した。その際，修正した箇所は赤字で，加筆した箇所は青字で分かるようにしている。また，カリマネマップが有効であったため，さらに生活科カリマネマップも作成している。3月には1年間を振り返りさらに加筆・修正をして次年度に引き継ぐバージョン3も作成予定である。

② 資質・能力育成のための単元構想図

学習の基盤となる資質・能力及び理科・生活科における資質・能力（「知識及び技能及びその基礎」「思考力，判断力，表現力等及びその基礎」「学びに向かう力，人間性等及びその基礎」）を育成するために，その単元で育成する資質・能力を明らかにする。そのために，単元全体を貫く課題を設定し，児童が関心や意欲をもって対象と関わることで，自ら問題を見だし，主体的・協働的に問題解決に向けて追究していく学習者基点の単元構想を設定し，授業研究事前研修では指導案ではなく，単元構想図を検討した。この単元構想図についてはあくまでも授業の大まかな設計図であり，本時のめあて，その時間で育成する資質・能力，児童に使わせたい「すべ」を書くこと以外の形式は自由とした。単元を貫く課題は適切か，児童の興味・関心に合わせながら学習計画を立てられるものになっているかそれらを通して，単元全体を見通し，学習者基点で主体的・対話的・深い学びで持続した学びになるかを検討するものである。 **資料2**

第4学年理科「サイエンス・マジック・ブックを発行しよう ～ものの温度と体積～」単元構想図



③ 授業設計評価マトリクス

授業設計評価マトリクスは、予想される児童の反応からどのような支援を行うことで、より高いレベルを目指すかを記載している。最大の特徴は、現段階での児童一人一人を想起し、全体をレベル1～4に分け、より高いレベルにするための支援方法を、児童の実態に合わせた支援を明記していることである。資料3

レベル3がいわゆるB評価、レベル1及び2はB評価に満たない児童、そしてレベル4はA評価、加えて生活場面とのつながり等、深い学びに向かっていく児童と捉えている。

<授業設計・(形成的)評価マトリクス(見取り表)>

本時の目標	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
日本に近づく台風の動きについて、様々な資料からこれまでの台風の動きや今後の傾向についての自分の考えを説明することができる。	① 過去の資料から台風の進路について説明するための適切な資料を調べ、説明もできない段階	② 過去の資料をもとに日本に近づく台風の進路は説明できるが、今後の進路は説明できない段階	③ 衛星画像やアメダス、ニュース等の気象情報を活用しながら、日本に近づく台風の進路と今後の傾向を説明する段階	④ レベル3に比べて、衛星画像やアメダス、進路予想図などの情報を駆使して説明することができるのではないかと考える段階
どの資料を使おうかな、台風はどのように進むのか、台風の進路について説明したい、衛星画像やアメダス、進路予想図などから説明したい、衛星画像やアメダス、進路予想図などから説明したい、衛星画像やアメダス、進路予想図などから説明したい	① どの資料を使おうかな、台風はどのように進むのか、台風の進路について説明したい、衛星画像やアメダス、進路予想図などから説明したい	② 社会科では、台風はこのあたりで発生して、日本に近づいていくことが多いと学	③ 衛星画像から日本に近づく台風の多くは南の太平洋上で発生し、一週間程度かけて	④ このように、衛星画像やアメダスを見るためにニュースを見たり、インタ
台風の進路のあたりで発生して、進路がどうなるか、衛星画像やアメダス、進路予想図などから説明したい、衛星画像やアメダス、進路予想図などから説明したい	① 台風の進路のあたりで発生して、進路がどうなるか、衛星画像やアメダス、進路予想図などから説明したい	② 日本に上陸する台風の進路	③ 台風の進路のあたりで発生して、進路がどうなるか、衛星画像やアメダス、進路予想図などから説明したい	

誰がどのような反応をするか、一人一人想起しながら明記

その一人一人にどのような手立てを講じたり、より思考させたりするための発問を明記

模擬授業では、授業のどの段階でレベル3にあげるための手立てを講じるか、そしてその後どの段階でレベル4になるための手立てを講じるかを検討した。

授業研究では、どの学級も一人一人の実態を適切に把握できていた。一方で支援方法が実態と即していない部分もあったが、この取組を継続していくことで一人一人の授業力が高まっていくと考える。

2 授業実践を通して

(1) 第5学年理科「台風に備えよう～台風と気象情報～」

① 研究授業 **Plan**

- ・前単元を「ヒトのたんじょう」から「雲と天気の変化」に変更した。また、社会科では「国土の気候の特色」「暖かい地方のくらし」と関連付けた。
- ・情報活用力を育成するために、前単元ではタブレットで衛星画像と実際の雲の動きを関係付けたり、今後の天気の変化を予測させたりする活動を行った。
- ・本単元に入ってから、児童は衛星画像とアメダスや天気図を関係付けた情報を気象庁のWEBページやYouTubeから情報を集めた児童が多かった。

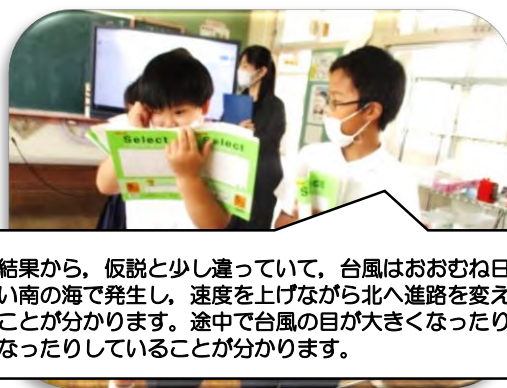
Do

資料4-①

- ・授業研究では、過去の台風の動きが分かるURLを一人一人が集めた一つのファイルに貼り付けたページをそれぞれが確認することで台風の大まかな動きについて考察を書き、交流した。



この資料だと、台風はどこで発生しているかな。また、その後との方向に向かって進んでいるかな。



調べた結果から、仮説と少し違っていて、台風はおおむね日本の遠い南の海で発生し、速度を上げながら北へ進路を変えていることが分かります。途中で台風の目が大きくなったり小さくなったりしていることが分かります。

【情報活用能力】

授業設計評価マトリクスに基づく、児童実態に応じた支援

【問題発見・解決能力】

考察を伝え合い、考えを広げたり深めたりするペアトーク

② 協議会 **Check**

協議の視点	参考になったところ	課題及び改善点
児童には、学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用力、問題発見・解決能力）及び表現力が付いていたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えについて、集めた情報を根拠や理由にしながら表現することができている。 ・タブレットを活用して台風について各自が情報を集め、それを全体で共有化していたことで、多面的、多角的な見方となっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集めた情報をもとに、自分の言葉で表現することはスパイラルでより定着させる必要がある。 ・集めた情報から必要な情報を精選・分析する力をこれから付けていく。 ・本時の場合は方角を可視化することで、より論理的に文章にすることができた。
教師によるマトリクスを活用した支援は有効であったか。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時で付けたい力が明確かつ児童の実態把握が的確で、それぞれのレベルに上げるための支援も効果的であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ全ての児童がレベル3に到達していた。それらの児童をどの場面で、どのようにレベル4まで上げていくかについて、今後考えていく必要がある。

③ 指導・助言

- 単元構想図により付けたい力を構造化し、問題発見・解決能力を育成する。そしてマトリクスにより本時で目指す姿を明確化・具体化し、そのために児童一人一人を想定して個別最適化した支援を行うことは有効である。
- ▲集めた情報を活用して説明することができているので、次のステップとしてその情報がいつのもので出典はどこかを説明するとより説得力が増す。
- ▲言葉や文章だけでなく、動画を基に図に描き表してそれを活用しながら表現できるようにする。
- ▲説明の際は、時間的な概念だけでなく空間的な概念も意識させる。



④ 研修を受けての確認事項

- ◆必要な情報を精選・分析し、キーワードを用いて自分の文や文章で表現する。そのために、まずは話型を提示し、その話型で表現できるようにする。各教科で学ぶ話型を活かし、使える話型を増やしていくことで、時や場に応じて適切な話型を児童自ら選択し、使うことができるようにする。
- ◆文や文章に加え、絵や図、表、グラフ、演示など、「もの」を組み合わせて表現することができるようにする。
- ◆授業設計評価マトリクスについては、それぞれのレベルの児童をどの場面で次のレベルに引き上げるかも具体的に考えておく。



⑤ その後の取組

Action

1年	<ul style="list-style-type: none"> ・どう話したらよいか分からない児童のために話し方の話型を示すようにした。 ・発表することが難しかった児童が手をあげて発表できるようになってきた。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の仕方や話し合いの進め方について話型を提示したことで、児童の不安感が低減し、発表に苦手意識をもつ児童が自信をもって発表できるようになった。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・理科の考察を書く際に、実験結果を踏まえ、その授業におけるキーワードを押さえるとともに、書き方のモデルを提示することにより、書くことが難しい児童への支援を行った。その結果、84%の児童が話型に沿って書くことができるようになった。また、授業の振り返りにおいて、次時以降の授業で学びたいことを具体的に記入するようになり、持続した授業展開を図ることができるようになった。 ・国語科の学習において、教科書本文の内容を項目ごとに表に整理する活動を通して、必要な情報を読み取り、読み取ったことを基に情報を整理し、自分の考えをまとめる力がついたとともに、表を用いながら分かりやすく相手に説明する力がついた。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを整理して伝えさせるために、話したり書いたりする場面で型を提示したり、モデルを例示したりすることで具体的なイメージを持たせる取組を繰り返した。86%の児童が型に沿って話したり書いたりできるようになったが、さらに言葉を足して自分の考えを詳しく伝えていこうとしている児童は5%といまだ低い。 ・理科の実験・観察、社会科の都道府県の学習では、絵や図、表、グラフなどを用いて情報を整理し、自分の考えをまとめる活動を積極的に取り入れた。73%の児童について、図示したり例示したりすることで分かりやすく伝えようと工夫することができるようになった。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・考察を書くのが難しい児童のために、視点を明記したヒントカードを用意するようにした。また、指導の結果、89%の児童が絵や図と文章で考察を書くことができるようになった。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科の授業では、自分たちで資料を作成して発表している。必要な情報を精選し、見る人が分かりやすいよう発表ページのレイアウトを考えるなど、相手意識をもって情報を活用している。

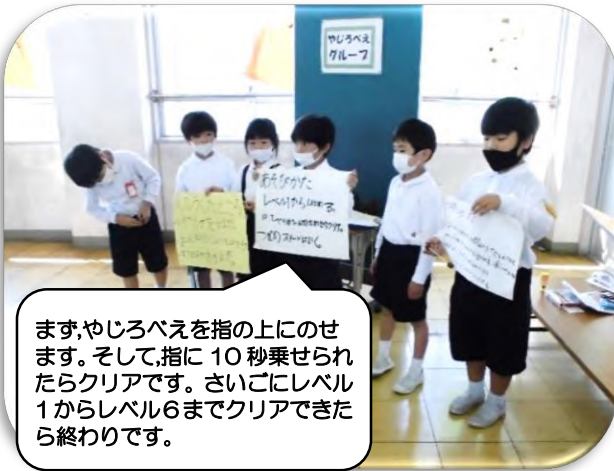
(2) 第1学年生活科「あきはかせになろう！～あきとなかよし～」

① 研究授業

Plan

- ・本校は、山や海に囲まれ、自然豊かな環境に位置するため、自然を使って遊び、自然の変化についてはよく感じ取り興味をもっている児童が多い。その興味・関心を生かして、作品作りに入る前に見つけた秋の自然物について、諸感覚を働かせながら観察し、その特徴を生かして遊ぶことができるよう留意した。
- ・本単元で問題発見・解決能力を育成するために、児童が作ってみたいと思ったものでグループを分け、各グループで関わり合いながら、解決していく活動を行った。
- ・本単元に入ってから、友達から出た生活経験や工夫を積極的に取り入れながら活動を進めた。

- ・授業研究では、グループごとに秋の作品の遊び方と工夫したところについて発表し、作品で遊ぶことを通して気付いたことをワークシートにメモし、交流した。



まず、やじろべえを指の上ののせます。そして、指に10秒乗せられたらクリアです。さいごにレベル1からレベル6までクリアできたら終わりです。

【言語能力】

国語科で学習した「おもいでしてかこう」と繋げ、順序に気をつけた説明



指の真ん中に乗せた方がうまくバランスがとれるよ。

なかなか10秒のせられないな。

【問題発見・解決能力】

他グループの児童と遊ぶ中で、気づきを伝え合うことでの深まり。

② 協議会 Check

協議の視点	参考になったところ	課題及び改善点
児童に、学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力）及び表現力が付いていたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に体験させることでより豊かに表現することができていた。 ・「まず」「次に」「最後に」と、順序立てて表現できていた。 ・聞き手を意識し、大きな声ではっきりと表現できていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流するときの視点「見て」「聞いて」「触って」「匂って」「感じて」は、教師から提示しなくても児童から出すことができた。 ・体験したことを基により具体的に表現できるように、より個別最適化した補助発問が必要。
教師によるマトリクスを活用した支援は有効であったか。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ作業に入る前にレベル3に引き上げるための手立てとして、視点を共通理解したことで一人一人の学びが深まった。 ・児童の反応を事前に想定し、効果的に補助発問や支援をすることで一人一人が自分事として課題解決しようと考えていることができていた。 ・持続した学びになるよう、より高いレベルを目指すための声かけが効果的に作用していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童がより豊かに表現できるように、わざとうまく動かないおもちゃを用意するなどして比較できる物を用意したり、視覚的に支援をしたりすると良い。 ・レベル4まで引き上げるためには、まずはレベル3にしなければならぬ。個別の実態に合わせてスモールステップで支援していく。

③ 指導・助言

- 教師による児童の一人一人の実態把握が適切で、本時で目指す子供像とマトリクスの中身がマッチしており、マトリクスを効果的に活用して本時の目標を達成することができていた。
- ▲マトリクスをより活用するためには、よりきめ細かな机間指導が大切。そのためには、全てのグループの遊びを1時間でするのはではなく、例えば半分に分けて残りを次の時間に行うことで、より深い学びにすることができる。
- ▲支持的発問よりも支援的発問をすることで、より子供の思考を深めることができる。その際、低学年は複数の質問をするのではなく、1つの発問で考えられるよう、発問を精選する。
- ▲「見て」「聞いて」「触って」などはシールにして日常的に使わせると言語能力や表現力が育つ。
- ▲遊びのルールは点数を減点方式にするのではなく、加点方式にすることを普段から意識することで、支持的風土が育つ。

④ 研修を受けての確認事項

- ◆まずは全員を授業設計評価マトリクスにおけるレベル3にすることを旨とするために、個別の実態に合わせてスモールステップで支援していく。
- ◆支持的発問よりも支援的発問を多くできるよう授業展開を仕組むことで、児童の問題発見・解決能力を育てていく。
- ◆特に低学年は複数の質問をするのではなく、1つの発問で考えられるよう、発問を精選する。

⑤ その後の取組

Action

1年	・「見て」「聞いて」「触って」などのシールを作成し、気付きを書く際に使用している。児童が五感をより意識でき、詳しく気付きや感じたことを表現できるようになってきている。
2年	・マトリクスを活用し、全児童をレベル3に引き上げられるよう、個別の支援を考えた。特に支援的発問になるよう、発問の内容を精選した。
3年	・マトリクスのレベル3を達成するために、友達の意見に触れ、新しい気付きを発見し、自分の考えと比較してさらに思考を深めることができる場面を多く設定する中で、支援的発問の一覧(例)を意識しながら授業を行った。その結果、理科の授業では、実験方法を自ら考え、実験の計画を立て、実行するなど児童同士の意見の交流により学びが深まった。
4年	・マトリクスのレベル3に到達させるための手立てとして、児童の実態に即した声かけ等の支援を心がけている。その子がつまずきそうな点を事前に見通した上で、授業中の様子から見取り、その都度適切な支援を続けてきた。その結果、実験結果だけに着目して自分の考えを書いていた児童が、実験中に着眼点を与えることで、実験結果を比較したり関係付けたりして思考できるようになった。
5年	・支援的発問の一覧(例)を参考にしながら日々の授業を進めている。このことは特に特別な支援を必要とする児童に有効だと感じている。また、他の児童もより多様な意見を出すようになり、児童同士の意見から学びが深まっている。
6年	・一人一人に必要な支援を考えながら個別指導を行っている。実態を把握することで、授業中にできる支援と休憩時間等に補充する支援などに整理でき、よりその場で必要な支援を考えることができるようになってきた。 ・児童の思考が深まるよう、発問の数を減らし、児童同士で話し合いをさせる等の活動を取り入れることで、受け身ではなく、自ら学ぼうとする児童が増えている。

(3) 第4学年理科「サイエンス・マジック・ブックを発行しよう～ものの温度と体積～」

① 研究授業

Plan

- ・根拠のある仮説を発想させるために、具体的な生活場面を挙げ、空気や水、金属を温めたり冷やしたりしたときの体積変化について想起させる。
- ・ぬるい湯と熱い湯、水と氷水のように幾つかの条件下で実験させることで、温度変化と体積変化の関係について比較して考察させるための視点を与える。

Do

資料4-③



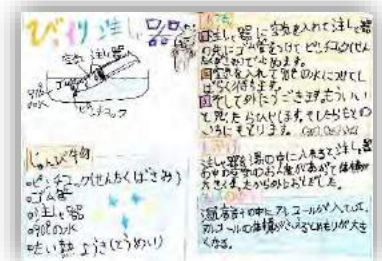
【情報活用能力】

幾つかの条件下での実験することで、結果を比較した必要な情報の収集



【問題発見・解決能力】

温度変化と体積変化を関係付けながら物質による変化の違いについての考察



サイエンス
マジック・ブック

② 協議会

協議の視点	参考になったところ	課題及び改善点
児童には、学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力）及び表現力が付いていたか。	<ul style="list-style-type: none"> • 常温の水と熱湯だけでなく、あえてぬるま湯を用意しておくことで、児童が問題点を発見し、温度が高い方が体積は大きくなることを実感として捉え、深い学びに繋がった。 • 「どうしようか？」と声かけすることで、児童が主体的に問題を解決しようとしていた。 	<ul style="list-style-type: none"> • どの児童もみんなの前で堂々と表現することができるよう、経験を積ませたり肯定的評価で自信を付けたりする必要がある。 • 考察やまとめを書かせる際、主述を意識させるとともに本時で使わせたい用語をキーワードとして意識的に使えるように日常的に指導していく。 • 文や文章だけでなく、図や表も使いながら表現できるようにしていく。
教師によるマトリクスを活用した支援は有効であったか。	<ul style="list-style-type: none"> • 考察を書きにくい児童のために、書く前にあらかじめ視点を全体で確認したり自力解決の途中で例として話型を提示したりしたことで、レベル2の児童をレベル3にすることができていた。 • 実態把握が的確で、児童同士の気づきを関係付けられるように発問することで、レベル4まで到達した児童がいた。 	<ul style="list-style-type: none"> • レベル1の児童に対しては、より細やかな支援が必要である。児童実態によっては、個別最適化した支援ばかりでなく、途中で一斉に行う指導がより多く必要となる。

③ 指導・助言

○始めにぬるま湯を入れたことで、熱湯との比較がより明確になった。

▲体積の概念について、算数科では第2学年で「かさ」を、そして第5学年で体積を学習するようになっているため、この単元においては概念についてよりていねいな指導を行う必要がある。

▲マトリクスには主語や要因を入れると良い。また、より活用するために、きめ細かな机間指導が大切である。

▲マトリクスのレベル3からレベル4に上げることを目指す際には、学習者基点になるよう、教師があまり声かけをしないようにすることで、表現力が育つ。

④ 研修を受けての確認事項

◆文を書かせる際は、主述を意識させる。

◆まとめを書かせる際は用語をキーワードとして全体で統一し、それを使って自分で書かせるようにする。

⑤ その後の取組

Action

1年	<ul style="list-style-type: none"> • 文章を書く際に述語から書き始めてしまう児童に対して、主語を必ず書くことの声かけを繰り返し行うことで、国語の「おはなしをかこう」ではほとんどの児童が自分で主語を入れて話を書くことができた。
2年	<ul style="list-style-type: none"> • まとめを書く指導に取り組んだ。分かったことだけでなく、友達と比べて気付いたことや他の学習に生かしたいことなど、視点を明確にして、書かせるようにしている。
3年	<ul style="list-style-type: none"> • 国語科の文章の構成について学習したことを関連付け、算数科を始め、他教科の学習においても主語と述語を意識して文章を書くように指導してきた。その結果、主述を意識して文章の構成を考えながら相手にわかりやすく伝えるための工夫ができるようになった。
4年	<ul style="list-style-type: none"> • 主語と述語を意識して文を書くことについては、理科の仮説や考察、授業の振り返りを書く場面や国語科で感想を書く場面、算数科で解き方を説明する場面などで繰り返し指導した。また、文を読み取る際にも主語や述語が何かを問い、意識付けを図ってきた。このことにより、86%の児童が主語と述語をきちんと書くことができるようになった。 • 仮説や考察、まとめを書かせる際にキーワードを提示し、それらを用いて考えさせた。着眼点があはっきりとなったことで、86%の児童がキーワードを用いて自分の考えを書くことができるようになった。
5年	<ul style="list-style-type: none"> • まとめを書く際は、全体でその時間にはどのようなキーワードを使えば良いか児童に出させた後、文字数を指定して簡潔に書かせるようにしている。78%の児童が指定文字数以内で書くことができるようになった。
6年	<ul style="list-style-type: none"> • 文章の主述は、苦手意識をもっていなくてもねじれている児童が多かったが、個別指導を繰り返すことで80%の児童が主述を概ね正しく書くことができるようになった。 • まとめはまず児童にキーワードをあげさせ、そこから自分の言葉で書かせている。どんなまとめを書いたか数名発表させることで、多少の表現の違いはあっても同じ内容が書かれていればよいことを児童は実感してきている。

(4)第2学年生活科「つくろう あそぼう くふうしよう～わくわくおもちゃランドをひらこう～」

① 研究授業 **Plan**

- ・児童は、1年生の時に「たかみのあきであそぼう」の単元で、落ち葉や秋の木の実を使っておもちゃを作る活動を体験していたが、日頃の遊びとしては、試行錯誤しながら工夫を重ね、よりよい物を作って遊ぶという経験は少なかった。そのため、児童が主体的に身近にある物を使って、試行錯誤を繰り返しながらおもちゃ作りや遊びができる時間を充実させた。
- ・問題発見・解決能力を育成するため、友達の考えや工夫した点と自分の考えを比較する活動を仕組むことで、自分では気付けなかった工夫に気付き、より良いおもちゃや遊び方に気付けるようにした。
- ・児童が自分の考えを整理したり、友達に伝えたりできるように、他教科や日常生活と関連を図った。国語科「あそび方をせつ明しよう」の単元では、手作りおもちゃの遊び方を説明する文章を書くという言語活動を設定し、道徳科との関連を図り、友達との関わり方について考えさせ、相手を尊重しながら遊ぶことができるようにした。

Do 資料4-④

- ・授業研究では、友達のおもちゃで遊ぶ活動を通して、分かったことや気付いたことを整理し、グループで交流した。考えを伝え合うことで、自分では気付けなかった工夫点に気付くことができた。また、次時に改良したい点を明確にすることができた。



【問題発見・解決能力】
友達のおもちゃと比べることを通した、課題点や改善点への気付き



【言語能力】
国語科の授業で活用した付箋を用いた改善点の交流

② 協議会 **Check**

協議の視点	参考になったところ	課題及び改善点
児童には、学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力）及び表現力が付いていたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルを作成し、話型を提示していたことで、子供達が円滑に話し合いを進めていた。 ・友達の良い所を付箋に書くことで考えが整理でき、的確にアドバイスをすることができていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでまとめた工夫が全体で共有できるとよかった。 ・製作段階から「友達と比べて」という視点をもちながら活動を進めておくとうい。
教師によるマトリクスを活用した支援は有効であったか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「友達とくらべてどう？」や「ちがいはどこ？」などと着目させる声かけをしていた。 ・視点を与えて気付きを促していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表が苦手な児童のために、話型などが示してあるヒントカードを用意しておくとうい。 ・レベル3とレベル4の高まりの違いをはっきりとっておく。

③ 指導・助言

○単元計画をしっかりと立てていた。見通しをもち、学習内容や付けたい力を明確にしていた。
 ○話型のマニュアルやワークシート、付箋を用いた活動が一連の流れの中でつながっていた。児童が自分の考えをもち、主体的に話し合い活動に参加していた。
 ▲グループでの話し合い活動を通してまとめたものを発表した後、気づきをさらに深めていくためにホワイトボードを活用して学習をつなげることもできる。
 ▲教師が製作したおもちゃをもとに工夫を見つける児童が多かった。子供が製作したのから気づき、工夫を見つげられるとよかった。

④ 研修を受けての確認事項

- ◆学習の見通しをもたせるためにワークシート等を積極的に活用する。
- ◆児童に自分の考えをしっかりとらせ、発表させるために、十分な体験をさせ、自発的な表現につなげていく。

⑤ その後の取組

Action

1年	<ul style="list-style-type: none"> ・単元計画を考える際は、学習の見通しをもたせるために児童に単元の中で付けたい力を明確にし、児童の言葉や発言から単元計画を立てていくようにした。 ・全体発表の前に複数の児童と意見を交流させてから全体交流に入るようにしたことで、自分の考えと相手の考えの異なる点がどこにあるのかなどの理解が深められるようになってきた。また、自分の考えも自信をもって発表できるようになってきた。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、学習を通して付けたい力を意識させ、活動のゴールに向かってどのような活動をしていけば良いかを児童自身が考えられるようにしている。その結果、学習の見通しをもって児童が主体的に学習できるようになった。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・単元導入時において、単元計画を提示し、どのように授業内容を構成するのかを児童と一緒に考えることによって、見通しをもって授業が進められるようにしてきた。そのため、毎時間、どの段階を進め、どこまでを達成するのかといった目標を明確にして学習を進めることができている。 ・話し合いや意見を交流する活動の際には、実物を用いたり、順序立てて説明したりすることにより、相手にわかりやすく説明する力が付いたとともに、友達の考えを受け、新たな気づきを発見し、考えを広げたり深めたりすることができるようになった。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・単元導入時に全体の流れを順序立てて明示することで、今日の学習がどの段階を進めているのかについて見通しをもつことができている。 ・理科で実験・観察で直接経験させたり、社会科で動画や写真を提示したりすることで、実感をもたせ、自分の考えを伝えたいという思いを高めるための取組を進めた。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・自力解決に入る前に、既習事項を全体で復習し、黒板の右側に板書しておくことで、それまでの実験や観察したことを基に仮説を立てたり、算数科や社会科で自力解決をしたりすることができるようになった。 ・話し合い活動の際、国語科で学んだ、視点を明らかにして一人一人が意見を付箋に書いた上でグループの中で意見を分類し、考えを広げたり深めたりできる話し合い活動ができるようになった。また、このことは4年生合同での総合的な学習の時間において、児童がグループの4年生にやり方を教え、フィールドワークしたことから学んだことやもっと調べてみたいこと、ゲストティーチャーに聞いてみたいことなどを考える際に活用することができた。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・学習リーダーを中心に、総合的な学習の時間の単元の見通しをもたせ、全体の流れの中で本時の活動内容を確認している。見通しをもつことで、児童が主体となって活動内容を進めることができている。 ・固定のペアを作ることで、自分の考えを話さなければならない状況を作り、ペアの中で思いを伝える経験を多く積んでいる。発表に対する抵抗感をもつ児童が数名いるため、ペアやグループでの話し合い活動を充実させて自信をもたせるようにしている。

3 まとめ

(1)各学年の取組を通して

① 言語能力

成果

○第1学年:秋のものを使って作ったおもちゃを使った遊び方の説明をする際に、国語科「思い出して書こう」を活かして「まず」「次に」「最後に」を使って説明することができた。その学びは、算数科での説明の際にも繰り返し使わせているため、順序立てて説明できるようになった。



○第2学年:国語科「この人をしょうかいします」の学習において、生活科の学習で学んだことを生かすことで、児童は見通しをもち、より「はじめ」「なか」「おわり」のまとまりを意識し、文の構成を考えて、意欲的に紹介文を書く姿が見られた。



○第5学年:理科においては、児童が仮説や考察を書く際は、理科の見方・考え方(本校では「すべ」と呼んでいる)を生かし、自分の仮説と比較した上で結果から分かったことを順序立てて書くことができるようになった。まずは自分で考察を書き、グループでの交流を通して、友達の考えと比較したり、分類したりすることで、自分の考えを広げたり、深めたりすることができるようになった児童が増えた。



○第6学年:国語科や算数科などでは、友達と自分の考えを交流する際に、「自分と違う考えの人をたくさん見つける」「より説得力のある説明をする」等、交流の目的や意図を明確にすることで、根拠を明らかにし意欲的に自分の考えを説明することができるようになった。



第6学年 算数科 「角柱と円柱」

課題

○第2学年:友達の考えと比べながら聞き、自分の考えを表現することができない児童がいる。個人差が大きいので、視点を明確に指示したり、個別に声をかけたりするなどの支援を行っていく。

○第4学年:自分の考えをもとに、友達の考えと比べて、さらに考えを深めていくという段階にはいたっていない。話したり聞いたり、書いたり見たりする活動を通して、自分のものの見方や考え方を広げたり深

めたりしていこうとする態度を育てていく必要がある。そのため、学習の振り返りにおいて、友達から学んだことについて特に取り上げて発表させることで、学び合いの意識の向上を図っている。

- 第6学年：国語科や算数科などでは、相手の話を批判的に聞くことができず、相手の話を全て受け入れている。そのため、用意したメモや原稿の内容のみを伝え合っている。相手の話を聞いて疑問に思ったことを問い返したり、深く追求したりする聞き方を身につけることで、より質の高い交流を目指している。

② 情報活用能力

成果

- 第3学年：国語科「世界の家のつくりについて考えよう」では、児童が自主的に地図帳を用いて各国の位置を確かめていた。地理から気候風土を読み取り、土地の特徴や人々の暮らしが材料や家のつくりによどのよう影響を与えているのかを結びつけて考えることができていた。



ポリビアってどこにあるのかな？

標高はどれくらい？

児童の主な反応

- ・セネガルは、井戸をほってもしおからい水しかでないため、屋根で雨水を取り込んで飲み水にすると教科書に書いてある。
- ・どうしてセネガルは、しおからい水しかとれないのだろう。
- ・土地の特徴を地図帳で見つけて、理由を考えてみたいな。
- ・セネガルは海に面していて、海に近いと塩水しかとれないから雨水を使っているのではないかな。
- ・地図帳では標高を読み取ることもできそうだよ。

- 第4学年：いろいろな学習場面の中で、他教科・領域や生活場面と関係する内容について意図的にトピックに挙げて話すことを繰り返していることで、児童の気付く力、つまり問題発見する力を高めることにつながっている。理科の学習の中では、理科の有用性を感じてほしいという願いもあり、生活場面と密接につながる事例を多く紹介している。また、四季の生き物について気温との関係において学習を進める中では、社会科の学習との関連も意識し、気候や地形等にも言及しながら紹介した。児童についても、教科等横断的に学習内容を捉える力が付いてきたと実感している。例えば、総合的な学習の時間に防災について学習した際、理科「雨水のゆくえ」の学習を生かして、近所で起きた土砂崩れについて土の粒の大きさという視点から考察していた。そこから、友達が住んでいる地域では山の様子がどうかという新たな課題を設定して学習を進めることができた。



○第5学年：理科「雲と天気の変化」の単元では、chromebookを活用して児童が収集、整理・分析した情報を「スプレッドシート」を活用して全員が1つのファイルを共有して編集できるようにしたことで、簡単に参照することができるようになり、学びが深まった。このことは、次の単元「台風と気象情報」や、社会科等でも活かすことができた。授業提案したことで、他の学年や他校にも広げることができた。また、入力はキーボードによるローマ字入力で行っている。文字入力が少しずつ速くなるとともに、調べ学習で繰り返し使うことで、ページ内のどこにどんな情報があるか見つけたり、分からない言葉や読めない漢字を調べたりする習慣が身につく。



他学年への共有化
第6学年理科
共有した情報を使って

課題

○第4学年：自分で情報を収集してまとめることを苦手としている児童は、情報量が多い場合、必要な情報だけを抜き取り、まとめることに課題が残っている。例えば、総合的な学習の時間にテーマ学習を進める際、インターネットを活用して情報収集する場面で必要最低限の情報だけを精査することができない。そのため、何を伝えるためにその情報を選んでいるのかを考えさせることで、何が重要かを児童に主体的に判断させるように取組を進めているところである。

○第6学年：社会科では、児童自身が課題意識をもつことができず、調べる内容に対して疑問を深くもっていなかったり、調べる目的を理解していなかったりする状況があった。調べ学習をする際には、課題に対するキーワードを挙げ、インターネット検索をしたり、イメージマップにまとめたりする活動を続けている。

③ 問題発見・解決能力

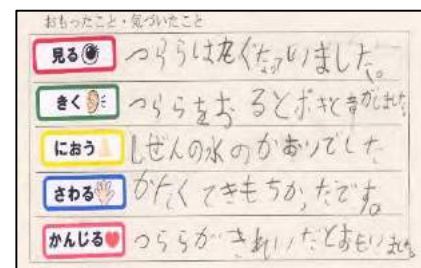
成果

○第1学年：生活科「あきはかせになろう！ ～あきとなかよし～」において実際に作品を作るに当たっては、図画工作科「見て・さわって・かんじて」で行った。その際、「やじろべえグループ」「どんぐり転がしグループ」など、児童が作ってみたいと思ったものでグループを分けた。そのため、「2年生が楽しめるおもちゃ」にするために、各グループで視点を持ち関わり合いながら、解決することができた。

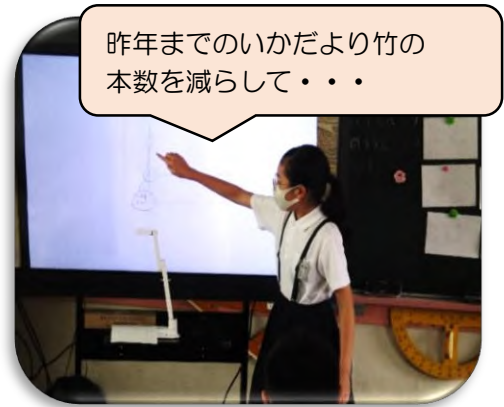


うまくゆびにのらないからたのしくないよ。

どんぐりの大きさをおなじくらいにしてみたら？



○第6学年：総合的な学習の時間では、毎年行われている江府島探検は何のために行うのか、一から考え、自分たちで試行錯誤しながら手作りいかだで江府島に渡るという課題を設定した。解決に向け、自分たちでいかだの設計図を作って一人ずつプレゼンをしたり、模型を作ったり、ミニチュア版いかだを作ったりと、何度も試行錯誤を繰り返した。本番用のいかだ作りを成功させるために、子供たちがアイデアを出し合いながら何度も成功と失敗を繰り返し、友達と協働しながら解決へと向かうことができた。



課題

○第2学年：集団解決において、考えを交流する際に、自分の考えを発表し、順序立てて説明することはできるが、友達の考えを聞いて、さらに思考を深めるという段階にはいたっていない。そのため、各教科における振り返りにおいて、友達から学んだことについて新たに発見したことや自分との考えを比較して分かったことについて、記述させることによって、学び合いの意識の向上を図っているところである。

○第3学年：各教科等において、自ら生活場面にある問題を見つけ、課題を解決する際、自力解決が難しく、探究の過程のいずれかの段階においてつまづいてしまう児童が多くいる。そのため、国語科においては、表に整理して情報をまとめる活動を取り入れ、総合的な学習の時間では、調べたことを項目ごとに整理し、工夫して情報を伝える活動を取り入れるなど、情報を収集し、整理して発信することができるための指導を繰り返している。

(2)全体を通して

① 成果

○資質・能力

学習の基盤となる資質・能力について、児童実態をもとに課題を挙げ、そこから育てたい力を具体的に設定した。それをもとに、いつ・どこで・何を・どのように指導・支援をしていくかを計画し、実施することで、児童の見取りを細やかに行うことができ、そこで付けたい力を高めることができた。

○カリキュラム・マネジメントの視点

教職員が学校教育活動全体を見渡して教科等横断的に教育内容を捉え、関連付けながら指導を図ったことにより、児童も他教科や生活と学習をつなげるという視点が育ってきた。

学習発表参観日においては、全学年の発表の中でそのことが感じられた。例えば、4年生では総合的な学習の時間で学習したことをまとめた「防災プロジェクト」をテーマに発表したが、理科「雨水のゆくえ」や社会科「自然災害からくらしを守る」で学んだことや地域の方から聞いたこと、自分が実際に現地を見て感じたことなどを織り交ぜてまとめていた。

～尾道市立三幸小学校～

1 三幸小学校の概要

(1) 本校の研究について

本校の学校教育目標は、「学びをつなぎ 豊かに表現し よりよいものを 主体的・協働的に 求め続ける三幸っ子の育成 ～日々のひたむきな教育活動を通して～」である。この目標は、昨年度末、児童の良い点や課題となる点を出し合い、全教職員で学校教育目標の見直しを図って決めた目標である。本校の重点とする資質・能力は、知識・技能、表現力、主体性、協働性である。ルーブリック表を作成して、具体的な目指す姿を明確にして取り組みを進めている。

この学校教育目標達成に向け、算数科を中心とした研究を行っている。研究主題を「表現力と主体性・協働性を育てるための算数科授業の創造」、サブテーマを「～交流内容の質的向上をめざして～」と設定した。本校の児童は、素直で何事にも意欲的に取り組もうとするが、いざ課題に直面すると、人の意見に流されたり、自分の思いを人に伝えにくかったりする実態がある。予測不能なこれからの時代を生き抜くためには、今まで学んだことをつなぎ、自分の考えをもち、臆することなく相手に伝わるまで表現し、友達と協働しながらよりよいものを求めて課題解決に立ち向かう力を付けなければと考える。

(2) 昨年度の取組から見えてきたこと

昨年度から、向島中学校区で研究を進めてきている。1年目は、向島中学校区で決めた学習の基盤となる「学びのプロジェクト」の「向島スタンダード」や「振り返り」について算数科を中心に取組を進めてきた。昨年度末に、成果と課題を出し合う中で、今年度に向け、大きく3点の取組が必要であることが見えてきた。

1点目は、「組織的なカリキュラム・マネジメントの推進」である。昨年度も、算数科を中心として、他教科との関連を図りながら、学校教育目標達成に向けたカリキュラム・マップは作成していたが、教職員が意識して実際の授業実践につなげることができていないという課題が見られた。

そこで、今年度は学校評価に落とし込み、毎月進捗状況の見取りと見取りから必要な手立てをブラッシュアップしながら継続して取組を進めている。

2点目は、「算数科における学習の基盤となる資質・能力の捉えの明確化」である。昨年度までは、学習の流れは教職員の中での共有化はできていたが、学習の基盤となる資質・能力を意識した授業実践が弱いという課題が見えてきた。

そこで、今年度は、算数科における学習の基盤となる資質・能力の本校の捉えを明確にすることで、意識して授業実践を積み重ねることとした。

3点目は、「子供と共に学びの実感を伴う取組の推進」である。教職員の共有化も必要だが、昨年度の成果として子供を巻き込みながら、その学びの実感を子供達と共有する場を設定することが小規模校である本校の特色であり、強みでもあることに手応えを感じた。

そこで、集会や異学年交流を意図的に取組の中に仕組むことで、子供と共に学びを実感しながら取り組むこととした。

2 具体的な取組

(1) 組織的なカリキュラム・マネジメントの推進に向けて ～学校評価表への落とし込み～

〔本校の課題及び悩み〕

- ・年間指導計画表に各教科の結びつきを記したカリキュラム・マップを作成し、職員室に掲示することで「見える化」を図っているが、進捗状況の把握が担任任せになっている。
- ・カリキュラム・マップから付けたい力「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」のどの能力とつながっているのかが示されていない。

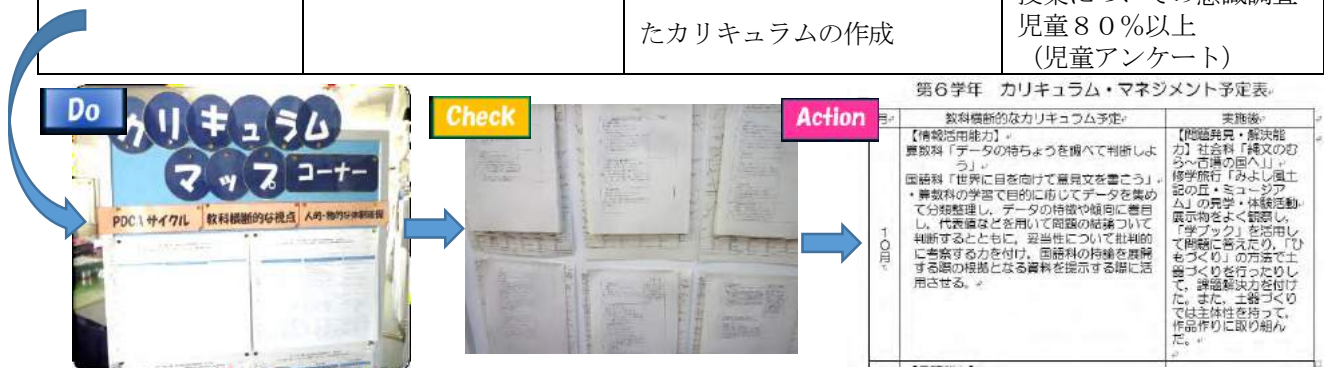
〔課題に対する取組〕

- ・学校評価表に落とし込み、月ごとに教科等横断を意識した授業実践の進捗状況を把握する。
- ・月ごとに実践表を作成し、授業実践を振り返り、次月の参考とする。
- ・月ごとの計画表に、「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」を記すことで、意識して授業実践を行うようにする。

○学校評価表 *カリマネの部分のみ

Plan

中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価指標
カリキュラム・マネジメントの推進	○小中9年間の系統を踏まえたカリマネの推進 (学びをつなぎ、自ら探求しようとする姿)	○教科横断的なカリキュラムの実践 ・言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力を活用したカリキュラムの作成	○カリキュラム・マップの作成と活用 月1回以上の見取り(教師アンケート) ○教科等横断を意識した授業についての意識調査 児童80%以上(児童アンケート)



(実践表は「エネルギー小」で「効果大」になるよう何度もやりながら変えていった。)

〔計画表を踏まえた授業実践〕

カリキュラム・マップで示した年間計画を月ごとに記した計画表を作成した。月ごとに作成していくことで、どの教科と関連させて授業実践することが、より教育内容の質を高めるか、今一度見直すことができ、教職員個々の意識化につながった。また、他の学年が、どんな実践をするのかが教職員で共有できるようになった。月ごとの計画表に、学習の基盤である「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」のどの能力と関連しているかも記すことで、日々の授業がより具体的なものになってきた。さらに、毎月継続して実践したことを振り返ることで、授業の成果・課題をもとに次月への修正も行い、計画が実践へとつながるようになってきている。

ここで効果的だった手立ては、教科を関連させたことで、子供達の学びが深まった点等を、暮会等で話題にあげ、カリキュラム・マネジメントの良さを教職員で実感する場をもったことである。

(2)算数科における学習の基盤となる資質・能力の捉えの明確化

【本校の課題及び悩み】

- ・本校は、「表現力と主体性・協働性を育てるための算数科授業の創造～交流内容の質的向上をめざして～」について研究に取り組んでいる。研究内容は、「交流内容の質的向上」と「数学的な表現力の向上」である。昨年度から、重点とする資質・能力のルーブリック表（表現力・主体性・協働性について）を作成し、目指す姿を明確にし、共有化を図ってきた。児童にも分かりやすい言葉で考えさせ、行事等にもルーブリック評価を活用し、自らの姿を振り返らせる取組を進めてきた。しかしながら、算数科において、学習の基盤とする資質・能力との関連を明確にしておらず、学習の基盤をより意識した授業実践が弱い。

【課題に対する取組】

- ・本校での重点とする資質・能力と学習を基盤とする資質・能力との関連性を本校としての捉えとしてまとめていった。本校の「表現力」は「言語能力」と関連、本校の「主体性」は「問題発見・解決能力」、「情報活用能力」と関連していると捉えることとした。
- ・また、算数科の授業における学習の基盤となる資質・能力の捉えを明確にした授業の流れを作成することで、より学習の基盤としての資質・能力を意識して授業改善を進めていくこととした。

ルーブリック

令和2年度 三幸小学校 資質・能力			
	表現力	主体性	協働性
低学年	自分の考えを結論先行で理由をつけて伝える。	学習の見通しを持って、進んで学ぶことができる。	友達と関わって学習を進めることができる。
中学年	友達の考えと自分の考えを比較してつなぎ発言をする。	自分の目標を明確にし、その達成のための手段を考えることができる。	相手の考えを受け入れ、他者の考えと自分の考えの良さを活かしてつなぎながら学びを深めたりすることができる。
高学年	相手の発言と自分の考えを比較し、よりよいものへとつなげて伝える。	学びの見通しを持ち、自ら判断・創造して学習を進めることができる。	お互いの良さや違いを尊重し、よりよい学びをうみだすために合意形成を図り、学びを広げることができる。

児童へのアプローチ

ルーブリック（5・6年）

	レベル1	レベル2	レベル3
主体性	課題の使い方を考え、見通しをもって学習することができる。	自分の課題を持ち、解決手段を考えることができる。	学びの見通しを持ち、自ら判断・創造して学習を進めることができる。 自分の学びを分かち合い、次につなげる。
表現力	根拠をつけて相手に分かりやすく伝える。	資料や具体例を挙げて分かりやすく伝える。	相手の発言と自分の考えを比較し、よりよいものへとつなげて伝える。 もっとこうすれば… もし…だとすると…
協働性	交流学習を通して友達の考えの良さを活かすことができる。	交流学習を通して、自分の学びの意図を表現することができる。	お互いの良さや違いを尊重し、よりよい学びをうみだすために合意形成を図り、学びを広げていくことができる。

個人目標の決定

異学年交流

算数科における目指す姿と学習の基盤との関連

重点とする資質・能力	本校の目指す姿と学習の基盤となる資質・能力の捉え
数学的な表現力	自分の考えを、言葉・数・式・図・表・グラフ等を使って分かりやすく説明する力 自他の考えを比較・検討し、前者の発言に関連することができる力 →「言語能力」と関連
主体性	学習することに興味関心をもち、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学びを振り返る姿 →「問題発見・解決能力」、「情報活用能力」と関連
協働性	学習課題の解決のために、合意形成を図りながら協力して、よりよい解決方法を見つけ出そうとする姿 →全体交流における「問題発見・解決能力」と関連

○ 算数科の授業における学習の基盤となる資質・能力の捉え

算数科 授業の流れ

資質・能力の捉え
() 内は本校の資質・能力との関連

1 問題把握と課題設定
○問題から今日のめあてを明確にする。

めあての設定

2 自力解決
○自分の考えを分かりやすくノートにまとめる。

3 ペア等交流
○自力解決したことを交流する。
(向島スタンダードの活用)

子供と学びの実感を伴う取組に掲載

4 全体交流
○全体で解決方法を確認する。
(向島スタンダードの活用)

5 まとめ
○めあてをもとにしたまとめをする。

6 評価問題
○本時に取り扱った類似問題をする。

7 振り返り
○振り返りの視点をもとに授業の振り返りを行う。
(学年ブロックごとに決めた「振り返りカード」の活用)

子供と学びの実感を伴う取組に掲載

問題発見・解決能力 (主体性と関連)
「おや、今日の問題はなんだろう」と興味をもち、自分の目標を明確にして問題に取り組む。

情報活用能力 (主体性と関連)
学びの見通しをもち、既習事項、他教科、生活などと結び付けて、自分で学習を進める。

言語能力 (表現力と関連)
自分の考えを相手に分かりやすく伝えたり、相手の考えを説明したりする。

問題発見・解決能力 (主体性・協働性と関連)
全体交流を通して自他の考えを比較・検討し、よりよい考えを見つけ出していく。

情報活用能力 (主体性と関連)
本時の学習を整理してまとめ、今日の学びを活かして評価問題を行う。

情報活用能力 (主体性と関連)
問題発見・解決能力 (主体性と関連)
本時の学習を整理して振り返り、新たな課題を見出したり、他教科や生活へ広げたりする。

研究内容「交流内容の質的向上」「数学的な表現力の向上」に向け、向島中ブロックで作成した「向島スタンダード」や「振り返りの視点」を活用し、「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」向上に向け、子供を巻き込みながら取り組む事とした。〔(3)に掲載〕

授業実践

令和2年9月10日(木) 6校時 6年1組 算数科 単元名「拡大図と縮図」

(1) 本時の目標

縮図をかいて、実際の長さを求めることができる。

(2) 本時の展開と問題解決の過程で働かせる数学的な見方・考え方

直接測ることのできない長さを三角形の縮図を活用して求める。

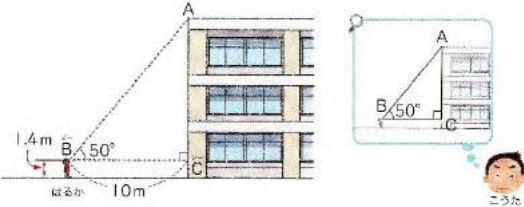
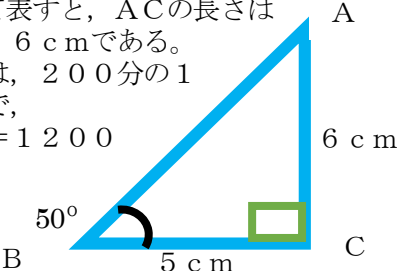
【数学的な表現力を見取る評価規準】

A評価	B評価	C評価
縮図を正確にかいて、求める部分の個所を縮図上で示し、縮図上では3.4cmであるが、実際は500倍して求めることを説明している。	図と式は正しく書いているが、言葉を使って、結び付けて記述はしていない。	図と式の両方またはどちらか一方しか記述しておらず、求める経緯が説明されていないか、誤った値となっている。

【他教科との関連】

社会科「国の政治のしくみと選挙」
国語科「話し合って考えを深めよう」

(3) 学習の展開

1 問題把握と課題設定	学習の基盤となる資質・能力に向けた手立て
<p>【問題】 下の図は、はるかさんが校舎から10mはなれた所に立って、校舎のはしAを見上げている様子です。下の図の校舎の高さは何mですか。</p>  <p>○見通しを立てる。 ・縮尺が分からない。縮尺が分かれば求められる。 ・でも、図を見ると、10mと書いてある長さを測って、比べたら、縮尺は分かる。</p>	<p>問題発見・解決能力 今日の問題図で表すことにより、今日の問題を把握させる。</p> <p>手立て 何を求めるのか児童に説明をさせることで、本時の問題が明確になる。</p> <p>情報活用能力 今までの学習をもとにどのように解決していくか見通しをもつ。</p>
<p>めあて 直接測ることのできない長さを縮図をかいて求める方法を説明しよう。</p>	
<p>2 自力解決</p> <p>○縮図をかいて、高さを求める。 縮図をかいて表すと、ACの長さは縮図上では、6cmである。 実際の長さは、200分の1の縮尺なので、 $6 \times 200 = 1200$ 1200cm = 12m</p>  <p>地上から目の高さまでを加えると、 $12 + 1.4 = 13.4$ (答え) 13.4m</p>	<p>言語能力 自分の考えを分かりやすくノートにまとめる。</p> <p>手立て ヒントカードをもとに自分の考えをまとめさせる。</p>

3 ペア交流

○自力解決したことを交流する。



考え方は同じなのに答えがちがうよ。

この部分をもう一度説明してくれる？



手立て

交流の視点を明確に示す。
自力解決時に机間指導を行う際に、児童の解決方法を確認して、交流時のグループの設定を考えておく。



交流の視点を明確にし、向島スタンダードを活用した交流をさせる。

4 全体交流

○解決方法を確認する。

【確かめるポイント】

- ①縮図上ACの長さは、6 cmであること。
- ②実際の長さは、 $6 \times 200 = 1200$ cmで、12 mであること。
- ③目の高さが基準点となっているので、地上から目の高さを加えないといけない。
答えは、 $12 + 1.4 = 13.4$ m

問題発見・解決能力

ペア交流で学び合ったことをもとに解決方法を全体交流する。



手立て

ノートを全員に示しながら、全体交流をさせる。

まとめ

直接測ることができない建物の高さを求めるときは、縮尺を明確にして縮図を正確にかき、縮図上の長さを測って、実際の長さを求め、地上から目の高さまでの距離を加えて求めるとよい。

情報活用能力

今日の問題を今までの学習や他教科の学びをつなげて、情報を整理する。今日の学びをもとに評価問題に取り組む。

5 評価問題

○本時で扱った問題と同様に評価問題を解き、その説明を書く。

6 振り返り

○振り返りの視点をもとに振り返りを書く。



問題発見・解決能力

今日の問題をもとに次への見通しをもち、新たな課題を見つけていく。

手立て

振り返りを記述させる視点として、
①めあてが達成できたか。その理由は何か。
②友だちの考えで参考になったことは何か。
③日常生活にどう活かせるか。
明示しておく。

〔成果〕 視点を明確にして交流場面を設定していたので、問題解決に向けた積極的な交流が見られた。

〔今後〕 交流場면을授業の中でどのように位置づけていくか。また、どのような手立てを講じていくか。

(1) 本時の目標

正多角形の性質の一つである外側の角度に着目して、正多角形を描くプログラミングについて筋道を立てて考え、説明すること。

(2) 本時の展開と問題解決の過程で働かせる数学的な見方・考え方

図形を構成する要素や図形間の関係に着目し、正多角形の描き方を考えること。




【数学的な表現力を見取る評価規準】

A評価	B評価	C評価
正多角形の性質に着目して、正多角形を描くプログラミングについて筋道を立てて考え、説明している。	正多角形の性質に着目して、正多角形を描くプログラミングについて考えている。	正多角形の性質に着目できていない。

【他教科との関連】

国語科「問題を解決するために話し合おう」
総合的な学習の時間「築こう 平和な世界!」

(3) 学習の展開

1 問題把握と課題設定	学習の基盤となる資質・能力に向けた手立て
<p>【問題】 正三角形を作図してみましょう。</p>  <p>○見通しを立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正方形と違うところは、角度と辺の数だ。 ・正三角形は一つの角の大きさが60度だから、「60度回す」を入力してみよう。 ・60度にしたら正三角形じゃなくて正六角形が描けた。どうしてだろう。 	<p>問題発見・解決能力 正三角形は「60度回す」では描くことができなかったという経験をすることで、本時の課題への関心を高めさせる。</p>  <p>手立て 帯タイム等を活用して、正方形の作図を経験させておく。</p> <p>情報活用能力 プログラムの中でどの部分を変えると良いか実際の動きをもとに見通しをもたせる。</p>
<p>めあて 正三角形を作図するプログラムを作るためには、正三角形のどの部分に注目したら良いだろうか。</p>	
2 自力解決	学習の基盤となる資質・能力に向けた手立て
 <p>「○度回す」というプログラムを変えるとよいと思う。</p> <p>60度や120度はどこのことなんだろう。</p>	<p>言語能力 どうして「120度回す」で正三角形を描くことができたのか正三角形の図に書き込みをしながら説明を考える。</p> <p>手立て 友達ノートを見て回り、そこからヒントを得ることができるようにする。</p>

<p>3 グループ交流（ペア交流）</p> <p>○ペアで自分の考えを説明し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしは、正三角形が「60度回す」で描くことができないのは、「何度回す」の角度が図形の角度のことではなく、図形の外側の角度のことだからだと思います。 	<p>言語能力 お互いのノートを見せて指差ししながら説明するよう指示する。</p> <p>手立て 正三角形の一边を延長した図形を配り、分度器で120度を測らせることで、正三角形の外側の角に気づくことができるようにする。</p>
<p>4 全体交流</p> <p>○ノート交流のあとに、再びペアで、より良い説明について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・180度一回す角度＝図形の内側の角度になるので、「120度回す」をすると、正三角形の1つの角度の60度が描けると思います。  <p>この説明を見たら、120度にする意味がわかってきたよ。</p>	<p>問題発見・解決能力 同じペアで再度交流することで、解決方法を確認する。</p> <p>手立て 全体交流で、シールの貼ってあるノートを中心に共有する。</p> <p>手立て ノートを自由に見て回り、良いと思ったノート、詳しく聞いてみたいノートにそれぞれシールを貼る。 床に作図していた図形を貼る。</p>
<p>まとめ 正三角形の外側の角度（120度）に注目して、「120度回す」と正三角形の60度の角度を描くことができる。</p>	
<p>5 評価問題</p> <p>○正五角形を作図のプログラムの作り方を説明しましょう。</p>	<p>情報活用能力 内側と外側の角度について整理し、本時のまとめをする。</p>
<p>6 振り返り</p> <p>○ノートに振り返りを書き、日直が代表して発表する。</p>  <p>図形の外側の角度は今まであまり考えたことがなかったので、大切だと思いました。</p>	<p>問題発見・解決能力 どのように解決にたどりついたのか振り返り、どの図形だったかどのようにプログラムできるか新たな問題を見つける。</p>

[成果] ペア→ノート交流→ペア→全体という交流の流れが有効であった。プログラムをタブレットだけに頼らず、床に貼ってある図形で、体を動かしながら図形の性質を理解させる手立ては有効であった。
[今後] 交流では、聞く立場の児童にどのように反応させるか交流の質の向上を目指す。



令和3年1月19日（火）6校時

たんぼぼ学級 5年 6年 算数科 単元名「たんぼぼ商店街で問題を解こう」

(1) 本時の目標

- 5学年 割合を使って、割引後の値段を考えることができる。
- 6学年 書き出したり、表や図を使ったりしながら、工夫して組み合わせを考えることができる。

(2) 本時の展開と問題解決の過程で働かせる数学的な見方・考え方

- 5学年 ・ 2割引きは、元の値段の2割分を引いた金額であること。
- 6学年 ・ 組み合わせ方を樹形図で、順序よく落ちや重なりがないようにかくこと。

【数学的な表現力を見取る評価規準】

A評価	B評価	C評価
どうしてその式で割引された金額を求めることができるのか、図をかいて何通りの選び方があるか考えられるか、理由を説明できる。	立式して割引された金額を求めたり、図をかいて何通りの選び方があるか考えたりできる。	立式したり、図をかいたりすることができない。

【他教科との関連】

- 5年 国語科「問題を解決するために話し合おう」 社会科「わたしたちの生活と食料生産」
- 6年 国語科「場面に応じた言葉づかい」 体育科「ソフトバレーボール」

(3) 学習の展開

5学年	6学年	学習の基盤となる資質・能力に向けた手立て
<p>1 問題把握と課題設定</p> <p>たんぼぼ商店街で、学年に応じた問題を解こう。</p>		
<p>【問題】たんぼぼベーカリーの本店は今日が特売日です。すべてのパンを2割引で売っています。A, B, Cのパン1個の割引後の値段はそれぞれいくらになるでしょう。</p> <p>すべてのパンが2わりびき</p> 	<p>【問題】たんぼぼレストランでは、ランチセットでABCから1つずつ選ぶことができます。ランチセットの選び方はどんなものがありますか。何通り考えられるでしょう。</p> 	<p>問題発見・解決能力 学年に応じた問題を解いて、最後に交流するというゴールを伝える。</p> <p>手立て（5年） 実物のパンや値引きシールを用意し、問題を解きたいという意欲をもたせる。</p> <p>手立て（6年） メニューカードを用意し、メニューを楽しく選択できるようにする。</p>
<p>めあて 割引後の値段の求め方をわかりやすく説明しよう。</p> 	<p>落ちや重なりがないように、どんな組み合わせがあるか、わかりやすく説明しよう。</p> <p>前はどんなめあてにしていたかな？</p>	<p>情報活用能力 今までの学習をもとにめあての設定や解決への見通しをもたせる。</p>

2 自力解決

手立て（5年）

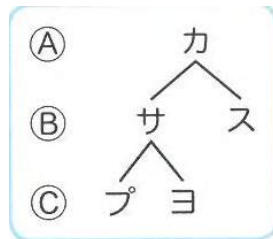
既習事項の整理を行い、個に応じた目標設定と支援を行う。



割引の金額だけ安くなり、元の値段からその金額を引いた値段になるんだね。



今までの学習を思い出してみよう。図にすると何通りかわかるかな。



言語能力

自分の考えを分かりやすくノートにまとめる。



手立て（6年）

初めから全部樹形図をかかないとわからないと考えた時は、もっとメニューが多い場合は全部書き出していたら時間がかかることを押さえる。

3 全体交流

自分の考えを友達にわかりやすく説明しよう。

○図を使って、「もとにする量×割合=比べられる量」になることを説明させる。

手立て（5年）

6年の説明を聞き、質問する。

○図や表を使って説明させる。

手立て（6年）

5年の説明を聞き、説明の足りないところを質問したり、補足したりする。

問題発見・解決能力

異学年交流をすることで、相手意識を持って自分の考えを伝える。

手立て

異学年交流をすることで、相手意識をもたせる。

まとめ

⑤元の値段に（0.2）をかけたら何円（安く）なるかわかる。元の値段からその金額を（引いたら）割引後の値段になる。（5年 まとめ）

情報活用能力

学習したことを整理しながら（ ）に言葉を入れてまとめを完成させる。

4 評価問題

○たんぼぼ商店街のチラシから自分で店を選択し、参観者に問題を出してもらおう。

5年
魚屋
ケーキ屋
くだもの屋



6年
たんぼぼ中華
カフェたんぼぼ



どちらのメニューがいいですか？

5 振り返り

①よくできた、難しかった（その理由）②わかったこと③これから生活で生かしたいことを書く。

〔成果〕異学年交流を設定することで、相手意識をもって課題に取り組む姿が見られた。児童の実態にあった支援や、算数用語を復習する場面があり、児童の考えるヒントとなった。

〔今後〕「伝えたい」と思える課題や交流場面の設定をする。生活と結びつけた評価問題を工夫する。

(3) 子供と学びの実感を伴う取組の推進

〔本校の課題および悩み〕

- ・ 研究推進について、教職員の共有化に向けて、研修などを行っているが、クラスによって取組に差が見られる。また、教師主体で、児童にまで浸透しないことがある。

〔課題に対する取組〕

- ・ 教職員主体でなく、児童を主体にした活動になる取組を仕組む。
- ・ 小規模校である強みを生かし、異学年交流を行い、目指す姿を児童の姿を見合うことで明確にする。
- ・ 掲示板や学校放送（コロナ禍で全校集会は実施していないため）を活用して、各学年の取組を全体へ広げ、教職員だけでなく児童も巻き込んで共有化を図る。

研究内容「交流内容の質的向上」に向けた取組

① 「いきいきタイム」の取組（言語能力向上に向けた取組）

本校の算数科研究の中核としている「交流内容の質的向上」に向け、算数科の授業場面以外でも児童の交流の質を高めることをねらいとし、毎週水曜日の朝の時間には「いきいきタイム」を行っている。「いきいきタイム」は、児童が自分の考えをもち、根拠をもって自分の考えを伝える力を養うこと、友達の考えと交流しながら自分の考えを広げたり、深めたりすることを目的としている。

第1回目の「いきいきタイム」は、研究主任が実際に指導しているところを全教職員で参観し、教師の声かけ、児童の交流する姿を見て教職員の共有化を図った。継続してより有効な交流の仕方を模索する中、異学年交流を行うことは、相手意識をもった交流を進めることができたり、上級生から下級生へ質問することで、根拠を示しながら話しを進められるようになったりし、有効な手立てであることがみえてきた。

6年生のいきいきタイムを参観



Plan

Do



Check

どんなテーマにしたらいいか、児童の意見が繋がらないなど、悩みが出てきた。

異学年交流の実施

Action



② 「コツコツ作戦タイム〔毎週金曜日休憩時間〕で児童アプローチ」（言語能力向上に向けた取組）

向島中学校区で整理した学習の基盤「向島スタンダード」を活用することで、より話し合いの質が高まるよう学級での取組を交流している。「ノートにスタンダードを張って意識するようにしました。」等、児童自身が意識するために学級でどんな工夫をし続けるかがねらいである。コツコツ作戦タイムも様子を見ながらやり方を変えた。

コツコツ作戦タイム

Plan

Do



向島スタンダードを活用した交流場面を児童にも意識して取り組ませたい。

Check

Action



学級の取組を集計して掲示したり、自分たちの取組を校内放送で知らせたり、児童主体で次なる一手を考案中。

Check

Action



日直の呼びかけて習慣化
2年生の考案



ノートに貼って視覚化
5年生の考案



交流シートに貼って意識化
3・4年生の考案



学級の取組を具体的な形で紹介し、自分たちの学級に取り入れ、新しい手立てを更新中。

研究内容「数学的な表現力の向上」に向けた取組

③ ノート交流（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力の育成に向けた取組）

本校では、算数科において、児童の数学的な表現力や主体性・協働性を育てるために、三幸ノートスタイルの定着に向け、定期的に教職員でノート交流を行っている。向島中学校区で作成した授業の「振り返り」の視点で学びを振り返り、新たな課題を見い出したり、他教科や生活へ広げたりしているか等、系統性を確認する場となっている。そこで見えてくる有効な手立てや課題への対応を協議する大変有効な時間となっている。

教師へのアプローチ

ノート交流

Plan

Do



算数ノート掲示板

Check

Action



それぞれのノートのいいところを紹介文も添えて掲示している。

教師アプローチから児童アプローチへ

振り返りの観点を低・中・高学年で系統立てて作成し、児童一人一人に振り返りカードを持たせる。振り返りカードを机の横に常に貼っておき、必要な時に見ることができるようすることで、記述内容が充実してきた。学習の振り返りを毎時間行うことで、次時に向けての新たな課題をもったり、疑問を解決したりすることへとつながっている。日直による振り返りも毎時間ごとに行い、クラス全体で次の授業への方向性を確認している。

振り返りカード

Plan

Do



学級でのノート交流

Check

Action



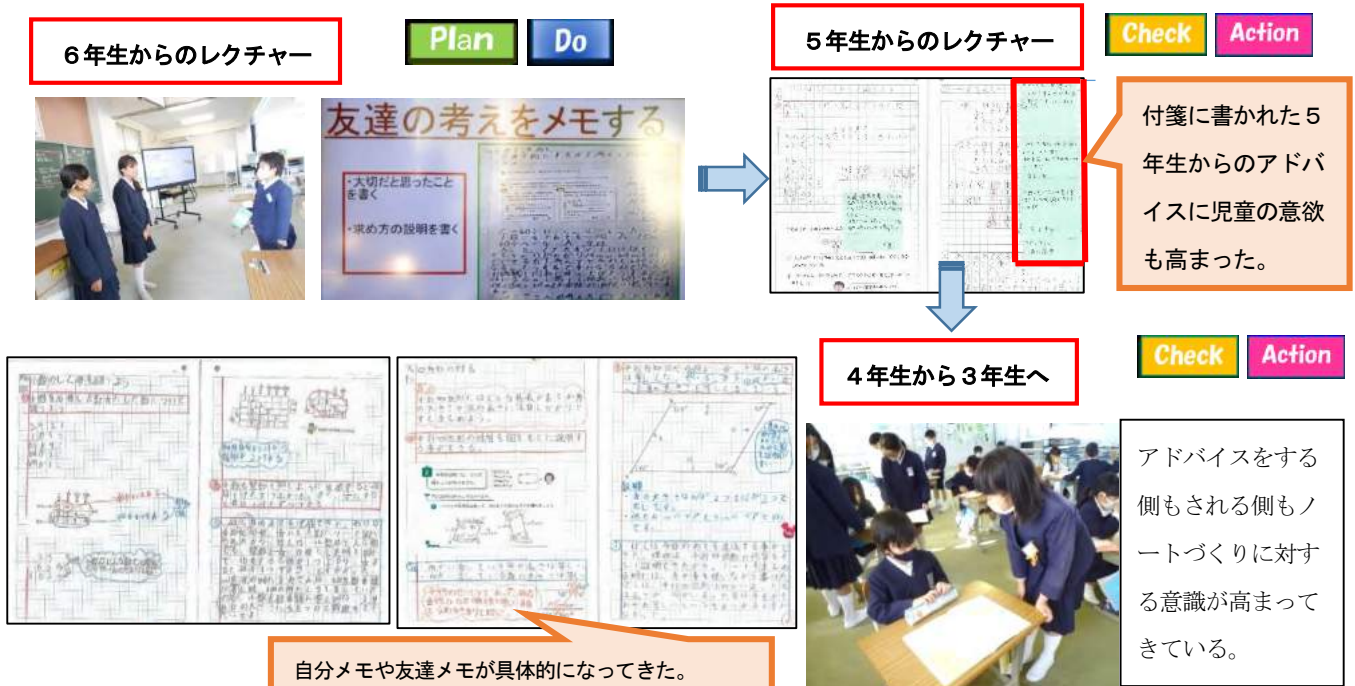
「よいと思うノート」「もっと説明を聞いてみたいノート」など視点を決めて友達ノートのシールを貼り、意欲を高めている。

振り返りカードを持つことで、観点にそった振り返りが書けるようになり、具体的な内容となってきている。

友達ノートの自分のノートと比較し、どんなところを参考にしたいか交流している。

児童から児童へのアプローチ

6年生が総合的な学習の時間「あこがれプロジェクト」で4年生にノートづくりについてレクチャーを実施した。その後、4年生は、6年生との交流で学んだことを実践し、次に5年生の児童にノートを見てもらう機会を作りさらなるブラッシュアップを図った。6年生からの学びが様々な学年につながり、児童の意欲とノートの充実につながってきている。



本校では、これまで各学年別にA評価の規準を設定していたが、今年度は、振り返りの記述や内容を評価項目を整理して、以下の表のように設定し直した。

学年	Aの評価規準
低学年	<ul style="list-style-type: none"> めあてとまとめを書いている。 問題文からの情報整理を線種別で分類している。 自分の考えが式・図・言葉で記録している。 振り返りの様式の当てはまる項目に○印を付け、授業中の自分の様子を簡単に書いている。
中学年	<ul style="list-style-type: none"> 自分メモと友達メモを区別して書いている。(大切だと思うポイントや参考になる友達の考え) 評価問題や練習問題の自己分析を簡単に書いている。 自分の学びについて振り返って書いている。
高学年	<ul style="list-style-type: none"> 自力解決したものに、ペア学習や交流場面を経て、修正や付け加えを残している。 評価問題や練習問題の自己分析を書いている。 家庭で授業を振り返り、自力解決の図や式・言葉を補足したり、参考になった友達の考え、全体を振り返って大切なポイントを加筆している。 授業を通して自己の学びの振り返りを8行以上で記述している。(150字以上) さらに、次時の学習を確認し、自分のめあてを書いておく。(ノート整理)

[学年に応じたノートや振り返りの記述の達成率 (教師アンケート)]

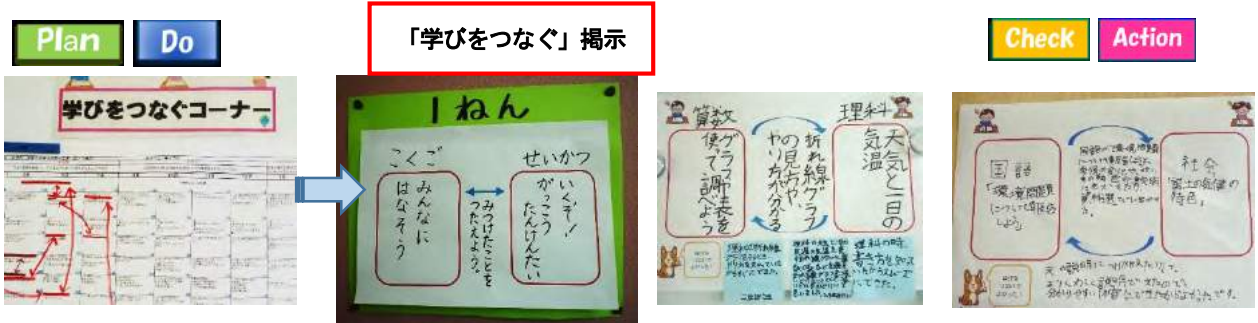
アンケート月	7月結果	1月結果
達成率	81.9%	83.1%

学びをつなぐ意識を高めるための取組

① 「学びをつなぐ」取組

ア 「学びをつなぐ」コーナー

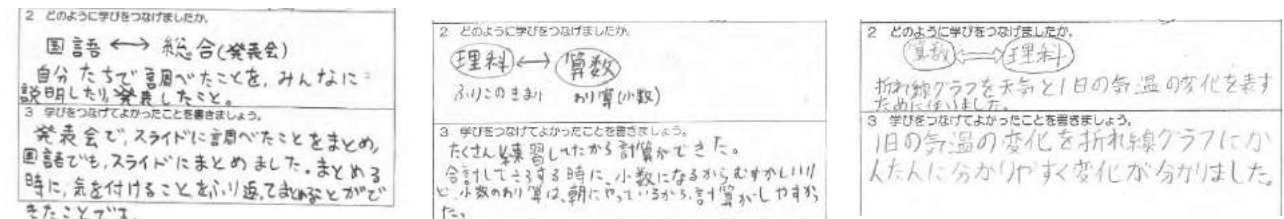
児童に学びのつながりのよさを実感させるために、「学びをつなぐ」という言葉で表し、各教室に「学びをつなぐ」コーナーの掲示を新たに設けた。月ごとにカリキュラム・マップを見ながら、「どの教科とどの教科がつながったか」話し合い、実践したものを記入している。学びのつながりの良さを実感させるために、「学びをつなげてどのようなよさがあったのか」を話し合い、掲示している。



イ 「学びをつなぐ」アンケート実施

月ごとに児童アンケートをとり、学びのつながりに対する有効性について児童の姿を見取り、その姿を参考にして、日々の実践を高めている。児童アンケートでは、児童一人一人が学びのつながりについて振り返りを行っている。教科と教科のつながりだけでなく、既習事項とのつながりや生活とのつながりの記述も見られる。

「学びをつなぐ」アンケート



学びをつなぐアンケート（児童肯定的評価）

	7月	9月	10月	11月	12月	1月
肯定的評価	84.5	88.1	88.1	94.0	94.0	95.1

ウ 「学びをつなぐアンケート」をもとに異学年交流

子供自身により教科等横断した学びの大切さを実感させることをねらいとし、学びをつなぐアンケートを持ち寄り、異学年交流を実施した。教科間のつながり、既習事項とのつながり、生活場面へのつながりなど、交流を通して学びが深まっている。また、授業において、児童から学びのつながりを意識した発言が聞かれるようになってきた。

異学年交流による学びの深まり



「いきいきタイム」を活用して異学年交流を行ったり、「コツコツ作戦タイム」のテーマにしたり学びが広がっている。

尾道市学力定着実態調査〔12月実施〕

	国 語			算 数		
	本校	尾道市	全国	本校	尾道市	全国
1年	68.8	74.1	72.3	78.4	84.1	80.7
2年	81.7	72.7	75.6	76.4	71.9	73.9
3年	62.8	65.8	63.0	74.7	72.4	68.0
4年	82.4	69.1	66.5	85.9	69.7	63.3
5年	70.9	66.9	67.1	66.5	66.3	63.5
6年	74.7		67.1	76.8		68.5

3 まとめ

(1) 成果

- ・学校評価に位置づけ、毎月ブラッシュアップしながら見取りからの改善を繰り返す中で、形式的な評価ではなく、組織的な動きを成果として実感することが多くなってきている。また、PDCAのサイクルを「実態を分析しながら、やりながら変えていくことが大切」という意識の変化により、とくに、CAサイクルが早く回るようになってきている。
- ・算数科の授業における学習の基盤となる資質・能力の捉えをまとめたことで、1時間の授業の流れの中で、資質・能力を意識した授業改善を行うことができるようになってきている。とくに、向島中学校区で作成した「向島スタンダード」や「振り返りの視点」に継続して取り組む事で、「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」の力がつき始めている。
〔学年に応じたノートや振り返りの記述の達成率（教師アンケート）〕
- ・様々な取組について、課題となったことを、教師だけではなく子供達を巻き込みながら、次の手立てを講じていくことで、学年による取組の差を解消する手立てとなっている。また、異学年交流を仕組むことは、より子供と共に学びの実感を伴うことができ、その有効性を感じている。
〔児童アンケート肯定的評価〕

(2) 課題

- ・月ごとのカリキュラムの見直しは、さらに次の単元構成や授業の質の高まりにつながるよう、「見取り」から「改善」について見直しを図っていく。
- ・算数科を中心とし、学習の流れの中で学習の基盤となる資質・能力を意識した授業改善にさらに取り組んでいく必要がある。
- ・引き続き「見える化」による「意識化」、確実な「見取り」からの短期間での改善、機を逃さず教職員で協議しながら、「教職員・児童を巻き込んだカリキュラム・マネジメントのさらなる推進」を目指していく。

校内研修のPDCA～教師自身の学びをつなぐ～

指導案検討



Plan

Do

実態

指導案検討では、児童の実態をもとに、どのような手立てが必要か、また、どのような発問をするのが有効かなど、活発に意見が出される。発問、手立て、板書などについて授業の流れが明確になるように様々な意見を出し合っている。

悩み

授業における教師の発問を精選し、児童の反応を予測するなど、授業の具体的なイメージが十分もてない。

模擬授業



Check

Action

手立て

指導案検討から改善をし、模擬授業を行う。実際に児童の反応も予測しながら、授業を進めることで、発問を見直したり、新しい手立てを考えたりすることができ、より具体的なイメージをつかむことができている。若手教職員も多いので、模擬授業を行うことは有効的である。

授業研究



Check

Action

手立て

授業研究のときには、授業者以外の教職員で、事前にどの児童を見取るのか分担している。児童の自力解決からペア交流や全体交流の様子、振り返りなど丁寧に一人ひとりを見取っている。児童の学びの変容を見取ることは、小規模校の強みであり、担任が見取れていない細かい姿まで観察することができる。

協議会（ワークショップ）



Check

Action

手立て

事前に授業を見る視点を明確にし、授業参観中にふせんに「良い点」「改善点」を書き、ワークショップを行っている。協議会では、児童の考えがペア交流や全体交流を通してどのように変容したのかをそれぞれ見取ったことを出し合い、授業の成果、改善点を協議している。

研究だよりで共有化

Check

Action

手立て

研究主任が、授業研究のまとめとして、研究だよりを発行している。授業の成果と課題、改善点などがまとめられている。今回の授業研究を通して、何が有効な手立てで、課題となり改善したら良いことは何かが具体的に書かれている。この研究だよりにより、今後、学校として何を目指していくのが明確となり、教職員で共有する手立てとなっている。

研修の軌

★表現力と主体性・協働性を育て
授業をめざして
◎効果的な数学的活動及び交流場面
のあり方を追究しましょう！

第3回授業研を終えて

□ 算数科の授業としての学習内容を整理すること

指導案作成の時点での課題は、プログラミング教育を取り入れる中でも、算数科としての目標、活動内容からかけ離れないことでした。8月の研修でも八幡先生より、算数科の目標とプログラミング教育の目標の「二足のわらじ」を履きながら、プログラミングについて学ばないといけないという指導をいただきました。各月の目標を立て、児童が算数的用語を用いて自分の考えを説明しあう活動をイメージして指導案を修正しました。また、プログラムをタブレット端末の画面や印刷の中のイメージだけに留まらせないよう、体を動かしながら図形の性質を理解しようとする活動を設けました。

今回の授業に限らず、学習内容を他の学習と併せて指導したり、授業者が自分なりの工夫を凝らそうとした時に、本来の授業で身につけさせた力の押さえが不十分になってしまうことがあります。確実に身につけさせなければならない内容を整理して、授業研究を行っていきましょう。

第4節

現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた取組

～尾道市立向島中学校～

1 総合的な学習の時間を中心に子供の資質・能力を育成するために

(1) 向島中学校区9年間を通じた資質・能力の育成に向けて

向島中学校では、研究テーマを「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成を核とした小中9年間の系統性を踏まえた総合的な学習の時間におけるカリキュラム・マネジメント」とし研究を進めてきた。その過程で向島中学校区では、総合的な学習の時間の単元を、「国際教育」と「キャリア教育」の2つを柱として整理を行った。また、総合的な学習の時間の目標を、「探究的な見方・考え方を働かせ、ふるさとへの貢献や国際教育、キャリア教育に関わる総合的な学習の時間を通して、目的や根拠を明らかにしながら課題を発見・解決し、自己の生き方を考えることができるようにするための資質・能力を育成する。」とした。

(2) 向島中学校区での単元の設定までの経緯

総合的な学習の時間の単元開発に向けて、平成31年度から令和2年度で計4回の小中合同の研修会を行った。

研修のねらい	内 容
<p>6月26日 主任等カリキュラム・マネジメント推進委員会</p> <p>○各校での課題を洗い出し、生徒の実態に即した取組の方向性を決定する。</p>	<p>○中学校区の児童生徒の実態から見える課題・取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに関わる取組について（教務主任） ・生徒指導に関わる取組について（生徒指導主事） ・学力の向上に関わる取組について（研究主任）
<p>8月28日 カリキュラム・マネジメント推進委員会（全体会）</p> <p>○総合的な学習の時間の単元の見直し・交流を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間の単元計画について、見直しと改善を図る。 ・各校での総合的な学習の時間について、単元計画と目的を発表し、内容について交流を行う。 	<p>○各校の総合的な学習の時間の取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PDCAサイクルの視点を踏まえて、総合的な学習の時間の単元について見直しを行う。 ・各校の総合的な学習の時間のテーマや目的の交流を行い、各校がどのようなテーマで総合的な学習の時間を行っているかの交流を行う。
<p>10月3日 カリキュラム・マネジメント推進委員会（全体会）</p> <p>○総合的な学習の時間の単元の見直し・交流を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校での総合的な学習の時間について、小中のつながりを意識した単元開発を行う。 	<p>○小中連携の視点を踏まえた新しい単元開発に関わって</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中の縦のつながりを意識した単元開発 ・教科を横断した横のつながりを意識した単元開発
<p>5月11日 カリキュラム・マネジメント推進委員会</p> <p>○各校の総合的な学習の時間の全体計画や単元内容について交流することを通して、小中9年間の系統性を踏まえたカリキュラムを作成する。</p>	<p>○向島中学校区9年間のカリキュラム作成に関わって</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中9年間の生徒のゴールイメージの共有 ・向島中学校区の総合的な学習の時間のテーマの決定 ・小中9年間の総合的な学習の時間の系統性について整理

4回の研修会では、まず令和元年6月に各校の教務主任、生徒指導主事、研究主任が学力調査の結果や生徒アンケートの結果を分析し、向島中学校区の児童生徒の実態についてまとめ、各校で交流を行った。

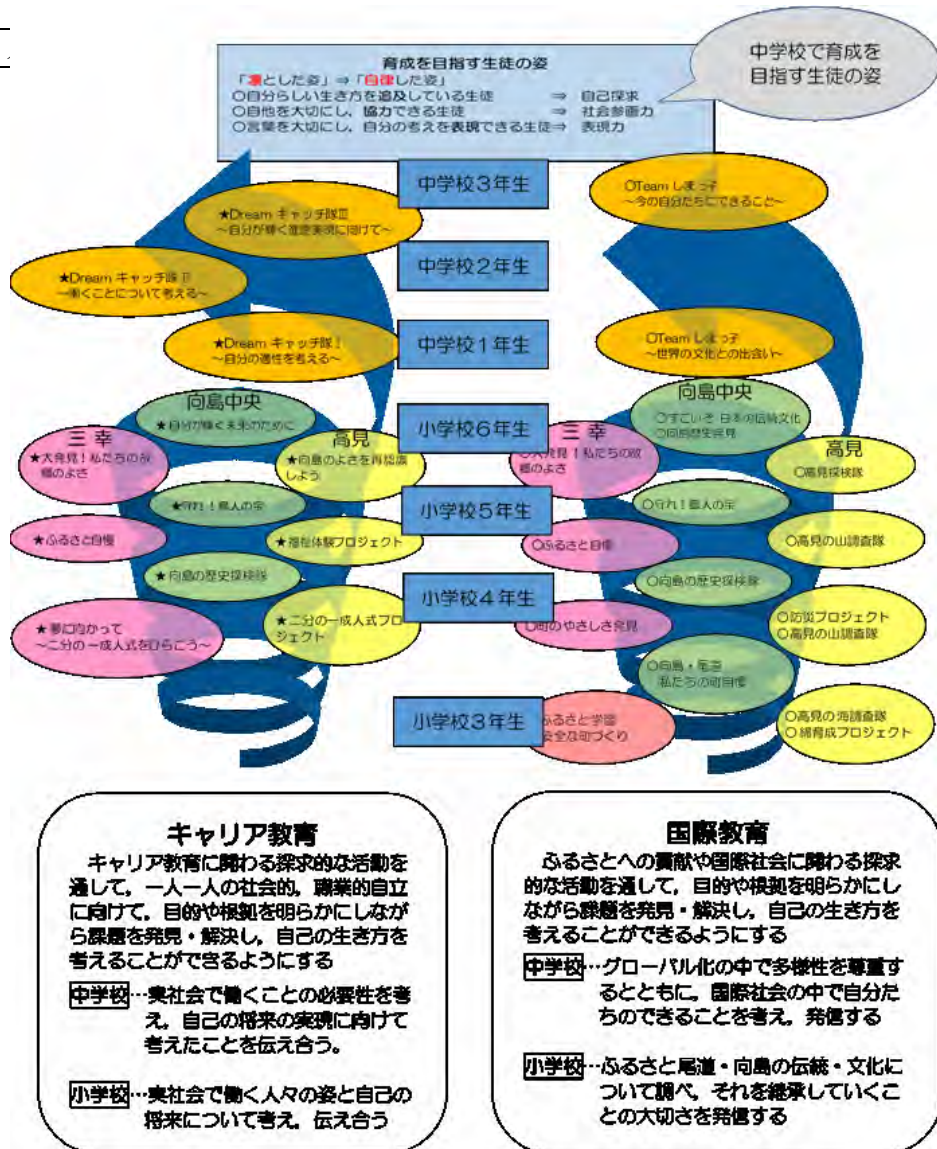
同年8月には、向島中学校区の教諭が集まり、カリキュラム・マネジメントについて研修を行うとともに、PDCAサイクルに基づく総合的な学習の時間の単元開発と見直しを行った。その後、各校の総合的な学習の時間の単元計画や目的について発表し、それぞれの学校での特色ある取組について交流を行った。

同年10月には、小中学校の教諭で、各校の総合的な学習の時間の単元計画について、小中9年間の縦のつながりと教科を越えた横のつながりを踏まえて、どのような工夫ができるかを話し合った。

令和2年5月には、カリキュラム・マネジメント推進委員が集まり、向島中学校区の総合的な学習の時間のテーマを「国際教育」と「キャリア教育」の2本柱として整理し、全体計画を作成した。



全体計画イ



(3) 育成を目指す資質・能力について

【本校の課題】

- 各教科で習得した基礎的・基本的な知識・技能を普段の生活や教科を超えてそれを活用して課題や問題に取り組むこと十分にできない。
- 自分の考えや気持ちを筋道立てて説明することに課題があり、相手に理解してもらえるような説明を行うことが苦手な生徒が多い。
- 学習した内容で生徒自身が興味をもって問題に取り組んだり、仲間と協力して難しい課題の解決に向けて取り組んだりすることが苦手な生徒が多い。

【育成を目指す資質・能力】

【令和元年度】

育成を目指す資質・能力	
知識・技能	各教科で生徒に付けたい知識を活用して思考し、これまでに習得した知識を相互に関連付けて理解を深める力
表現力	他者の意見や文章や図などに込められた思いを適切に捉え、そこから導き出される自分の意見を、根拠や事実をもとに習得した知識・技能を活用して説明したり、他者と共有したりする力
主体性	学ぶことに興味関心をもち、獲得した知識・技能を柔軟に考え、自分のキャリア形成と関連付けながら、粘り強く取り組むことができる力



【令和2年度】

育成を目指す資質・能力	
知識・技能	各教科で生徒に付けたい知識を活用して思考し、その知識を活用して問題を解決することができる力
表現力	いろいろな価値観をもつ集団の中で、対話を通して情報を共有し、互いに関係を深め理解し合いながら、合意形成や課題を解決し、その手順や考えを発表することができる力
主体性・協働性	学ぶことに興味関心をもち、課題解決に向けて周囲と協働しながら活動に取り組み、その学習過程や課題解決のプロセスを客観的に捉える力

【資質・能力を身につけた生徒の姿】

	C評価 (支援を要する)	B評価 (到達目標)	A評価 (十分に満足)
知識・技能	新しく学習した言葉や方法を使って問題に取り組むことができる。	新しく学習した言葉や方法を、これまでの授業で学習した内容と関連付けて課題に取り組むことができる。	新しく学習した言葉や方法を、これまで学習した内容や他教科で学習した内容と関連付けて課題に取り組むことができる。
表現力	自分の考えや考え方の過程を「伝え方」「話し合い方」「聞き方」を使って表現することができる。	自分の考えや考え方の過程を「伝え方」「話し合い方」「聞き方」を使って対話し、課題の解決に向けて意見をまとめることができる。	自分の考えや考え方の過程を「伝え方」「話し合い方」「聞き方」を使って対話し、課題解決や話し合い活動の中心として活動することができる。
主体性・協働性	学習や活動では、わかったことやできるようになったことを振り返ろうとしている。	学習や活動では、友達とわかったことやできるようになったこと、自分の取組の過程を振り返り評価しようとしている。	学習や活動を通して、わかったことやできるようになったことを、自分の取組の過程を振り返り改善点や修正案を考えようとしている。

2 実践報告

(1) 第3学年の取組について

第3学年は、「国際教育」の3年間を貫くテーマを「国際社会の中の尾道」とし、単元開発を行っている。1年次には「尾道から世界に目を向け、異文化について知る」、2年次には「尾道の魅力を多くの人に伝える」、そして3年次では「地域や国際社会のために自分たちにできることを考える」を各学年のテーマとして単元開発を行っている。

① 1年次の取組について

前期単元 「島中世界探検隊～世界の国を知りつくそう～」(20時間)

□ 単元設定の理由

本単元では、人との、ことに触れながら、「世界の文化」に焦点化していき、世界探検新聞という制作物を活用して、情報を収集・整理し、まとめ、世界の文化を発信する活動を行う。

日本や地元尾道を理解し、愛着をもたせるには、尾道から広島、日本、そして世界へと視野を広げることが大切である。また、これからグローバル化が進む中で、生徒はそれらに対応していく力が必要となる。追究したい世界の文化を知ること、人を知るといった相手を理解する意識につなげていく、多様な生き方や考え方を認めていく中で、身に付けさせたい資質・能力を育てることを目指している。

単元の学習を進めることにより、施設訪問で出会った人々、地域の人々や外国人観光客に対して疑問や、どんな文化があるのか、日本と異なる文化ってなんだろうという課題意識をもたせる中で、生徒が深い関心をもって、必要な情報を収集し、相手に分かりやすく伝えていく「思考力・判断力・表現力」を伸ばすことができると考え本単元を設定した。

□ 単元目標

- 他国の文化を自らの目で確かめ、体験することで自国の文化との違いを見付ける。(知識・技能)
- 自分たちで調べてきたことを相手に分かりやすく伝えることができる。(表現力)
- 自ら課題を見だし、他国の文化や他者を理解し、多様な価値観・生き方・考え方を受け入れようとしている。(主体性・協働性)

□ 育てたい資質・能力及び態度における評価規準

資質・能力	評価規準
知識・技能	①世界で起こっている実情について知識を深めることができる。 ②世界の国の文化について理解を深めることができる。
表現力	①調べた情報から必要な情報を抽出し、自分なりにまとめることができる。 ②相手に伝えたい内容を精選し、分かりやすく伝える工夫することができる。
主体性・協働性	①世界の国について、自ら探究したいことを見付けようとしている。 ②自ら課題を見だし、課題解決の方法を考えようとしている。 ③自ら課題を見だし、協働して解決しようとしている。 ④世界に目を向け、様々な価値観を受け止めようとしている。 ⑤仲間の作品を見て、発表を聞き、他者の意見や考えを受け入れようとしている。 ⑥他者とのかかわりを通して、意見交流ができ、自らの考えを広げたり深めたりしようとしている。

□ 指導の工夫（まとめの工夫）

授業を進めるにあたり、単元の見通しや学習の流れが分かるように、振り返りシートを工夫した。身に付けさせたい資質・能力を明確にし、どんな力を付けるかを教員と生徒の共通理解を図った。生徒一人ひとりが、単元のまとめとして自分の学習状況を振り返る。何を学んだのか、次の単元ではどのように学びたいのか、自己の学びの過程を振り返る機会とする。

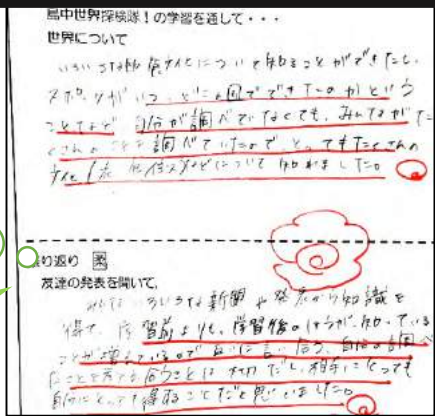
引き続き、今後も資質・能力の視点を明確にした「振り返り」を実践し、生徒が学びを自覚できる授業を展開していく。



学習の流れが分かる振り返りシート

学習前と学習後の生徒の変容を振り返りシートでみとることができた。また、生徒のつまずきや生徒の思いなど、授業では見られないこともこの振り返りシートで発見でき、今後授業を進める中で参考となる部分も多くあった。

資質・能力の高まりについて評価を行う



□ 授業を通して

第1学年のスタートとして、「世界がもし100人の村だったら」というワークショップを行った。何年前にベストセラーとなった本を参考にし、生徒の関心・意欲につなげた。個々に書かれている内容を、実際に体を動かしながら考え、その国に対する疑問を友達と交流し合う姿が見られた。

この体験を通して、他の国では男の人が女の人より多い国があったり、日本と比べて子どもと大人が多くお年寄りが少ない国が多かったりすることが分かりました。世界を100人にしてみると、地域では、アジア州に1番人が多くいて、オセアニア州には誰も居ませんでした。挨拶のことで、最も印象に残ったのは、「オラ」でした。私は「ズドゥラーストヴィチェ」で聞いたことない挨拶でした。こんなにも言葉の差があるんだなど知りました。
(生徒の振り返り)



主体性

9月にはJICAを訪問し、実際に様々な国の文化に触れた。①JICAについて②青年海外協力隊に体験談③ランチバイキング④衣装・民族楽器の体験⑤ワークショップの5つの学習プログラムを組み、1日を過ごした。教科書で学べないこと、体験しないと気付けないことがたくさんあり、生徒が主体的に活動する姿が見られた。



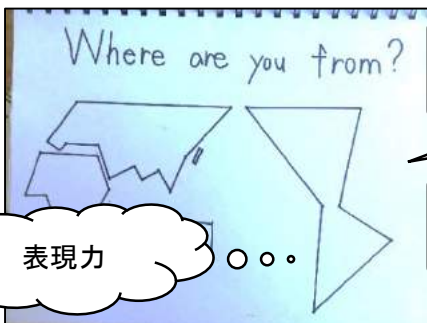
他の国では学校に行けない人だっているし、私たちは今幸せに暮らしているのだなどと改めて感じる事ができた。また、民族衣装を着ることができ、他の国のとの文化の違いを身をもって体験することで、もっと他の国の事についても知りたいなと思いました。
(生徒の振り返り)

知識・技能



その後、サイクリングで尾道を訪れる外国人観光客に対してインタビューする計画を立てた。外国人にインタビューすることで一人一人の課題意識や、尾道の課題などを見つけることを目的とし、班でインタビュー内容を考えた。

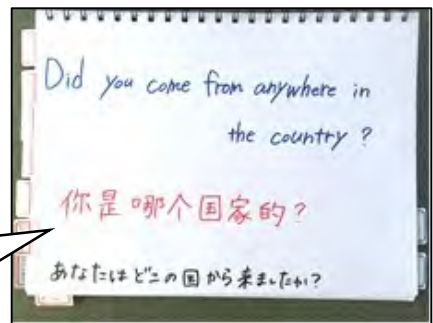
「どこの国から来ましたか。」「あなたの国の文化や郷土料理は何ですか。」「あなたの国の良いところは何ですか。」などと、いろんな質問を考えることができた。しかし、「言葉が通じなかったときどうしよう。」と悩んでいる生徒がいたため、「その場合どうしたらいいかな？」と生徒に投げかけたところ、「質問を紙に書いて文字にしてみよう！」という生徒の声が出てきた。その意見にみんな賛同し、フリップを作成することとなった。



表現力

簡単な世界地図を書いてシールを貼ってもらう工夫をしていた。

英語だけでなく、中国語の訳も！



そして、外国人観光客を求めて、いよいよ尾道へ。準備してきたフリップを持ち、積極的に外国人に話しかける姿がみられた。世界地図を取り出す生徒、身振り手振りで自分を表現する生徒、メモを取り出し、字を書いてもらう生徒など、いろいろな工夫をこらし、表現する生徒が多かった。



□ 成果 (○) と課題 (●)

表

○外国人インタビューの活動では、言語のみならず、フリップに文字を書くなど、様々な表現の行うことができた。

●自分が作成した新聞を発表する場面では、原稿をそのまま読み、新聞を見ながら発表する生徒が多かった。⇒発表のルールを設定し、各授業で統一した発表の指導を行う。

主

○JICA 訪問や外国人インタビューなどの体験的な活動を多く取り入れたことで、主体的に活動する生徒が多く見られた。

●テーマの設定が幅広かったため、何を課題にどう取り組んでいけばよいか、困惑する生徒がいた。⇒日本と世界の文化を比較し、テーマを絞って生徒に考えさせる。

② 2年次の取組について

第2学年 単元 「向島のよさ(魅力)発信隊」(60時間)

□ 単元目標

- 魅力ある日本文化(向島の魅力)を発信していく過程において、課題の解決に必要な各教科の学びである知識と技能を活用し、探究的な学習のよさを理解する。(知識・技能)
- 探究的な学習を通して、日本文化(向島の魅力)を発信することについての問いを見だし、課題を立て、目的に応じて手段を選択し、情報を収集する力を身に付ける。また、目的に合った情報をまとめ、分析し、発信する力を育む。(表現力)
- 主体的・協働的な学びを通して、多様な他者と関わりながら自分の考えを深め、日本人として主体的に日本のよさを発信し、日本人としての誇りを持ち、社会に参画する態度を養う。(主体性・協働性)

□ 単元設定の理由

第2学年では、尾道(向島)にある事業所での「職場体験」を経験し、その学びから地域のよさ・魅力を考える。また、旧尾道文化研究所の方に話を伺い、尾道のよさ・魅力を再度認識し、外国人観光客が尾道に来てもらえるような魅力のある記事を考え、パンフレット作成や発表を行う。完成したパンフレットを12月にある東京の修学旅行にもって行き、外国人に尾道の魅力を伝える活動を行う。パンフレットを作成するにあたり、「分かりやすいパンフレット」そして「尾道に行ってみたくなるパンフレット」をキーワードに、生徒から多くの意見を出させ、よりよいものを作るために友達と交流し合う場を設定した。これらの活動を通して、「思考力・判断力・表現力」を育て、地域に関心を持ち、地域に貢献しようとする「社会貢献力」を伸ばすことができると考え、本単元を設定した。

□ 育てたい資質・能力及び態度における評価規準

資質・能力	評価規準
知識・技能	①向島（尾道）の魅力について多面的に気付くことができる。
表現力	①相手に伝えたい内容を精選し、分かりやすく伝えることができる。 ②課題解決に向けた活動を振り返り、新たな問いを見だし、課題を立てることができる。 ③友達との関わりを通して、意見交流ができる。
主体性・協働性	①自ら問いを見だし、課題を立て、協働して解決しようとしている。 ②主体的に日本（尾道）のよさ・魅力を発信し、社会に参画しようとしている。 ③自他のよさを生かしながら、協力して問題の解決に向けて探究に取り組もうとしている。

□ 指導の工夫（表現力）

2020東京オリンピック・パラリンピックに向けて、尾道（向島）のよさを外国人に紹介するために、企画書を作成し、班で話し合う機会を増やした。以下の写真は個人で考える時間を十分にとり、班で意見を出し合って意見交換をする場面である。積極的に自分の意見を出し合う様子が見られ、表現力向上の成果としてあげられる。



□ 授業を通して

旧尾道文化研究所の榊原さんの協力のもと、パンフレットと外国人向けのDVDを作成し、12月の東京修学旅行で紹介した。班ごとにテーマを決め、用意してきたパンフレットやプレゼン資料を配付し、英語を使って説明した。初めは、緊張と不安でなかなか上手くコミュニケーションがとれなかったが、少しずつ英語を楽しみながら会話する場面も見られた。班の中で役割を決め、一人が一方向的に話すことのないようにそれぞれ分担し、尾道の魅力を表現することができた。苦手意識とする表現力が、この授業を通して高まった。



□ 成果（○）と課題（●）

表

○事前に用意したパンフレットやパワーポイントなどの資料を持ち寄り，外国人留学生に尾道（向島）の魅力を伝えた。外国語の教科と関連付け，簡単な英文から難しい英文まで，自分たちができる最大限の表現力を発揮することができた。

●生徒たちが一方的に伝え合う場となり，うまく会話が弾まなかった部分があった。

⇒ 外国人留学生に質問をしたり，事前に連携ができるのであれば，留学生の出身国の文化や魅力を教えてもらう場も設ける。

主

○東京の修学旅行で外国人留学生を招く場面を設定したことで，生徒が活発に行動する姿があった。

③ 3年次の取組について

第3学年 単元「国際社会に生きる私たち～自分たちにできること～」（25時間）

□ 単元目標

- 国際社会が抱える問題の解決に向けて自分たちが協力できることを考える学習を通して，主体的に行動するための資質や能力の基礎を育てる。（知識・技能）
- 自分で設定した国際社会についての問題や課題を見つけ，目的に応じて手段を選択し，情報を収集・分析しながら，よりよく問題を解決する力を育む。（表現力）
- 国際社会が抱える問題について理解することを通して，グローバル化する社会の中で，自分がどのように生きていけばよいかについて考えることができる。また，国際協力のあり方について自分の考えを発信し，仲間のよさを互いに認め合うことができる。（主体性・協働性）

□ 単元設定の理由

第3学年では，新型コロナウイルス感染症の影響で総合的な学習の時間の単元の見直しがされている。1・2学年で身に付けた「知識・技能」，「表現力」，「主体性・協働性」を最終学年のまとめとしてその実力が発揮できるように授業展開をしていきたい。

このコロナ禍で世界の状況や情勢を知り，自分のこととして考え，自分たちにできることを考える時間にしていきたいと思い，この単元を設定した。

□ 育てたい資質・能力及び態度における評価規準

資質・能力	評価規準
知識・技能	① 国際社会の現状から問題や課題を具体的に見い出すことができる。 ② 1，2年の学習を通して，獲得してきた知識や技能を生かすことができる。
表現力	① 見出した課題の中から，必要な情報を抽出し，まとめることができる。 ② 相手に伝えるべき内容を選択し，表現することができる。 ③ 国際協力に向けて，自分たちができることの情報を発信することができる。
主体性・協働性	① 問題意識をもち，その課題解決のために自分ができることを主体的に考え，実践しようとしている。 ② 他者との関わりを通して，意見交流ができ，自らの考えを深めたり，広げたりしている。 ③ 単元を振り返り，相手を尊重しながら，国際協力について自分のできることを考えようとしている。

小単元名	学習過程	次	学習内容 学習活動
国際社会に生きる私たち、自分たちでできること	課題設定	1	○国際的な課題や問題について考える。 ・1年次に行った「世界がもし100人の村だったら」の学習の復習を行う。 ・世界の状況を知り、自分のこととして考える。 ・国際的な課題に対して、自分たちが協力できるような課題設定で解決方法や手段を考える。 ・○○はどうなっているのか。 ・○○はなぜこのようなものなのか。
	情報の収集	2	○情報を収集する。 ・様々なテーマから、必要な情報をインターネット・新聞・教科書・本などを使用して収集する。
	分析・整理	3	○国際社会が抱える問題を解決していくためには、どのような協力ができるか、考える。 ・収集した情報を基に、国際的な問題を考え、解決していくための計画を立てる。 ・仮説の設定（見通しをもち、それらが本当に検証できるか考える。）
	まとめ・実行 創造・表現	4	○収集した情報をまとめ、レポートを作成する。 ・自分の生活と関連付けたり、また自分のこととして、自分に何ができるかを考え、まとめる。 ・ワードやパワーポイントを使用して資料を作成する。
		5	○まとめたレポートを学級で発表する。 ・友達が考える「国際的な問題と解決方法」の発表を聞き、多様な他者の考えを理解する。 ・互いのよさを認め合いながら、レポート内容の改善を考える。 ・友達の意見を参考にしながら、自分のレポートに修正をする。
	振り返り	6	○単元の振り返りをする。 ・今回の学習の課題を解決できたかを振り返り、成果と課題を捉える。

(2)第2学年の取組について

第2学年は、「国際教育」と「キャリア教育」の2本柱で単元開発を行っている。1年次には「国際教育」を中心に行った。新型コロナウイルス感染症拡大予防に伴う臨時休校のため、予定していた「キャリア教育」の取組は、2年次へと持ち越しとなった。

1年次の「国際教育」では、「尾道から世界に向け、異文化について知る」（「島中世界探検隊！」）そして「外国人に日本文化を伝える」（「日本文化追究・発信隊！」）をテーマとし、前年度の取組の反省を生かしながらカリキュラムの修正を行った。ここでは、前年度と異なる部分のみを取り上げる。

前年度の反省は次のような点であった。「日本文化追究・発信隊！」の単元において、各自が外国人に伝えたい日本文化を選び、自作のパンフレットを見せながら市内のALT（外国語指導助手）に伝える活動を行った際、伝えたい内容が高度で難しく、中学1年生の英語のレベルでは伝えることができなかった。そのため、日本語が多くなり、ALTに十分伝わらなかった。

この課題を解決するために、生徒自身が言葉だけでなく、体全体を使って、より主体的に伝えることができる日本文化に絞って紹介をすることとした。そのために、どんな日本文化を紹介したよいかを、生徒自身がよく考え、ALTにも楽しんでもらえるような日本文化を紹介することとした。

① 1年次の単元について

中期単元 「日本文化追究・発信隊！～日本の文化を伝えよう～」(22時間)

□ 単元設定の理由

国際的視野に立ち日本文化について考える探究的な学習において、仲間と協働しながら、日本の身近な文化を発信し、外国の人たちに発信する活動を通して、日本文化についての理解を深め、日本人としての誇りを持ち、相手に分かり易く伝える力を育成することができると考え設定した。

□ 単元目標

- 身近な日本文化を発信していく過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、探究的な学習のよさを理解する。【知識・技能】
- 身近な日本文化を発信することについて、課題を設定し、目的に応じて手段を選択し、情報を収集する力を身に付ける。また、目的に応じて情報をまとめ、分析し、発信する力を育む。【表現力】
- 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、多様な他者と関わりながら自分の考えを深め、日本人として主体的に日本のよさを発信し、日本人としての誇りを持ち、社会に参画する態度を養う。【主体性・協働性】

□ 育てたい資質・能力及び態度における評価規準

資質・能力	評価規準
知識・技能	① 日本の国の文化について理解を深めることができる。 ② 日本文化のよさを理解することができる。
表現力	①相手に伝えたい日本文化を身近な所から適切に選択し、目的に応じて情報をまとめ、発信する内容を精選し、順序よく分かり易く言葉で伝える工夫をすることができる。 ②相手の理解を確認しながら、言語以外でも様々な伝えるための工夫をすることができる。
主体性・協働性	①自ら課題を見だし、主体的に解決しようとしている。 ②日本人としての誇りを持ち、主体的に日本文化のよさを発信し、他者と関わり合おうとしている。 ③仲間と協働して課題に取り組もうとしている。 ④他者との関わりを通して、意見交流ができ、自らの考えを深めたり、広げたりしている。

□ 指導の工夫(表現力を育成する工夫)

昨年度の反省から、個人によるパンフレットの作成のみならず、ALTの先生たちに自分達の力で日本文化を伝えられるようなグループ活動を仕組む。グループごとに自分たちの英語力で伝えられる日本文化を選択し、伝えることが出来るように十分な準備をし、紹介する際には役割分担をして、グループで協働して紹介することにより、育成したい資質・能力の育成を図る授業を展開していく。そして、英語科、国語科、体育科、美術科など他教科との横断的な関連を図る。

グループによる日本文化の紹介例



「けん玉」の紹介

僕は司会をしました。ALTもうなずいてくれたので、英語が伝わっていると分かり、嬉しかったです。「けん玉」を紹介したけれど、僕たちも楽しめました。

知識・技能



「万華鏡」の紹介

協働性

司会・説明・師範演技などの役割分担をして、グループで協力しながら紹介



僕たちの班は「かるた」についてALTに伝えました。私は自分たちから伝えるので緊張しましたが、最後までハキハキと笑顔で、アイコンタクトをとってできたので、良かったです。

表現力



余った時間で、質問をしていたのですが、アニメの話がよく伝わって、沢山日本のことを知っているんだな、と思いました。一番すごいな、と思ったのは、○○君が好きなアニメの話が伝わったことで、とても嬉しく思いました。私も外国の物を知って、どんどん会話に取り入れてみたいな、と思いました。

主体性



「鬼ごっこ」の紹介



「習字」の紹介



「空手」の紹介

□ 成果 (○) と課題 (●)

知

○ 日本文化について理解を深め、紹介する活動を通して日本文化のよさに気づくことができた。

表

○ 伝えたい日本文化を身近な所から適切に選択し、英語を使ったり、道具や動作を使ったりするなどの工夫をして、分かり易く伝える力が向上した。途中のとっさの言葉もできるだけ英語で伝えようとする前向きな姿勢が見られた。

● グループで取り組んだため、中には言葉で表現しなくてもすむ生徒がいた。

⇒ 必ず全員が言葉で表現する機会をつくることを条件として、グループ活動を仕組む。

主

○ 日本文化のよさを、仲間と意見交流しながら工夫して発信し、ALTの先生たちと積極的に関わ合う姿が見られた。

② 第2学年の取組について

第2学年における総合的な学習の時間の計画は、昨年度まで、夏季休業中に実施する職場体験学習と2月に実施する立志式に向けてキャリア教育を、12月に実施する修学旅行に向けて国際教育を実施してきた。

しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、職場体験学習は中止に、そして修学旅行は次年度に延期となったため、体験的な活動を実施することは困難となった。

このような状況下で、第2学年における総合的な学習の時間の目標を達成するために、次のように大幅なカリキュラムの変更を行った。

月	昨年度までのカリキュラム	月	今年度のカリキュラム
4	キャリア教育「Dream キャッチ隊！」	4	(新型コロナウイルス感染拡大による 臨時休校により実施せず)
5	・働くことの意味について考える	5	
6	・身近な人へのインタビュー	6	キャリア教育「Dream キャッチ隊！」
7	・社会人としてのマナーを身に付ける	7	・職業適性検査・職業調べ学習
8	・ 職場体験学習 を通して課題を探究する	8	・「職業ロードマップ」の作成
9	・課題の分析とまとめ	9	・職業調べの発表・質疑応答・意見交流
10	・「歌島祭」で発表	10	・働くことの意味について意見交流
		11	・「働くこと」についての課題設定
			・身近な人へのインタビューと 3人の講師による講話を聴き 、課題を探究
10	国際教育「向島のよさ発信隊！」	12	・社会人としてのマナーを身に付ける
	・尾道の良い所を調査し、まとめる		・ 課題の分析と意見交流・まとめ
11	・ 修学旅行 で、在日外国人に尾道の良い所を紹介する	1	・「私の志」作文を書き、 立志式 で発表
12		2	・今後の進路に向けて
1	キャリア教育	2	国際教育「向島のよさ発信隊！」
2	・自分の理想の生き方を考え、「私の志」作文を書く。	3	・尾道の良い所を調査し、まとめる
	・ 立志式 で発表する		
3	・今後の進路に向けて		

今年度は、体験的な学習が制限されたため、キャリア教育においては、地域在住のゲスト・ティーチャーを招聘し、講話を聴くことにより、働くことについて探究的に学習を進めた。

また、国際教育においては、修学旅行が延期されてはいるが、次年度実施に向けて、向島のよさを発信できるように、準備を進めていく。

次に、先に示した今年度変更したカリキュラムに基づき実施したキャリア教育「Dream キャッチ隊！」の授業について、その実践例を次に示したい。

中期単元 『Dream キャッチ隊！～君たちはどう生きる？～』（キャリア教育 45時間）

□ 単元設定の理由

今年度は、職場体験学習が中止され、「働くこと」について体験活動することなく職業について理解を深め、理想の生き方を描き、それを実現すべく一歩踏み出すという目標に到達させなければならなくなった。

そのため、これまでに実施しなかった地元で活躍しておられる方による講話を実施し、具体的な情報を収集・分析して「働くこと」について必要な技能や概念的な知識を獲得させることとした。「理想の生き方」「働くこと」について、主体的に探究し、自らの生き方と結びつけ、理想の実現に向けて積極的に取り組む態度を育成できると考え、この単元を設定した。

□ 単元目標

- ①職業調べとゲストティーチャーのキャリアについての講話の聴講を通して、理想の生き方を描き、それを実現すべく一歩踏み出すために必要な技能や概念的な知識を獲得し、探究的な学習の価値を理解する。
- ②社会について考える探究的な学習を通して、理想の生き方について考え、情報を収集・分析して他者に表現する力を育む。
- ③職業調べとゲストティーチャーのキャリアについての講話の聴講における主体的な探究活動の経験を自らの生き方と結びつけ、理想の実現に向けて積極的に取り組むとともに、自らの生き方と社会とのつながりに気づき、社会に参画しようとする態度を養う。

□ 育てたい資質・能力及び態度における評価規準

資質・能力	評価規準
知識・技能	①なぜ働かないといけないのかを理解することができる。 ②社会人としてのマナーやスキルを身に付けることができる。 ③ゲストティーチャーのキャリア講話の聴講を通して、自らの理想の生き方を描き、それを実現すべく一歩踏み出すために必要な技能や、概念的な知識を理解することができる。
表現力	①課題設定ができる。 ②課題解決のために必要な情報を収集し、計画を立てることができる。 ③相手に伝えたい内容を選択し分かりやすく伝える工夫をすることができる。 ④課題解決に向けた活動を振り返り、新たな課題を見つけることができる。 ⑤意見交流ができ、自らの考えを深めたり、広げたりすることができる。
主体性・協働性	①自ら課題を見だし、課題解決の方法を考えようとしている。 ②理想の実現に積極的に取り組むと共に社会に参画しようとしている。 ③「働くこと」「理想の生き方」について自分の考えを深めようとしている。 ④自ら課題を見だし、解決に向けて意見を出し合おうとしている。

指導の工夫（事前指導・事後指導の取組）

職業適性検査（「進研ゼミ職業適性検査」）、職業ロードマップ作成並びに発表、「働くこと」について身近な人へのインタビュー並びに交流をし終えた後、さらに自分の将来を具体的に考えるために、「君たちはどう生きる？」というテーマで、地元で活躍されている3人の講師を招聘し講話を聴く機会を設定する。

講話「君たちはどう生きる？」	第1回 尾道市外国語指導助手 エリック エルハマー先生
	第2回 尾道グローバル・ラボ代表 黒飛 貴友先生
	第3回 立花テキスタイル研究所代表 新里 カオリ先生

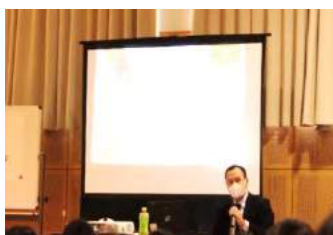
事前に質問を考え、自分の「働くこと」についての課題解決に向けて目的意識をもって主体的に講話を聴くことができるようにする。講話中にメモを取りながら聴き、講話後に質疑応答を行う。

事後に自分が設定した課題について振り返りを書き、礼状を書くことにより、「働くこと」「生きること」について自分が目指す理想像を具体化できるようにする。

単元の最終段階で、「自分たちがどう生きるのか？」という問いに対して、3回の講話を聴きながら意見交流を通して追究した後、キャリア教育の2学年のまとめとして、立志式に向けて「志宣言」の作文を書き、発表する。



エリック先生による講話



黒飛先生による講話



新里先生による講話

事後指導1 振り返り・礼状

◆生徒の振り返りより◆

- 話を聞いて、勉強や部活動など様々なことに全力を尽くしたいと思いました。また将来のことについても前より興味が湧きました。これからは自分を見つめながら考えていきます。(主体性)
- 職業につきたくて難しくなることがあっても、その時は諦めるのではなく、その職業に関わる職業でもレベルアップにつながるので目標に向かって頑張りたいと思います。(主体性)

◆お礼の手紙より◆

- 私は先生の話聞いて、印象に残ったことは、「自分が経験することで学べるようになる」ことです。私は、極力過酷でしんどいことはやりたくなくて、逃げてきたけれど、黒飛先生の話聞いて、自分からしんどいことをすることが大事だと思いました。(主体性)
- これから先の学校生活で活かしたいことは何でもいいから打ち込める何かを探すことです。僕は今からうちこめる何かを探して、沢山辛い思いをして、将来の自分のためになるようにして頑張っていきたいと思います。(主体性)

◆お礼の手紙より◆

- せっかく愛情をこめて育てたのにゴミとして捨てられるものを、新里先生は染料に使うことで、新里先生自身は安く染料が手に入り、生産者も育てたものが活用されることで喜ぶことができる。僕もお互いにいい関係になるような仕事をしてみたいと思いました。(知識・技能)
- 新里先生の大学、大学院時代の8年間の話で、大学の仕組みや良い所など色々なことを知りました。僕は行きたい大学ははっきりしていませんが、興味が湧きました。日頃の勉強でも予習・復習をしっかりと自分のものにしていきたいです。(知識・技能)
- 今まで自分のことは自分で何もかも決めていかなければならない、という考えだったのですが、自分のことを考えてくれる人の言葉に耳を傾けて物事を決めるのもよいのかな、と思いました。(主体性)

事後指導2 意見交流

「働くことの意味」についてのまとめ（事後の生徒の意見交流より）

「働く」とはお金をかせぐためだけだと考えていたけれど、色々な意味があるのだと気づきました。

- ・社会貢献 人の役に立つこと 人を笑顔にすること
- ・目標をもって生きること 自分が成長すること
- ・困っている人を助けたり、社会を便利にしたりすること
- ・家族を養うこと、幸せにすること
- ・自分が生きていくのに必要なこと、自分がしたいことをするために稼ぐこと 楽しむこと
- ・協力し合って目標を達成すること
- ・知識や技能を向上させること
- ・社会が成り立つように自分がきつくても働くこと
- ・自己実現すること 自分の能力を生かすこと やりがいをもつこと
- ・自分が知らないことに挑戦すること
- ・納税すること

成果（○）と課題（●）

知

- 「自分の理想の生き方」を実現するために必要な技能や概念的な知識を、身近な人へのインタビューやゲストティーチャーの講話から獲得することができた。
- 「幸福とは何か」と「働くこと」を結びつけて考え、意見交流をすることにより、各自の理想の生き方の考えが深まった。

主

- まだ理想の人生設計を描けず、すべきことがよく分からず学校生活を送っている生徒がいる。

（3）第1学年の取組について

第1学年では、年度当初から従来の校外活動や外国人観光客へのインタビューが難しいことから、総合的な学習の時間の単元を大幅な変更を行うこととした。また、1年間を通して生徒に付けたい力を意識し、生徒の思考や疑問の「つながり」を大切に探究的な見方・考え方を養うことを目指し、「課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現→課題設定→…」というサイクルを確立する単元開発に取り組んでいる。

① 前期単元 「Teamしまっ子～尾道の魅力発見隊～」

□ 単元目標

- 尾道・向島の魅力を小学校の学びから再確認し、自分たちの住む地域の良さを理解する。（知識・技能）
- 自分たちで調べてきたことを相手に分かりやすく伝えることができる。（表現力）
- 自ら課題を見だし、仲間と協働して計画的に課題解決しようとしている。（主体性・協働性）

□ 単元設定の理由

本単元では、小学校での学習をお互いに発表することを通して、それぞれがふるさと尾道・向島の伝統・文化について調べてきたことを知り、自分の知らなかった尾道・向島の魅力を再認識する。また、中学校3年間でその魅力を多くの人に知ってもらうためにどうすれば良いかを考える3年間の課題設定の場面とする。

ふるさと尾道・向島を理解し、愛着をもたせるためには、尾道から広島、日本、そして世界へと生徒の視野を広げることが大切である。また、これからグローバル化が進む中で、生徒はそれらに対応していく力とグローバルな視点をもつことが必要とされる。そのために、尾道・向島の魅力を生徒自身が実感し、地域の魅力についてまとめ・発表することで、身に付けさせたい資質・能力を育てることを目標として本単元を設定した。

□ 育てたい資質・能力及び態度における評価規準

資質・能力	評価規準
知識・技能	①学習してきた内容から、自分たちの住む地域の魅力について気付くことができる。
表現力	① 調べた情報から必要な情報を抽出し、自分なりにまとめることができる。 ② 相手に伝えたい内容を精選し、分かりやすく伝える工夫をすることができる。
主体性・協働性	①自ら課題を見だし、課題解決の方法を考えようとしている。 ②他の地域の発表から、様々な価値観を受け止め、自分の生き方に生かそうとしている。 ③仲間の作品を見て、発表を聞き、他者の意見や考えを受け入れ、自分に生かそうとしている。 ④他者との関わりを通して、意見交流ができ、自らの考えを広げたり、深めたりしようとしている。

□ 指導の工夫（まとめの工夫）

授業を進めるにあたり、生徒の主体的な活動を促すために、振り返りシートの工夫を行った。単元の流れを課題発見、情報収集、整理・分析、まとめ・表現の活動時間数を生徒に提示し、準備物や毎時間の活動の内容を生徒が計画し、発表に向けて自ら考え、取り組むように指導を行った。

振り返りでは、自分たちが計画して取り組んだことで失敗したことについて振り返りを行い、どうすればもっと活動が充実するかについて考えた。また、この学習で学んだことでは次の学習につながる主体性に関わる記述も見られた。



発表では、小学校で作成した資料や写真を準備して発表するグループや模造紙に自分たちが行ったことや学んだことをまとめるグループ、自分たちの学びを寸劇にしたグループなど創意あふれる発表の方法が見られた。

まとめ活動を振り返ろう
 自分達がちゃんと調べたといけなかったのに調べたから完成は出来た。みんなと調べたことも合意して調べたことには自信がある。

まとめ活動を振り返ろう
 始めはみんなの意見がまとまらず発表方法を決めたりそれを向けて準備するのができなかったけど今はみんなで協力して完成はしていないけど模造紙に書くことはできた。

まとめ活動で、上手くいったことや失敗したこと
 の振り返りも行わせる。

2時間を通して、自分の住んでいる向島・尾道について考えたことを振り返ろう！

発表で自分が工夫したこと
 大きな声で言うこと
 自分の住んでいる向島・尾道について振り返ろう
 向島の歴史を他の学校の人が学習していたこと
 におどろきました。
 そしてそんなことにいることが尾道の中にあることが
 うれしかったです。
 高見小学校の人の発表は胸に響いて、
 実際は高見山に行きたいということになりました。
 向島、尾道に住んでいる所が話した。なので、
 楽しく聞いて、スベキすることだと思いました。

3時間を通して、自分の住んでいる向島・尾道について考えたことを振り返ろう！

発表で自分が工夫したこと
 原こうをこの時に、書くつもりはないようにして
 伝わりやすかった。
 自分の住んでいる向島・尾道について振り返ろう
 自分達が知らなかった向島・尾道の良いところがたくさん
 分かった。向島・尾道では、サイクリングをやる人が
 多い。それに、塩田の塩作りが
 面白いことが分かりました。

振り返りでは、向島スタンダードの振り返りの3
 つの視点を踏まえた内容で振り返りを行う。
 振り返りでは、自分たちの住む地域の知らなかつ
 た魅力について発見できたことを記述していた。

3時間を通して、自分の住んでいる向島・尾道について考えたことを振り返ろう！

発表で自分が工夫したこと
 みんなに分かやすく紙に書いて発表したこと。
 自分の住んでいる向島・尾道について振り返ろう
 向島や尾道について、調べてもよくよくが
 なることを、おぼえて、思えてよかった。
 自分が住んでいる所の気づかるところがた
 ちがわりました。

□ 成果（○）と課題（●）

知	○各小学校での学びを他の小学校出身の生徒に発表することを通して、自分たちの住む尾道でも知らないことがたくさんあることに気づくことができた。
表	●資料の準備等で見通しがもてずに十分な準備ができないグループもあった。 ⇒ 情報収集やまとめの際の役割分担や、見通しをもった作業の計画性について振り返りを行っていました。
主	○各学校での学びを発信するためにどのような発表の方法が有効かを生徒に考えさせることで、どうすれば聞く人に分かりやすいかを生徒が考え、事前の準備等に主体的に取り組む姿が見られた。 ●育成を目指す資質・能力を具体的な生徒の姿で単元の始めに生徒に提示したが、十分に生徒と共通認識をもつことができなかった。 ⇒ 課題発見の段階で、単元を通して付けたい資質・能力について、ルーブリック表などで生徒に提示し、確認を行いながら活動を行うことで自己評価が行えるような指導を行う。

② 中期単元 「Team しまっ子～現代の課題について考えよう～」

□ 単元目標

- 現代社会が直面している諸課題について調べる中で、これからの自分の生き方について知識及び技能を身に付け、探究的な学習のよさを理解する。（知識・技能）
- 現代社会が直面している諸課題について、課題を設定し、目的に応じて手段を選択し、情報を収集する力を身に付ける。また、目的に応じて情報をまとめ、分析し、発信する力を育む。（表現力）
- 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、多様な他者と関わりながら自分の考えを深め、その中で感じた自分の考えや思いを発信し、これからの社会を担う志をもち、社会に参画する態度を養う。（主体性・協働性）

□ 単元設定の理由

本単元では、私たちが直面している新型コロナウイルス感染症の問題について、身の周りのことだけでなく、社会や尾道・向島への影響について視野を広げる。また、社会への影響を調べることで、第2学年の職場体験やその後の職業選択に関わって自己のキャリア形成につながるように指導を行う。

また、現在私たちが直面している新型コロナウイルス感染症と仕事への影響に着目し、自分の考えの変容を自分の考えをまとめ、思考ツール（イメージマップ）を使って学習を通して自分の考えがどのように変化したかをまとめ・発表することを通して資質・能力の育成を目指す。

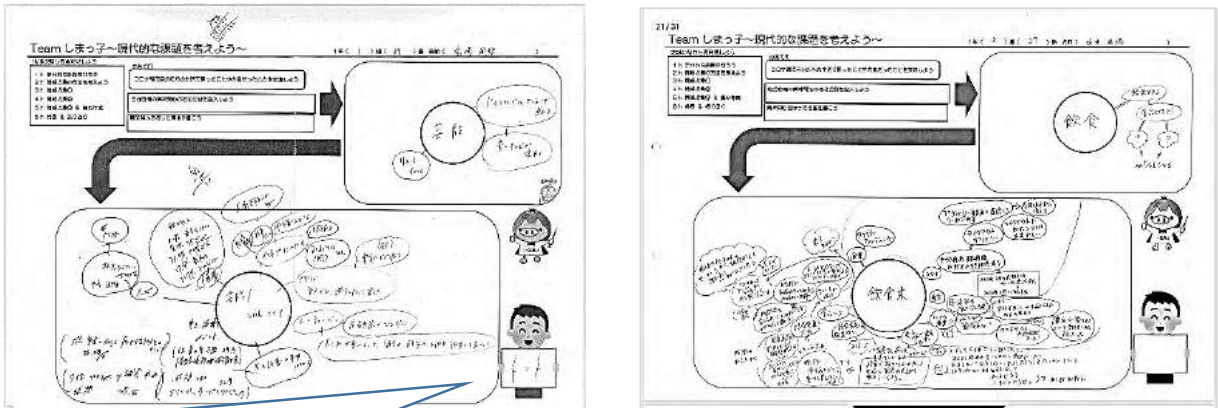
□ 育てたい資質・能力及び態度における評価規準

資質・能力	評価規準
知識・技能	①世界で起こっている実情について知識を深めることができる。
表現力	①調べた情報から必要な情報を抽出し、自分なりにまとめることができる。 ②相手に伝えたい内容を精選し、分かりやすく伝える工夫を行うことができる。
主体性・協働性	①現代社会の課題について、自ら探究したいことを見付けようとしている。 ②自ら課題を見だし、課題解決の方法を考えようとしている。 ③自分の視野を広げ、様々な価値観を受け止め、自分の生き方に生かそうとしている。 ④仲間の発表を聞き、他者の意見や考えを受け入れ、自分に生かそうとしている。 ⑤他者との関わりを通して、意見交流ができ、自らの考えを広げたり、深めたりしようとしている。

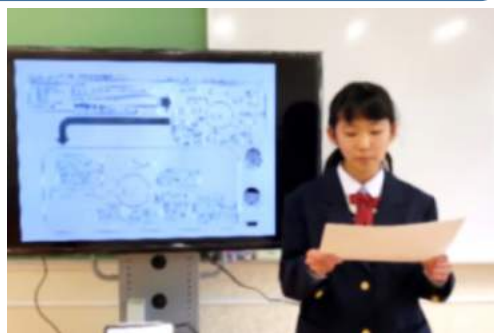
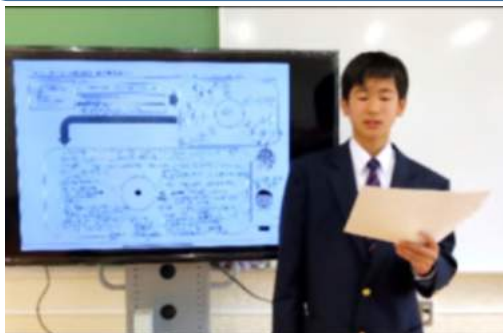
□ 指導の工夫（まとめの工夫）

授業を進めるにあたり、まずは生徒自身が長期の休校や学校再開後の生活で困っていることについて交流を行った。その中で、自分たちの住む地域や身近な仕事の業種に着目し、新型コロナウイルス感染症がどのような影響を与えているか、ニュース等で知っている情報をイメージマップにまとめた。

情報収集では、インターネットや身近な人へのインタビュー（家族等）を通して、自分の考えを広げていく、その中で自分自身が考えたことや感じたことをまとめた。発表では、調べたことを発表するのではなく、自分の考えがどのように変化したか、これから自分たちはどのようにしていかなければならないかについて発表を行った。



自分の考えがどのように広がっていったかを一目で分かるように工夫を行った。また、このワークシートをテレビに映して発表を行う資料とした。



発表の様子

発表者	発表内容	発表時間	発表場所	発表日時
1		01		
2		02		
3		03		
4		04		
5		05		
6		06		
7		07		
8		08		
9		09		
10		10		
11		11		
12		12		
13		13		
14		14		
15		15		
16		16		
17		17		

相互評価シート

□ 成果（○）と課題（●）

表

●思考ツールを使うことが初めての生徒も多く、どのようにまとめていけばよいかを困っている生徒も多くいた。

⇒生徒の思考の流れや思考の変化を見取るための道具として、各授業やクラスでの話し合いの中で活用することで、生徒が使いこなせるように普段から指導を行う。

主

○生徒自身にとって身近な内容だったので、自分の体験や生活と結び付けて課題を設定したり、情報収集を行ったりする生徒が多かった。

○ニュースや家庭でのインタビューなど情報収集を行うことに主体的に取り組み、休憩時間などに生徒同士で情報交換を行うなど生徒の主体的な活動を促すことができた。

●インターネットやニュースなどでは情報収集に限界があった。

⇒本年度は難しかったが、ゲストティーチャーや電話などで実際の業種の方へのインタビューを実施することで、生きた情報を収集させることが生徒の主体性につながると考える。

3 まとめ

(1) 成果 (○) と課題 (●)

知

- 向島中学校区の9年間を通して、生徒につけたい力を明確にし、教職員で共通認識をもつことができた。
- 総合的な学習の単元を「国際教育」と「キャリア教育」に整理することで、9年間の学習内容に系統性をもたせることができた。
- 小学校間での総合的な学習の時間の関連を深めることができ、中学校卒業時の児童生徒のゴールイメージを小中で共有することができた。

表

- 「表現力」の育成に向けて、向島スタンダードを活用して生徒に指導をすることができた。
- 小中間や学年を超えて、児童生徒の学びを発表する場面を設定するなど中学校区として中学生の資質・能力を身につけた生徒の姿を見せるなどし、具体的なイメージを児童生徒に共有化するなど工夫を行う。

主

- 小学校での学びを中学校で活用することで、自己の学びに自信をもたせることができた。
- PDCAサイクルを意識した単元開発を心がけることで、生徒に探究的な学びを促すことができた。
- 9年間の資質・能力の評価について9年間で児童生徒に到達してほしい具体的な姿のルーブリックを作成するなど評価に関して十分な取組ができなかった。

(2) 今後について

今後の取組として、向島中学校区として育成を目指す資質・能力を統一し、具体的な姿や作品の到達目標をルーブリック評価表とし、すべての職員で共有化することが必要と考える。

また、育成を目指す資質・能力について、生徒の実態やその到達の目標の見直しを行うことでPDCAサイクルのCA（チェック⇒アクション）の部分の充実を図ることが必要と考える。

おわりに

ここでは、本調査研究に取り組んだ4校について、少し紹介させていただきます。

第2章第1節で紹介した向島中央小学校は、先生方が明るく元気のよい学校です。本調査研究を通して、その明るさ、元気のよさはさらに顕著なものとなっています。そんな先生方に毎日ふれあう子供たちものびのびと育っています。市独自で実施している学力調査の今年度の結果では、全ての学年が昨年度の結果を上回ることができました。学校教育目標の実現のために設定した4つの資質・能力が、教育活動全体で意識されてきたことは、大きな成果です。

第2節で紹介した高見小学校は、調査研究の最終年度である今年度、環境大臣賞を受賞するといううれしいニュースがありました。長年にわたり、理科教育の実践に取り組んできたことが評価されました。今年度は、自分たちで筏を製作するところからスタートし、自分達で製作した筏に乗って、無人島に上陸し、豊かな自然体験を経験することができました。このような豊かな体験が、たくましい高見っ子の育成につながっています。

第3節で紹介した三幸小学校は、子供と先生がともに成長する学校です。「子供にとって」を視点に組織的にPDCAサイクルを素早く回されました。先生方が教科等横断的な取組を実践される一方で、子供たち自身も学んだことを他の学習や生活に活用する姿が見られるようになりました。子供たちの学びは、学校内にとどまらず、総合的な学習の時間に練習した手話の歌を保護者や地域の方に披露する子供たちの姿は、見る人の心を熱くしました。

第4節で紹介した向島中学校は、これまで不登校や生徒指導への対応に先生方が苦心されてきました。さらに、昨年度末からの新型コロナウイルス感染症の影響により、教育課程の変更を余儀なくされました。しかし、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力として設定した「知識・技能」「表現力」「主体性・協働性」を軸にして、学校内外の資源を有効活用して総合的な学習の時間の計画を組み直されました。先生方の努力の甲斐あって生徒は自己の生き方を見直すような学びを体験することができました。

また、この2年間で、18回のカリキュラム・マネジメント推進委員会を実施してきました。その度に、4校の現状を確認し合い、次なる一手を先生方に考えていただきました。4校で統一した取組と各校独自の取組が融合したことにより、これまでにない学校の好循環が生まれました。学校の数だけ、カリキュラム・マネジメントの手法は存在するということが、第3章の実践事例からも伺えます。4校の先生方が理念を共有し、協働して課題解決していく姿は、今や向島中学校区の学校文化となりつつあります。本調査研究は終了しますが、これまでに得た知見を活かし、今後も教育活動の質の向上に取り組んでいただきたいと思います。

最後になりましたが、本手引きを作成するまでにご指導くださった甲南女子大学教授村川雅弘先生、広島大学大学院教授深澤広明先生、文部科学省初等中等教育局教育課程課堀田雄大様、先進地視察等でお世話になった学校、先生方に心より御礼申し上げます。

令和3年3月
尾道市教育委員会

【参考文献】

- 文部科学省 小学校学習指導要領解説 総則編 平成29年7月
- 村川雅弘 学力向上・授業改善・学校改革 カリマネ100の処方 平成30年4月
- 天笠茂 新教育課程を創る学校経営戦略 カリキュラム・マネジメントの理論と実践
令和2年4月
- 村川雅弘 吉富芳正 田村知子 泰山裕
教育委員会・学校管理職のためのカリキュラム・マネジメント実現への戦略と実践
令和2年4月
- 村川雅弘 with コロナ時代の新しい学校づくり 危機から学びを生み出す現場の知恵
令和2年12月

令和元年度・令和2年度 文部科学省委託事業
「これからの時代に求められる資質・能力を育むための
カリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」

カリキュラム・マネジメントの手引き

令和3年3月

発行 広島県尾道市教育委員会 教育指導課
TEL 0848-20-7455

印刷 大東印刷株式会社
三原市皆実四丁目5-30
TEL 0848-62-3389

資 料

- 資料 1 年間学習計画（カリマネマップ）
- 資料 2 単元構想図
- 資料 3 授業設計・（形成的）評価マトリクス
- 資料 4 授業実践
- 資料 5 向島中学校区 総合的な学習の時間 全体計画
- 資料 6 向島中学校区で育成を目指す資質・能力
表現力にかかる系統

第1学年 生活科年間学習計画(カリマネマップ)

資料1

月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
時数	6・6・10		6	6	8・6	16	10	11		17	
単元名・小単元名	がっこうだいすきあいうえお⑥	げんきにそだてわたしのはな⑥	あそびばにでかけよう⑥	なつとなかよし⑥	生きもの大すき⑧	あきとなかよし⑯	ひろがれ えがお⑩	ふゆとなかよし⑪		もうすぐ2年生⑰	
重点を置く学習内容	学校の施設とその役割、学校で働いている人々とその仕事を知り、親しみを持つ。		遊び場で遊ぶことを通して、みんなで使う場所やそれを支えている人々がいることなどに気づき、伝え合う。	身近な自然を観察したり、夏の遊びを楽しんだりしながら、春から夏への変化や夏の特徴、季節によって生活の様子が変わることなどに気づき、伝え合う。	捕まえた生き物を飼って世話しながら、観察したり、気付いたことを伝え合う。	木の葉や木の実などの自然物を使ってみんなで工夫して生活に役立つものを作ったり、遊びに使うものを作り、楽しむ。	自分の家庭生活を振り返ったりする活動を通して、家族の一員として自分でできることを考え、伝え合う。	身近な自然を観察したり、冬の遊びを楽しんだりする活動を通して、冬の季節の特徴やそれらを利用した遊びの面白さに気づき、伝え合う。		入学してからの1年間を振り返り、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったことに気づき、発表する。	
	自分も学校の一員であることを知り、楽しい学校生活を送ることができるようにする。通学路の様子や学校の周りの支えてくれる人に気づき、安全な登下校について考え、伝え合う。										
すべ	関係付け	比較	関係付け	比較	関係づけ	比較	関係づけ	比較	比較		
	関係付け				比較						
言語能力	【知技】	【知技】植物が成長していることに気づき、絵や文章、言葉で表現する力	【知技】遊び場を支える人々やルール、マナーがあることに気づき、絵や文、言葉で表現する力	【知技】春から夏にかけての変化に気づき、絵や文章、言葉で表現する力	【知技】生きものの成長に気づき、絵や文章、言葉で表現する力	【知技】夏と秋の様子を比べ、変化に気づき、絵や文章、言葉で表現する力	【知技】自分でできることや家庭での自分の役割に気づき、絵や文章、言葉で表現する力	【知技】冬の自然の変化や不思議さ、面白さに気づき、絵や文章、言葉で表現する力	【知技】自分でできるようになったことに気づき、絵や文章、言葉で表現する力		
	【思判表】	【思判表】伝えたいことを言葉や動作で発表する力	【思判表】伝えたいことを言葉や動作で発表する力			【思判表】友達の考えを聞いて、質問する力		【思判表】伝えたいことを言葉や動作で発表する力			
	【主】	【主】意欲的に話し、友達の話を聞こうとする態度		【主】意欲的に話し、友達の話を聞こうとする態度	【主】意欲的に話し、友達の話を聞こうとする態度			【主】意欲的に話し、友達の話を聞こうとする態度	【主】意欲的に話し、友達の話を聞こうとする態度		
情報活用能力	【知技】	【知技】学校での生活はいろいろな人や施設と関わっていることに気付く力	【知技】必要な情報を収集する力	【知技】必要な情報を収集する力	【知技】必要な情報(生き物の育て方)を収集する力		【知技】必要な情報を収集する力	【知技】必要な情報を収集する力	【知技】必要な情報を収集する力		
	【思判表】	【思判表】友達の考えを聞いて、質問する力		【思判表】友達の考えを聞いて、質問する力		【思判表】インタビューの内容や仕方を考え、質問する力		【思判表】友達の考えを聞いて、質問する力	【思判表】友達の考えを聞いて、質問する力		
	【主】		【主】情報の活用場面を振り返り、改善しようとする力	【主】情報の活用場面を振り返り、改善しようとする力			【主】情報の活用場面を振り返り、改善しようとする力	【主】情報の活用場面を振り返り、改善しようとする力	【主】情報の活用場面を振り返り、改善しようとする力		
問題発見・解決能力	問題発見力	情報分析力		問題発見力	情報分析力	問題発見力	問題発見力 問題解決力	問題発見力			
各教科・領域等との関連	学活:トイレのつかいかた 国語:よろしくね 道徳:たのしいがっこう	国語:みんなにはなそう 道徳:うまれたてのいのち		国語:おなじところ ちがうところ	算数:あわせていくつ ちがいはいくつ	国語:はっけんしたよ 算数:たしざん	道徳:おふるばそうじ 学活:あいさつと言葉づかい	学活:ふゆとなかよし	国語:小学校のことをしようかいしよう 一年かんをふりかえろう 学活:もうすぐ2年生		
学校行事	一年生を迎える会				社会見学		学習発表会				新一年生との交流

第2学年 生活科年間学習計画(カリマネマップ)

月	4		5		6		7		9		10		11		12		1		2		3	
時数	2	2・2	4	4	3	3	4		7	4・3	7	8	8	5・2	8	2	5	5	5	5	7	
単元名・小単元名	おいしい野さいをそだてよう② わくわくするね2年生④		レッツゴー町たんけん⑭				おいしい野さいをそだてよう④		みんな生きている⑪		おいしい野さいをそだてよう⑩ もっと行きたいな町たんけん⑳						つたえ合おう 町のすてき⑩		これまでのわたし これからのわたし⑰			
重点を置く学習内容	育てたい野菜を決め、苗を植え、育て方を考える。 新たな抱負を話し合ったり、1年生に喜んでもらえることを計画したり準備したりする。		自分たちが住む町を探検したり、町の人にインタビューしたりして、気付いたことをまとめ、伝え合う。				植えた野菜の世話をしたり、観察したりする。		捕まえた生き物を飼って世話をしながら、観察したり、気付いたことを伝え合う。		冬野菜の苗を植え、育て方を調べたり、成長の様子を観察したりする。		秋の町の自然や人々、公共施設などについて調べたり体験したりして、気付いたことをまとめ、伝え合う。		動くおもちゃを工夫して作ったり、改良したり、遊んだりする。		1年間の町探検の中で、気づいたことや、多くの人と交流してきたことなどをまとめ、伝え合う。		これまでの自分の成長を振り返り、アルバムにまとめる。			
すべ	比較		比較				比較		比較		比較		比較		比較		比較		比較			
			関係付け				関係付け		関係付け		関係付け		関係付け		関係付け		関係付け		関係付け			
言語能力	【知技】		【知技】春と夏の町の様子を比較しながら説明する力				【知技】苗を植えたときと今の様子进行比较しながら説明する力		【知技】苗を植えたときと今の様子进行比较しながら説明する力		【知技】夏と秋の町の様子を比較しながら説明する力		【知技】自分と友達のおもちゃを比較しながら説明する力		【知技】1年を通しての町の様子を比較しながら説明する力							
	【思判表】		【思判表】伝えたいことをまとめ、伝え合う力		【思判表】分かったことや気付いたことを整理し、伝え合う力		【思判表】分かったことや気付いたことを整理し、伝え合う力		【思判表】分かったことや気付いたことを整理し、伝え合う力		【思判表】分かったことや気付いたことを整理し、伝え合う力		【思判表】分かったことや気付いたことを整理し、伝え合う力		【思判表】分かったことや気付いたことを整理し、伝え合う力							
	【主】		【主】友達の考えと比べながら話し合う力		【主】自分のものの見方や考え方を深めようとする態度		【主】相違点や共通点について話し合う力		【主】相違点や共通点について話し合う力		【主】自分のものの見方や考え方を深めようとする態度		【主】相違点や共通点について話し合う力		【主】相違点や共通点について話し合う力		【主】相違点や共通点について話し合う力		【主】自分のものの見方や考え方を深めようとする態度			
情報活用能力	【知技】		【知技】必要な情報を収集する力				【知技】必要な情報(野菜の育て方)を収集する力		【知技】必要な情報(生き物の育て方)を収集する力		【知技】必要な情報を収集する力		【知技】必要な情報を収集する力									
	【思判表】		【思判表】1年生に分かるように学校のことを伝える力		【思判表】インタビューの内容や仕方を考え、質問する力		【思判表】情報を多面的に考察する力		【思判表】インタビューの内容や仕方を考え、質問する力		【思判表】1年生におもちゃの動きや遊びのおもしろさを伝える力		【思判表】必要な情報を判断する力		【思判表】情報を活用して、まとめる力							
	【主】		【主】情報の活用場面を振り返り、改善しようとする力		【主】情報の活用場面を振り返り、改善しようとする力		【主】情報の活用場面を振り返り、改善しようとする力															
問題発見・解決能力		問題発見力		情報分析力				問題解決力(調べたことをもとに、問題を解決する力)		情報分析力		問題解決力(調べたことをもとに、問題を解決する力)										
各教科・領域等との関連		学活:1学期の目標		国語:同じところちがうところ 道徳:ぎおんまつり 花火にこめられたねがい 学活:あいさつと言葉づかい				国語:同じところちがうところ 道徳:大きくなったね 虫が大好き 生きているから		国語:同じところちがうところ 道徳:ぎおんまつり 花火にこめられたねがい 学活:あいさつと言葉づかい		国語:あそび方をせつ 明しよう		国語:同じところちがうところ 道徳:ぎおんまつり 花火にこめられたねがい								
学校行事		一年生を迎える会						社会見学		学習発表会		マラソン大会										

第4学年 理科年間学習計画(カリマネマップ)

月	4		5		6		7		9		10		11		12		1		2		3													
時数	1・9		6		6		8		4		2・2		7		7		7		4・3		9		2		3		8		8		6・1		2	
単元名・小単元名	自然にせまる 1 春の生き物		2 天気と1日の気温 地面を流れる水のゆくえ		3 電気のはたらき		夏の生き物 夏の夜空 自由研究		4 月や星の動き		5 とじこめた空気や水		6 人の体のつくりと運動		秋の生き物 みんなて使う理科室		7 ものの温度と体積		冬の夜空		冬の生き物		8 もののあたたまり方		9 水のすがた		10 水のゆくえ これまでの学習をつなげよう		生き物の1年間					
重点を置く学習内容	生き物を観察し、春と冬の様子について差異点や共通点を見つける。		天気と1日の気温のようすを記録し、まとめる。		乾電池の向きや数とモーターの回り方を調べる。 乾電池のつなぎ方とモーターの回り方を調べる。		生き物を観察し、夏と春の様子について差異点や共通点を見つける。				閉じ込めた空気を圧したときの体積変化を調べる。 閉じ込めた水を圧したときの体積変化を調べる。		生き物を観察し、秋と夏の様子について差異点や共通点を見つける。		空気・水・金属を温めたときの体積変化を調べる。 空気・水・金属を冷やしたときの体積変化を調べる。				生き物を観察し、冬と秋の様子について差異点や共通点を見つける。		金属・水・空気の温まり方を調べる。		温度による水の状態変化について調べる。				1年間の生き物の様子についてまとめる。							
調べ	比較 関係付け		比較 関係付け		比較 関係付け		比較 関係付け		比較 関係付け		比較 関係付け		比較 関係付け		比較 関係付け		比較 関係付け		比較 関係付け		比較 関係付け		比較 関係付け		比較 関係付け		比較 関係付け							
言語能力	【知技】「気温」「水温」などの理科用語を使って説明する力						【知技】春と夏の生き物の様子を比較しながら説明する力						【知技】生き物の様子と季節とのかかわりについて、気温の変化と関係付けて説明する力						【知技】動物と植物の冬越しの様子の違いに着目して説明する力						【知技】生き物の様子の違いについて、気温の変化を根拠に結論付ける力									
	【思判表】				【思判表】電池の数やつなぎ方と電流の大きさや向きやモーターの回る向きを考察する力				【思判表】情報を多面的に捉え、整理し構造化する力		【思判表】情報を多面的に捉え、整理し構造化する力				【思判表】情報を多面的に捉え、整理し構造化する力																			
	【主】		【主】相違点や共通点について話し合う力		【主】自分のものの見方や考え方を深めようとする態度		【主】相違点や共通点について話し合う力				【主】相違点や共通点について話し合う力		【主】相違点や共通点について話し合う力		【主】相違点や共通点について話し合う力		【主】相違点や共通点について話し合う力		【主】相違点や共通点について話し合う力		【主】相違点や共通点について話し合う力		【主】相違点や共通点について話し合う力											
情報活用能力	【知技】						【知技】必要な情報を収集する力				【知技】必要な情報を収集する力				【知技】必要な情報を収集する力																			
	【思判表】		【思判表】1日の気温の変化と天気の様子を関係付ける力		【思判表】電池の数やつなぎ方と電流の大きさや向きやモーターの回る向きを関係付ける力				【思判表】情報を多面的に考察していく力		【思判表】情報を多面的に考察していく力		【思判表】情報を多面的に考察していく力		【思判表】情報を多面的に考察していく力		【思判表】情報を多面的に考察していく力		【思判表】情報を活用して、まとめる力															
	【主】						【主】情報の活用場面を振り返り、改善しようとする力				【主】情報の活用場面を振り返り、改善しようとする力		【主】情報の活用場面を振り返り、改善しようとする力		【主】情報の活用場面を振り返り、改善しようとする力																			
問題発見・解決能力	問題発見力(問題を見いだす力)		情報分析力		発想力(予想や仮説を発想する力)		情報分析力		問題解決力(予想や仮説をもとに、問題を解決する力)		発想力(予想や仮説を発想する力)		発想力(予想や仮説を発想する力)																					
総合的な学習との関連	防災プロジェクト										高見の山探検隊						二分の一人式プロジェクト																	
各教科・領域等との関連	国語:新聞作り		算数:折れ線グラフ		社会:自然災害からくらしを守る		道徳:小さな草たちにはくしゅを		国語:新聞作り		国語:新聞作り		道徳:聞かせて、君の声を!		国語:新聞作り		算数:折れ線グラフ		社会:水の循環		国語:新聞作り													
学校行事	PTCホテル鑑賞会						社会見学						二分の一人式																					

第5学年 理科年間学習計画(カリマネマップ)

月		4		5		6		7		9		10		11		12		1		2		3	
時数		1・2		14		8		7		4・1		1・9		1・8		12・1		7		16		13	
単元名・小単元名		自然を読みとく 花のつくり		1. 植物の発芽と成長		2. メダカのとんじょう		3. ヒトのとんじょう		台風と気象情報 自由研究		自由研究 4. 花から実へ		これまでの学習をつなげよう 5. 雲と天気の変化		6. 流れる水のはたらき みんなで使う理科室		7. ふりこのきまり		8. もののとけ方		9. 電流と電磁石	
重点を置く学習内容		アブラナの花には、1つの花にめしべやおしべがあり、花びらが散った後、めしべのものが育って実になることを理解できるようにする。		条件制御をすることで植物の発芽や成長にかかわる条件をとらえるようにする。		メダカを育て、雌雄の体の違いや受精卵のようすを観察し、発生の条件や過程をとらえられるようにする。		ヒトの卵や胎児の成長のようすを時間の経過と関係づけてとらえられるようにする。		日本の夏から秋にかけて、南の海上から北上してくる台風の動きや進路について、気象情報を活用してその特徴をとらえる。		めしべ・おしべの特徴を調べることに より、花びらが散った後、めしべのものが育って実になり、中に種子ができることをとらえるようにする。 花の役割や受粉と結実との関係をとらえるとともに、生命を尊重する態度を養い、生命の連続性を理解する。		雲の形や量、動きに着目して、それらと天気の変化とを関係づけて調べ、天気の変化のしかたをとらえられるようにする。		流れる水には地面を削ったり、石や土を運んだり積もらせたりするはたらきがあることや、川の上流と下流によって、川原の石の大きさや形が違ふことをとらえる。 長雨や集中豪雨に伴う川の増水による災害や、防災・減災、くらしを支える水資源についても意識を高める。		振り子が1往復する時間に着目して、おもりの重さや振り子の長さなどの条件を制御しながら、振り子の運動の規則性を調べる。		ものが水に溶ける量やようすに着目して、水の量や温度などの条件を制御しながら、ものの溶け方の規則性を調べる。		電磁石の極の性質や電磁石の強さが変化する要因についてとらえるとともに、電流がつくる磁力についての考えをもつ。	
すべ		比較		比較 関係付け 条件制御		比較 関係付け		関係付け		比較 関係付け		比較 関係付け		比較 関係付け 条件制御		比較 関係付け 条件制御		比較 関係付け 条件制御		比較 関係付け 条件制御			
言語能力	【知技】									【知技】今まで経験してきた気象情報に関する既有知識に関する理解する力												【知技】今まで経験してきた磁石や電気に関する既有知識に関する理解する力	
	【思判表】	【思判表】観察したことをもとに、めしべと大きくなった実を比較することによって、実がどのようにかかわるかを想像する力		【思判表】空気、水、温度、日光、肥料と、条件を制御し、発芽や成長と関係付ける力										【思判表】実験を通して、実際の川へと考えを形成、進化する力		【思判表】複数の実験の情報を多角的・多面的に精査し構造化する力							
	【主】					【主】人と関わることで自分のもの見方や考え方を深めようとする態度		【主】人や自然と関わることで自分のもの見方や考え方を深めようとする態度						【主】実験を通して、班や全体で交流していくことで、集団の考えを発展させようとする態度		【主】実験を通して、班や全体で交流していくことで、集団の考えを発展させようとする態度						【主】実験を通して、班や全体で交流していくことで、集団の考えを発展させようとする態度	
情報活用能力	【知技】			【知技】メダカの飼育方法や子メダカの増やし方について、情報収集する技能		【知技】受精卵から胎児が育つ様子についてメダカの受精卵と比較しながら情報収集する技能		【知技】台風による天気の変化について、生活経験や既習事項の情報と関係付けながら必要な情報を集めるための技能		【知技】植物の結実についての生活経験や既習事項の情報や情報技術についての知識と技能		【知技】天気の変化についての生活経験や既習事項である台風と比較したり関係付けたりし情報を収集したりする知識と技能											
	【思判表】			【思判表】観察や実験を通して解決のための収集した情報から必要なものを選択するための判断力		【思判表】複数の情報を関係付けて、台風の進路について決まりを見いだす力		【思判表】観察や実験を通して必要な情報や解決の方法などを比較し選択するための判断力		【思判表】観察や実験を通して必要な情報や解決の方法などを比較し選択するための判断力		【思判表】複数の情報を関係付けて、天気の変化について決まりを見いだす力										【思判表】実験から得た情報を活用して次時の課題を発見し解決するための思考力	
	【主】											【主】調べ学習を通して、得た情報を多面的・多角的に吟味し見定めていく力										【主】振り返りの中で自らの仮説や考察を振り返り、評価し改善しようとする力	
問題発見・解決能力		調べたい条件に合わせて実験方法を考え、実験をする計画実行力		飼育する上で必要な条件を考えて実践する計画実行力		母体内での胎児の育ち方について、課題から調べるために必要なものや資料を考えられる課題分析力		課題から調べるために必要なものや資料を考えられる課題分析力		調べたい条件に合わせて実験をする計画実行力		課題から調べるために必要なものや資料を考えられる課題分析力		学習したことを基に、他教科で学習したことと関係付けながら防災・減災に努めようとする計画実行力		調べたい条件に合わせて実験をする計画実行力		調べたい条件に合わせて実験をする計画実行力		調べたい条件に合わせて実験をする計画実行力		調べたい条件に合わせて実験をする計画実行力	
総合的な学習との関連		福祉体験プロジェクト～自分のできることを見つけよう～																					
各教科・領域等との関連		算数: 変わり方を調べよう				道徳: 命		算数: 比べ方を考えよう				算数: 比べ方を考えよう		社会: 自然災害を防ぐ		算数: 変わり方を調べよう		算数: 比べ方を考えよう		算数: 比べ方を考えよう			
学校行事		遠足		校外活動		防災教室		社会見学		海浜清掃		避難訓練(地震)		卒業証書授与式									

第6学年 理科年間学習計画(カリマネマップ)

月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3		
時数	1・9	10	8・2	5・1	2・1・8	6・6	11	5	10	12	2・5		
単元名・小単元名	自然とともに生きる 1 ものが燃えるしくみ	2 ヒトや動物の体	3 植物のつくりとはたらき 4 生物どうしのつながり	4 生物どうしのつながり これまでの学習をつなげよう	自由研究 みんなで使う理科室 5 水よう液の性質	5 水よう液の性質 6 月と太陽	7 大地のつくりと変化	7 大地のつくりと変化	8 てこのはたらき	9 発電と電気の利用	9 発電と電気の利用 10 自然とともに生きる		
重点を置く学習内容	ものの燃焼と空気の変化とを関係付けて、ものの燃焼にしくみについて推論する。	消化、呼吸、循環および排出のはたらきや体の各器官のはたらきについて調べる。	根から取り入れられた水のゆくえや植物と空気の関係、植物が養分を作るはたらきについて調べる。	動物と植物が空気を通してかわり合っていることについて、調べたことから考察する中でより妥当な考えを作り出し表現する。	溶けているものや、水よう液の性質やはたらきについて調べる。	身の回りで使用されている酸性やアルカリ性の水溶液を調べる。 実験や観察をもとに、月の形の見え方が変化する理由について、より妥当な考えを作り出し表現する。	地層などを観察し、地層のつくりやでき方について調べる。	火山活動や地震による大地の変化と災害とを関係づけて調べる。	てこの手ごたえやてこがつり合うときを調べる。	身の回りのこの規則性が利用されているものを調べる。	手回し発電機やコンデンサーを使って発電のしくみや様子を調べる。	身の回りの電気の性質やはたらきを利用した道具を調べる。 資料などからヒトの活動と環境が互いに与えている影響を調べる。	
すべ	関係付け 多面的に考える	比較 関係付け	関係付け 多面的に考える	関係付け 多面的に考える	関係付け 多面的に考える	多面的に考える 関係付け 多面的に考える	比較 関係付け	関係付け 多面的に考える	比較 関係付け	多面的に考える 関係付け	比較 関係付け 多面的に考える		
言語能力	【知技】	【知技】既有知識に関する理解(4年人の体のつくりと運動)	【知技】既有知識に関する理解(3年植物の育ちとつくり)	【知技】既有知識に関する理解(5年めだかのたんじょう)	【知技】「酸性」「中性」「アルカリ性」の言葉を使って説明する力	【知技】既有知識に関する理解(4年月と星)							
	【思判表】	【思判表】観察結果を図や絵、文に表す力			【思判表】観察結果を図や絵、文に表す力	【思判表】情報を多面的に捉え、整理し構造化する力		【思判表】観察結果を図や文に表す力	【思判表】情報を多面的に捉え、整理し構造化する力	【思判表】観察結果を図や絵、文に表す力	【思判表】情報を多面的に捉え、整理し構造化する力		
	【主】		【主】自分のものの見方や考え方を深めようとする態度	【主】相違点や共通点について話し合う力			【主】相違点や共通点について話し合う力						
情報活用能力	【知技】	【知技】資料を目的に応じて選択し、調べた結果を記録する力				【知技】実験や資料から太陽の位置関係を理解する力			【知技】身近なものについての知識と技能		【知技】社会の中で発電や電気が果たしている役割についての知識		
	【思判表】	【思判表】ものを燃やした複数の結果から、気体によるはたらきの違いについてより妥当な考えを作り出し表現する力	【思判表】情報を活用して問題を発見する力	【思判表】既習の情報を活用し、問題を解決する力	【思判表】相手や状況に応じて、情報を伝えるための表現力	【思判表】水溶液に関する必要な情報を比較し選択する判断力	【思判表】情報を活用して問題を発見する力	【思判表】情報を活用して問題を発見する力		【思判表】情報を活用して、まとめる力			
	【主】	【主】情報を多面的・多角的に吟味し見定めていく力	【主】自らの学習を振り返り、情報を評価し改善しようとする力	【主】自らの情報活用を振り返り、評価し改善しようとする力				【主】情報を多面的・多角的に吟味し見定めていく力		【主】自らの情報活用を振り返り、評価し改善しようとする力			
問題発見・解決能力	問題発見力(問題を見いだす力)	情報分析力 より妥当な考えをつくりだす力	発想力(予想や仮説を発想する力)	より妥当な考えをつくりだす力	発想力(予想や仮説を発想する力)	問題解決力(予想や仮説をもとに、問題を解決する力)	より妥当な考えをつくりだす力	発想力(予想や仮説を発想する力)	問題解決力(実験結果をもとに問題を解決する力)	発想力(予想や仮説を発想する力)	発想力(予想や仮説を発想する力)	発想力(予想や仮説を発想する力)	問題発見力(問題を見いだす力)
総合的な学習との関連	江府島探検をしよう				日本の文化にふれよう		向島のよさを再発見しよう			これまでの学習をまとめよう			
各教科・領域等との関連	国語:図書館へ行こう								算数:データの活用			算数:プログラミング	
学校行事	遠足				修学旅行	学習発表会						卒業証書授与式	

単元構想図 5年 台風に備えよう ～台風と気象情報～

(全4時間)

単元の目標

日本の夏から秋にかけて南の海上から北上してくる台風の動きや進路について、気象情報を活用してそれぞれの特徴を捉えることができるようにする。また、台風による災害と災害への備え方を学ぶことを通して、防災・減災意識を高めることができるようにする。

資質・能力育成のためのカリキュラム・マネジメント

社会科 「国土と気候の特色」：我が国の気候に与える季節風、梅雨、台風との関連

「あたたかい土地の暮らし」：沖縄県の台風に備えた暮らし

理科でも天気の変化や台風について学習することを提示し、常に意識させながら学習する。

理科 「ヒトのたんじょう」を後に回し、単元に入る前に「雲と天気の変化」を学習する。

単元導入～課題追究(1/4・2/4)

1 社会科から、台風はいつ頃特に日本のどの辺りに多くやってくるのかふりかえり、これから台風が日本にやってくることから、単元を貫く課題(台風に備えよう)を設定する。←児童から出るように現在種まき中。

2 台風について知っていること、知りたいことを出し合う。

台風に備えるためには、

①台風がどこで生まれて、どう進むのか知る。

②どんな災害が起きるのかを知り、それを防ぐ方法を考える。

課題：台風はどこで発生し、どう進むのだろうか。

仮説

・社会科で南の方で発生し、日本に近づくと学習した。北西に動くのではないか。

・「主な進路」となっていたから、様々な動きをするのではないか。

・「雲と天気の変化」の学習から、雲は西から東に動き、それに伴って天気も変わる事が分かった。また、積乱雲のような厚い雲があると雨が降ることが分かった。だから台風も厚い雲が動いているのではないか。

その他にも知りたいこと。

・なぜ台風が生まれるのか。

・違う動きをすることはしないのか。

等々。

めあて：課題解決のための資料を集めよう。

3 調べる方法を考え、①②について情報を集める。

基盤となる資質・能力(情報活用力：知識・技能)

「すべ」：関係付け

4 集めた情報を分類・整理し、台風の進路について分かる資料を選ぶ。

5 交流・次時の見通し

①の解決に有効な資料は、「時系列の衛星画像」「時系列のアメダス」「時系列の天気図」など

②の解決に有効な資料は、「時系列のアメダス」「時系列の天気図」「ニュース映像や画像」「防災関連のホームページ」など

次時は、課題「台風はどこで発生し、どう進むのだろうか。」を解決する。

本時(3/4)

1 前時の学習のふりかえり、本時のめあてを設定する。

課題：台風はどこで発生し、どう進むのだろうか。
めあて：集めた情報をもとに、台風の進路を説明し、その後の動きを予想しよう

2 情報を使って台風の動きについての考察を書く。

基盤となる資質・能力

：情報活用力(思考・判断・表現)

：言語能力

付けたい資質・能力：表現力

「すべ」：関係付け

書かせたい考察

〇〇から日本に近づく台風の多くは南の太平洋上で発生し、勢力を強めながら北に進むものが多いことが分かる。この台風は北に進んだ後、沖縄県の辺りで北東にむかってスピードを上げながらまっすぐに進んでいる。したがって、この後もこのまままっすぐ進み、次の日には日本の東側を通り抜けると考えられる。

3 交流1(3人グループによる交流)

4 友達に自分の考えを広げたり、聞いたりした後、もう一度自分の考察を深める。

5 交流2(全体交流)

6 まとめ・ふりかえり

台風のもたらす災害と防災について(4/4)

1 前時の学習のふりかえり、本時の課題を設定する。

課題：台風はどのような災害をもたらし、私たちはどう備えれば良いのだろうか。

仮説

・これまでの経験から、台風が近づくと激しい雨や風が吹いたから、雨や風を伴うと思う。

・雨がたくさん降ると、洪水や土砂崩れが起きていた。だから台風もそれらの災害が起きると思う。

・2年前の豪雨災害の時は水道が出なくなった。水道が止まったり、停電したりする災害もあるのではないか。海も荒れるから水の事故もあると思う。

2 台風がもたらす天気の変化、災害や防災について調べる。

書かせたい考察

〇〇や△△から、台風の進路に沿って激しい風や雨が降り、台風の進路によって風向きもどんどん変わることが分かる。だから、それに備えて台風が向かってくる方向だけでなく、家の周り全体で物がとばないようにする必要がある。また、高波も来るので海には絶対に近づかないようにする。仮説と同じく、停電やガス・水道が止まったり、家が飛ばされたりすることもあるので、防災グッズを用意しておく。そのためには、ニュースやインターネット、ラジオなどで情報をしっかりと集めることが必要だと分かる。

基盤となる資質・能力

：情報活用力(主体的に学習に取り組む態度)

：言語能力

3 交流1(3人グループによる交流)

4 友達に自分の考えを広げたり、聞いたりした後、災害と災害への備え方についてまとめる。

5 交流2(全体交流)

6 まとめ・ふりかえり

単元構想図 1年「あきとなかよし～あきはかせになろう！～」(全16時間)

単元の目標

秋の校庭や遊び場などで散歩したり遊んだりする活動を通して、秋のものを見つけ、それらの違いや特徴を表現することができる。

見つけた自然物を使い、工夫して遊びにつかうものを作り、工夫する面白さやよりよいものを作る楽しさを味わうことができる。

育てたい資質・能力：表現力

見つけた秋の自然物の気付いたことや感じたことを絵や文章、言葉で表現することができる。

次	時	学習課題・めあて・学習活動・すべ	・予想される児童の反応 ←切り返し発問	評価規準 (評価方法)	カリキュラム・マネジメント
一	1	<p>①なつとのちがいをを見つけよう。 子供達のイメージや身の回りで感じる秋について自由に出し合い、興味・関心をもたせる。 実際に秋を探しに行くため、秋探しに出かける計画を立てる。</p> <p>問題発見・解決能力：課題発見力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・葉っぱの色が変わる。 ・虫が鳴き始める。 ・ヒマワリは種ができる。 ・どんぐりの実ができる。 ・外に見に行ってみよう。 	<p>学：身近な自然に興味をもち、秋見つけに期待感をもって計画を立てようとしている。 (行動観察)</p>	
	2 3	<p>②こうていやなかにわであきをみつけよう。 校庭や中庭で秋だと思うものを探し、観察したり写真に撮ったりする。見つけた秋を発見カードに書く。 さらにたくさんの秋を見つげに行くための計画を立てる。 見つけた秋を共有する。</p> <p>言語能力：論理的表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生の綿ができていた。 ・みんなに教えてあげたい。 ・わたしは中庭でコオロギを見つけました。草の中に隠れていました。黒くてつやつやしていました。 ・ぼくは中庭の桜の葉っぱが秋だと思いました。茶色くて枯れているみたいでした。 ・学校の外にも秋を探しに行ってみよう。 	<p>知：秋の様子に気づいている。 (行動観察・発見カード) 思・判・表：話型のもとに自分が見つけた秋を紹介できる。 (発表)</p>	国語「はっけんしたよ」
	4 5	<p>③もっとあきをみつけよう。 洋ランセンターに行き、秋見つけをする。 見つけた秋をあきのたからものカードに書く。</p> <p>言語能力：論理的表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校にはいない秋の虫がいたよ。 ・夏には元気に咲いていたヒマワリがしおれて種が取れるようになったよ。 ・新しい秋をたくさん見つけたからみんなに教えてあげたいな。 ・いろいろ見つけたから図鑑みたいになりたい。 ・みつけたあきのものであそびたいな。 	<p>学：身近な自然に興味をもち、秋を見つげようとしている。 (行動観察・発見カード) 知：秋の様子に気づいている。 (行動観察・発見カード)</p>	算数「たしざん」
二	6 7 8	<p>④あきのたのしみかたをけんきゅうしよう。 見つけた秋のものをつかたのしみかたやあそびかたを紹介するための方法を考える。発表に向けて準備をする。</p> <p>情報活用能力：整理・分析力 言語能力：論理的表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・たのしいあきを図鑑やポスターにまとめると分かりやすいかな。 ・こんなおもちゃも作れるよ。 	<p>思・判・表：自分たちが見つけた秋を工夫してまとめようとしている。 (作品・行動観察)</p>	
	9	<p>⑤はっぴょうのれんしゅうをしよう。 話し方や聞き方の確認をし、発表の練習をする。</p> <p>言語能力：論理的表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・うなずきながら聞いてくれると話しやすいね。 ・聞いてくれている人の顔を見ながら発表できるといいね。 	<p>学：発表に期待感をもって、発表の練習をしようとしている。</p>	
	10 本時	<p>⑥あきのさくひんのいいところ見つけをしよう。 グループごとに考えた秋の楽しみ方を発表し、交流する。</p> <p>情報活用能力：発信・伝達力 言語能力：論理的表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介されていた秋のおもちゃを作ってみよう。 ・やじろべえで遊んでみているんなレベルがあったのがまねしたいと思ったよ。 ・かべをつくったほうがもっと楽しく遊べそうだねと言ってもらったから、作ってみようと思ったよ。 	<p>思・判・表：友達の発表を聞いて、気付きを表現し、伝えることができる。 (行動観察)</p>	
三	11	<p>⑦あきまつりのけいかくをたてよう。 前時で紹介した楽しみ方の他にもほかのグループのアイデアから新しい楽しみ方を考えたり、遊びに来てくれる人はどんなことができれば楽しいか考える。 作り方や必要なものを考え、1枚の紙に書く。</p> <p>問題発見・解決能力：計画実行力 言語能力：論理的表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・来てくれた人が自分で作れると楽しいね。誰でも作れるように作り方があったらいいよ。 ・どんぐりゴマはいろんな大きさのドングリがあったほうが比べられるから面白いね。 ・看板があるとなんのコーナーかすぐにわかるよ。 ・昆虫のクイズを作ったら楽しんでもらえるんじゃないかな。 	<p>知：おもちゃの作り方や必要なものを考え、書くことができる。 (発言・観察カード)</p>	
	12 13 14	<p>⑧あきまつりのじゅんぴをしよう。 グループごとにおもちゃを作ったり、来た人が作成できるコーナーの準備をしたりする。 ほかのグループのおもちゃで遊んでみて、よいところや改善点を伝え合う時間をとり、改良できるようにする。</p> <p>問題発見・解決能力：計画実行力 言語能力：論理的表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昆虫のことがよく調べてあっておもしろいね。 ・カップの種類を変えたらもっといろんな音ができそうだよ。 ・葉っぱは色とか形ごとに分けてあると選びやすいな。 	<p>思・判・表：おもちゃの良いところや改善点を言葉で表現できる。 (行動観察)</p>	
	15 16	<p>⑨あきまつりをひらこう。 グループごとにブースを作り、おもちゃで遊べるようにする。遊びに来た人に遊び方や作り方を説明する。</p> <p>言語能力：論理的表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな形のドングリを選んでね。ちょっと丸いほうが回しやすいよ。 ・カップの中に入れる木の実で音が変わるよ。 	<p>思・判・表：来た人に遊び方や作り方を説明できる。 (発表)</p>	音楽「いろいろなおとをみつけよう」

単元構想図

4年「サイエンス・マジック・ブックを発行しよう～ものの温度と体積～」

導入 噴水実験 (演示)

- ・水が噴き出した理由を考える。 問題発見・解決能力：課題発見力
- ・空気が原因。水が原因。膨らんだ。動いた。
 - 空気を水を含めた時の様子に関心を持たせる。
 - 逆に、冷やすとどうなるか。

学習課題 ものを温めたり冷やしたりすると、体積はどうなるだろうか。
→今回は、体積に焦点を当てて伝える。

生活経験 ・生活場面を振り返り、どのような時にものを温めたり冷やしたりしているかを想起する。
→空気、水、金属など

本単元のねらい

- ・温度変化による体積変化について理解する。
- ・物質による程度の違いも理解する。
- ・既習内容や生活経験を基に根拠のある仮説を発想し、表現する。

本単元で育成する資質・能力 表現力

学習の基盤となる資質・能力 言語能力
情報活用能力
◎ 問題発見・解決能力

第1次 めあて 空気や水を温めたり冷やしたりすると体積はどうなるのか説明しよう。

仮説 空気は温めると体積が・・・、冷やすと・・・。水は・・・。
空気も水も・・・。

検証 ・実験方法を考える。 問題発見・解決能力：計画実行力
→条件制御

- ・空気だけ。水だけ。

・実験する。
→お湯がぬるくなってくると変化も・・・。
→温度が高いと・・・。

情報活用能力：情報収集力

考察 言語能力：論理的表現力

まとめ 空気も水も温めると体積が大きくなり、冷やすと体積が小さくなる。
空気の方が水よりも変化が大きい。

第2次 めあて 金属を温めたり冷やしたりすると体積はどうなるのか説明しよう。

仮説 金属は温めると体積が・・・、冷やすと・・・。
金属は温めても冷やしても・・・。

検証 ・実験方法を考える。
→フラスコに鉄粉を満たす方法から、鉄球と輪を使った方法に導く。

・実験する。 問題発見・解決能力：計画実行力
→お湯だと温度があまり高くない。

・仮説を再検討する。
→もっと高い温度で熱すると・・・。

情報活用能力：情報収集力

・再実験する。 言語能力：論理的表現力

考察 言語能力：論理的表現力

まとめ 金属は温めると体積が大きくなり、冷やすと体積が小さくなる。
変化がわずかである。

第3次 めあて 空気、水、金属を温めたり冷やしたりしたときの様子をまとめ、温度変化と体積変化の関係を説明しよう。

個人思考 ・学習したことを関係付けてまとめる。 情報活用能力：整理・分析力

ペア ・説明し合う。 問題発見・解決能力：検証力

全体 ・発表する。
→発表に対して質問させる。 言語能力：論理的表現力

まとめ 空気も水も金属も温めると体積が大きくなり、冷やすと体積が小さくなる。
空気の変化がとても大きく、水の変化は少く、金属の変化はわずかである。
温度変化が大きいと、体積変化も大きい。

第4次 めあて サイエンス・マジック・ブックをつくろう。

個人 ・マジックのネタを収集する。
・実際にやってみる。
・ブックにまとめる。

ペア ・紹介し合う。
→どの部分にどんな性質を利用しているか。

グループ ・交流する。
→質問させる。

まとめ

事例 ・生活場面との結びつきを考える。
→温度変化と体積変化に関する身近な事例を紹介する。

- ・鉄道レール
- ・窓
- ・電線
- ・蓋

単元構想図 2年「つくろう あそぼう くふうしよう～わくわくおもちゃランドをひらこう～」(全12時間)

単元目標

身近にあるおもちゃを使って動くおもちゃを工夫して作り、おもちゃの動きや面白さや不思議さに気付くとともに、みんなで遊びを楽しんだり造りだしたりすることができる。

育てたい資質・能力：表現力

自分の工夫したところやおもちゃの遊び方を絵や文章、言葉で表現することができる。

次	時	学習課題・めあて・学習活動・すべ	・予想される児童の反応	評価規準 (評価方法)	カリキュラム・マネジメント
一	1	<p>①あつめたものをつかってあそぼう。 集めた物の形や材質の違いや特徴を確かめたり生かしたりしながら遊ぶ。</p> <p>課題発見力</p>	<ul style="list-style-type: none"> この箱で積み木ができるかな。 ゴムを使って、跳ぶものができそう。 いろいろ使ってあそんでみたいな。 丸い物は転がしてみよう。 缶は磁石にくっつくね。 	<p>主：集めた物の特徴を生かしながら遊び、「動くおもちゃを作りたい」、「作って友達とあそびたい」などの思いや願いをもっている。</p> <p>(行動観察)</p>	<p>図工「ざいりょうからひらめき」</p>
	2	<p>②おもちゃ作りの計画を立てよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動のゴールを決め、どのようなおもちゃを作りたいかを考え、おもちゃ作りの計画を立てる。 <p>言語能力：論理的表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> どうすれば、もっと楽しく遊べるかな。 磁石で、魚つりを作りたいね。 ゴムを使って、トコトコ車を作りたいな。 おもちゃを作るために必要な材料と作り方を考えよう。 	<p>思：作りたいおもちゃを決め、作り方や必要な材料を考えている。</p> <p>(ワークシート・発言)</p>	
二	3 4	<p>③うごくおもちゃを作ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 材料の特徴や材質を生かしながら、おもちゃを作る。 <p>情報活用能力：整理・分析力 言語能力：論理的表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ゴムを2本にすると、もっとロケットが飛ぶよ。 まっすぐに車が走らないな。 うまく動かすにはどうしたらいいのだろう。 	<p>知：比べたり、試したり、見立てたりしながら工夫して動くおもちゃを作っている。</p> <p>(作品・行動観察)</p>	<p>図工「ストローでこんにちは」</p>
	5 本時	<p>④おもちゃがよりうごくように工夫するところを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達のおもちゃと比べたり、良いところを交流したりしながらおもちゃの改良点を考える。 <p>言語能力：論理的表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> Aさんは、わたしのおもちゃより羽を大きく作っているよ。私も大きくしてみよう。 Bくんのように、ゴムをピンと引っ張って手を放すと、よく進んだよ。 Cくんみたいにゴムの数を増やすと、ぼくのロケットも高く飛びそうだよ。 	<p>知：友達の工夫やおもちゃの動きの面白さや不思議さ、改善点に気付いている。</p> <p>(行動観察・発言)</p>	<p>国語「同じところ、ちがうところ」</p>
	6	<p>⑤おもちゃがよりうごくように工夫しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時に考えた改良点を活かしながら、おもちゃがより動くように改良する。 <p>情報活用能力：発信・伝達力 言語能力：論理的表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> Aさんのように羽を大きくしたら、もっと進むようになったよ。 Bくんのように、ゴムをピンと引っ張ったら、よく進んだよ。 Cくんみたいにゴムの数を増やすと、ロケットが高く飛んだよ。 	<p>主：友達の良さを取り入れたり、自分との違いを生かしたりしながら、おもちゃを作ろうとしている。(行動観察)</p>	
	7 8	<p>⑥楽しくあそぶためのあそび方やルールをくふうしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 作ったおもちゃで遊びながら、より楽しく遊べるように遊び方やルールを工夫する。 <p>情報活用能力：整理・分析力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 楽しく遊ぶためには、ルールが必要だね。 1年生にも分かるルールを考えよう。 高く飛ぶ競争をしよう。 早くゴールする競争しよう。 	<p>知：遊び方やルールが大切なことやそれを守って遊ぶことの楽しさに気付いている。</p> <p>(行動観察・発言)</p> <p>思：より楽しく遊べるように、遊び方やルールを工夫している。</p> <p>(発言・ワークシート)</p>	<p>国語「あそび方をせつ明しよう」</p> <p>道徳「きまりのない学校」</p>
三	9	<p>⑦わくわくおもちゃランドをひらくじゅんびをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> おもちゃランドを開く準備をする。 <p>問題発見・解決能力：計画実行力 言語能力：論理的表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1年生に分かるようにするためには、どんな遊び方したら良いかな。 安全に気をつける声かけをしよう。 	<p>主：1年生に楽しんでもらいたいという思いや願いをもって、友達と関わったり、話し合ったりしている。</p> <p>(発言・ワークシート)</p>	
	10 11	<p>⑧わくわくおもちゃランドを1年生に楽しんでもらおう。</p> <ul style="list-style-type: none"> わくわくおもちゃランドを開く。 <p>問題発見・解決能力：計画実行力 言語能力：論理的表現力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1年生は、楽しんでくれているね。 大きな声ではっきりと説明しよう。 遊び方が分からない子はいないかな。 分からないことは、優しく教えてあげよう。 	<p>主：1年生に楽しんでもらいたいという思いや願いをもって、友達と関わったり、話し合ったりしている。</p> <p>(行動観察)</p>	
	12	<p>⑨学習をふりかえろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習の振り返りを行う。 <p>情報活用能力：整理・分析力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 始めは、おもちゃがうまく動かなかったけれど、友達のおもちゃと比べたら、工夫するところがよく分かった。 友達からのアドバイスを聞いたら、もっとよくおもちゃが動くようになった。 これからも、友達の考えを聞いて工夫したい。 	<p>知：学習を通して、おもちゃの動きの面白さや不思議さ、それを作ることで自分の面白さ、みんなで遊ぶことの楽しさに気付いている。</p> <p>(発言・ワークシート)</p>	

《本時の目標》

日本に近づく台風の動きについて、様々な資料からこれまでの台風の動きや今後の進路についての自分の考えを説明することができる。

	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
能力	<ul style="list-style-type: none"> 集めた資料から台風の進路について説明するための根拠となる資料を選べず、説明もできない段階 	<ul style="list-style-type: none"> 集めた資料をもとに日本に近づく台風の進路は説明できるが、今後の進路が予測できない段階 	<ul style="list-style-type: none"> 衛星画像とアメダス、ニュース等の根拠を関係付けながら、日本に近づく台風の進路と今後を含めて説明する段階 	<ul style="list-style-type: none"> レベル3に加えて、台風が発生すると、衛星画像やアメダス、進路予想図などの情報を継続して収集することで災害に備えることができるのではないかと考える段階
予想される反応(思考)	<ul style="list-style-type: none"> どの資料を使おうかな。 台風はどのように進むか分からないな。 台風はこのあたりで発生して、日本に近づいてくることが多い。 衛星画像から、台風は西や東に向かって進んだり、北に進んだり、台風はいろいろな方向に進む。だから予想するにはテレビやインターネットの予想進路を参考にすれば良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会科では、台風はこのあたりで発生して、日本に近づいてくることが多いと学習したよ。 一週間分の衛星画像から、台風は、日本の南の太平洋上で発生し、日本に近づく場合は北に進むことが多い。沖縄県あたりまで北西に進み、その後は北東に進んでいる。またどこかで曲がるのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> 衛星画像から日本に近づく台風の多くは南の太平洋上で発生し、一週間位かけて勢力を強めた後、北に進むことが分かる。この台風の場合、九州地方まで北に進んだ後、日本海から北東に進んでいる。だからこのまま北東に進み、山形県あたりでまた上陸すると思う。 アメダスの変化を見ると、降水量が南から北に向かって移動しているのが分かる。だから台風は南から北に進んでいると思う。この後も北に進むが、どこかでエネルギーが切れてただの低気圧に戻るはずだ。 	<ul style="list-style-type: none"> このように、衛星画像やアメダスを見るためにニュースを見たり、インターネットで調べたりすることで、台風による災害に備えることができるのではないかな。 台風で建物が壊れたり、洪水になったり、高波にのまれたりする被害があるね。他にはないのかな。そして、どんなことに気を付ければ良いのかな。
支援(発問・切り返し等)	<p>◎台風がどのあたりで発生して、どのように進むか分かる資料はどれかな。</p> <p>◎アメダスを見ると、南から北に向かって降水量が増えているね。どうしてだと思う？</p> <p>→対話法を用いて結果のまとめをもう一度示し、説明できるようにする。</p>	<p>◎日本に上陸する台風の進路が分かる資料はどれかな。</p> <p>→説明の根拠となっている資料を見つけられるようにして、そこから分かることを関係付けて考えさせる。</p> <p>◎あなたの資料だと、台風は日本海から東北地方から来ているね。これまでの動きから、この後台風はどのように進むと思う。</p> <p>→説明の根拠となっている資料を示し、そこから分かることを関係付けて考えさせる。</p>	<p>◎台風がどのように今後どう進むか予測することができたね。では、台風が通ったところの天気はどのような災害が起るのかな。そんなとき私たちはどうしたらいいのかな。</p> <p>→次時の学習について本時を基に関係付けて考えさせる。</p>	

＜授業設計・(形成的) 評価マトリクス (第1学年)＞

《本時の目標》

友達の発表を聞いて、良いところや作品のおもしろさに気づき友達に伝えることができる。

	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
能力	・表現することができない段階	・視覚情報のみ気づき、表現している段階	・視覚や聴覚・触覚などの複数の情報から、比べたり喩えたり試したりしながら気づいたことを表現できている段階	・視覚や聴覚・触覚などの複数の情報から、比べたり喩えたり試したり工夫したりしながら気づいた情報を整理して表現し、これからの活動に繋げようとしている段階
予想される反応(思考)	<ul style="list-style-type: none"> ・いいところがわからない。 ・なにを話したらいいのかわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どんぐりころがしのゲームがたのしくていいなおもいました。 ・まといれはレベルが5まであって面白かったです。 ・やじろべえは指に乗せるのが難しかったです。 ・作品がかわいくていいなおもいました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どんぐりころがしは坂道にしている所が工夫していていいなと思いました。 ・まといれは台を斜めにしていたから入れやすくて楽しかったです。点数を見えやすいように全部紙に書いて貼ると、狙いやすいと思いました。 ・やじろべえはどんどん難しいのに挑戦できて楽しかったです。どんぐりの向きを逆さにしてもおもしろいのができそうだなと思いました。 ・作品は自分で作れるところが楽しくていいなと思いました。作り方に絵もあるのもっとわかりやすいと思いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どんぐりころがしはゲームに飾り付けがしてあって素敵だなと思ったので、やじろべえにも絵をかくと来た人がもっと楽しくなると思いました。 ・どんぐりころがしは横に壁をつけるともっと楽しくなると思いました。ぼくたちのまといれにも壁や邪魔するものを付けたりして、簡単すぎないようにしたらもっと面白くなるかなと思いました。 ・作り方も教えてもらったから、ぼくも洋らんセンターでとってきたどんぐりをつかって、自分のやじろべえを作りたいと思いました。
支援(発問・切り返し等)	◎遊んでみてどんなところが面白かったかな。	◎どんなところを工夫していると思ったかな。	◎友達の気づきを聞いてどう思ったかな。 ◎友達のよいところを見てまねできそうなところはあるかな。	

＜授業設計・(形成的) 評価マトリクス (第4学年) ＞

《本時の目標》

空気や水について温度変化と体積変化を関係付けて捉え、その程度の違いについても言及しながら、自分の考えを表現することができる。

	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
能力	<ul style="list-style-type: none"> 結果について事実を述べることはできるが、温度と体積変化を結び付けて考えることができない段階 	<ul style="list-style-type: none"> 空気や水を温めたり冷やしたりしたときの体積変化に着目して、温度変化と関係付けて考え、空気や水との共通点のみ言及している段階 	<ul style="list-style-type: none"> 空気や水について温度変化と体積変化を関係付けて考え、空気や水との共通点や相違点にも言及している段階 	<ul style="list-style-type: none"> 温度による体積変化が利用されているものを探するなど、日常生活との関連を考え、新たな問題を見出し、課題を追究しようとしている段階
予想される反応(思考)	<ul style="list-style-type: none"> 風船が膨らんだ。 風船がしぼんだ。 注射器が動いた。 	<ul style="list-style-type: none"> 空気は、温めると体積が大きくなる。 空気は、冷やすと体積が小さくなる。 水は、温めると体積が大きくなる。 水は、冷やすと体積が小さくなる。 空気も水も同じように、温めると体積が大きくなり、冷やすと体積が小さくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> 変化の大きさに差がある。 空気の体積変化はとても大きい。 水の体積変化は小さい。 温度が高いほうがよく膨らんだから、体積変化が大きかった。 温度が低いほうがよくしぼんだから、体積変化が大きかった。 温度変化が大きくなるほど、体積変化が大きくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> 海水浴の時、浮き輪を浜辺に置いたままにしておくと、浮き輪の中の空気が温められてパンパンに膨らむと聞いたことがあるよ。 浮き輪を海につけると、少しへこんだようになるよ。海水で冷やされたからだ。
支援(発問・切り返し等)	<p>◎「風船が膨らんだということは、体積がどうなったのかな。」 「風船がしぼんだということは、体積がどうなったのかな。」 →体積変化に着目させる。</p> <p>◎「空気や水に何をしたら、体積が変わったのかな。」 →温めたり冷やしたりしたことに着目させ、温度変化と関係付けさせる。</p>	<p>◎「空気も水も同じように体積が大きくなりましたか。」 →程度に違いがあることを捉えさせる。</p> <p>◎「ぬるい湯と熱い湯ではどうだったかな。」 「水と氷水ではどうだったかな。」 →温度の違いに着目させ、温度変化と体積変化を関係付けさせる。</p>	<p>◎「ほかにも、身のまわりで利用されているものがないかな。」 →日常生活を見直し、新たな課題を見出して追究していくことにつなげる。</p> <p>◎「夏の浜辺で浮き輪がパンパンに膨れるのは、どうしてかな。」 →日常生活での活用場面を考えさせることで、学習内容を深く理解させるとともに、理科学習の有用性を実感させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 空気や水について、身のまわりで活用されているものを調べてみよう。

＜授業設計・(形成的) 評価マトリクス (第2学年) ＞

《本時の目標》

友達のおもちゃやおもちゃの動きの面白さや不思議さに気付くことができると共に、自分のおもちゃの改善点を考えることができる。

	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
能力	<ul style="list-style-type: none"> おもちゃの工夫点や改善点が分からない段階 	<ul style="list-style-type: none"> おもちゃの課題は分かっているが、改善点が分からない段階 	<ul style="list-style-type: none"> 友達のおもちゃの工夫点に気付き、自分のおもちゃの改善点が分かる段階 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のおもちゃの課題点を振り返り、友達のおもちゃの工夫点や自分のおもちゃの改善点を整理している段階
予想される反応(思考)	<ul style="list-style-type: none"> 僕のおもちゃはこれで完成したよ。 どうやったらいいか、分からないよ。 Aさんのおもちゃはよく動くね。 このおもちゃは楽しいなあ。 うまく動かないな。 	<ul style="list-style-type: none"> Aさんのものより私のおもちゃが進まないのはなぜだろう。 車がまっすぐに進まないなあ。 Bくんのおもちゃはどうしてそんな風に動くのかなあ。 Cくんのおもちゃはとても高く飛ぶからすごいなあ。 もっと高く飛ぶようにするためには、どうしたらいいだろう。 ゴムを引っかけるところがふにゃふにゃで、壊れてしまうよ。 	<ul style="list-style-type: none"> Aさんは、わたしのおもちゃより羽を大きく作っているよ。私も大きくしてみよう。 Bくんのように、ゴムをピンと引っ張って手を放すと、よく進んだよ。 Cくんみたいにゴムの数を増やすと、ぼくのロケットも高く飛びそうだよ。 ゴムを引っかけるところがふにゃふにゃにならないようにするためには、紙をもっと固いものにするといいんだね。 	<ul style="list-style-type: none"> 私の今までのおもちゃは羽が小さかったです。でも、Aさんみたいに羽を大きく作ってみると、風を受けやすくなって、さらによく進むようになると思います。これなら1年生でも上手に進ませると思います。 私のおもちゃはあまり飛びませんでした。でもCくんのようにゴムの数を増やすと、力が強くなって高く飛ぶようになると思います。今度は1年生が楽しんでくれる遊び方を考えようと思います。 ゴムを引っかけるところがふにゃふにゃになって困りました。Dくんがもっと台紙を固くしたらいいよと教えてくれたので試してみようと思います。これなら1年生も遊びやすいと思います。
支援(発問・切り返し等)	<ul style="list-style-type: none"> ◎友達が作ったものを見てみよう。 ◎Aさんは、どんな工夫をしたのか、聞いてみようね。 ◎面白いおもちゃができたね。このおもちゃの動きをもっとどうしたいかな？ 	<ul style="list-style-type: none"> ◎Aさんのおもちゃとどこが違うのかな。 ◎Bくんのこういうところは、どう思う？ ◎友達のおもちゃのすごいところを見つけよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎面白い動きをするおもちゃになっているね。初めに作ったおもちゃとどんな風に変ったかな？ ◎どんな工夫をしたから、さらにみんなが楽しく遊べるおもちゃになるかな。 	

5年 理科「台風に備えよう ～台風と気象情報～」

指導者 橋本 和典

目標

○日本の夏から秋にかけて南の海上から北上してくる台風の動きや進路について、気象情報を活用してその特徴を捉えることができるようにする。また、気象情報の読み取り方や台風による災害と災害への備えについて学ぶことで、防災・減災意識を捉えることができるようにする。

つきたい力

- （言語能力）伝え合うことで、ものの見方や考え方を深めようとする態度 【主】
- （情報活用能力）根拠となる資料を集め、その中から必要な情報を選び出す力 【思判表】
- （問題発見・解決能力）課題解決のために必要なものや資料を考えられる力 【知技】

<授業の展開>

(場面1) 情報活用能力



「台風はどこで発生し、どう進むのだろうか」という課題を解決するために、社会科「国土の気候の特色」と関連させて教科横断的な学習を行った。Chromebook を活用してインターネットから情報を収集する際、ドキュメントの共同編集機能を活用し、児童一人一人が調べた情報の URL を貼り付けて参考にしやすいよう

(場面2) 問題発見・解決能力



みんなで収集した複数の情報を各自で見ながら、台風の発生場所や進路について、考えをまとめた。また、説明する際は、電子黒板で衛星画像やアメダスを再生しながら説明したことで、自分の考えが確かなものになったり、困っていた友達の手助けになったりした。



<児童の姿>

- 収集した情報を効果的に活用し、時間的・空間的な見方を働かせたり、情報と情報、情報と社会科で学んだこととを関係付けたりしながら、一人一人の学びを深めることができた。
- 前単元「雲と天気の変化」の学習と関係付けて考えたり、台風の進路をイメージ図に表現したりすることができた。
- 全体で話し合う場面では、児童が電子黒板を活用し、台風の進路について説明し、全員で考えを共有することができた。
- △情報を精選したり、論理的に表現したりする力については、系統的かつスパイラルで定着を図っていく必要がある。

1年 生活科 「あきとなかよし～あきはかせになろう！～」

指導者 井藤 加奈子

目標

- 秋の校庭や遊び場などで散歩したり遊んだりする活動を通して、秋のものを見つけ、それらの違いや特徴を表現することができる。
- 見つけた自然物を使い、工夫して遊びにつかうものを作り、工夫する面白さやよりよいものを作る楽しさを味わうことができる。

つきたい力

- （言語能力）気づきを絵や文章、言葉で表現する力【思判表】
- （問題発見・解決能力）工夫しておもちゃを作り出す力【知技】
- （問題発見・解決能力）自然物や季節の変化などに気付く力【主】

<授業の展開>

(場面1) 情報活用能力



話を聞くポイントを提示して、相手グループの説明を聞き、活動に入ったことで、視点を持って気づきを交流し合うことができた。

(場面2) 言語能力



他のグループが作った作品で遊びながら気づきを交流させた。遊びが深まる中で工夫して作られたおもちゃの面白さやもっと工夫すれば良い点を交流し合うことができた。

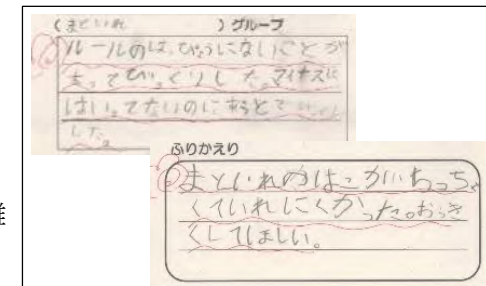
(場面3) 問題発見・解決能力



気づきを聞いてこれからどうしたいかという視点でふりかえりを書いた。改良すると良い点を挙げたり、他グループのおもちゃを自分も作ってみたいと思ったりするなどより楽しめるよう考える姿が見られた。

<児童の姿>

- 活動させたことで、季節の変化やおもちゃの工夫などを友達にすぐに伝える姿が見られた。
- 他のグループのおもちゃで遊びながら、互いのおもちゃの気づきを伝え合うことで多くの児童が自分の言葉で気づきを表現することができた。
- △自分の気づきを言葉にして表現することはできているが、文章に書く段階になると整理して書くことが難しい。



4年 理科 「サイエンス・マジック・ブックを発行しよう ～ものの温度と体積～」

指導者 遠崎 且典

目標

○金属、水及び空気の性質についての理解を図り、観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにするとともに、主に既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想するといった問題解決の力や主体的に問題解決しようとする態度を養う。

つきたい力

- （言語能力）情報を多面的に捉え、整理し構造化する力【思判表】
- （情報活用能力）情報を多面的に考察していく力【思判表】
- （問題発見・解決能力）予想や仮説を発想する力【思判表】

<授業の展開>

(場面1) 情報活用能力



空気と水の実験結果を比較して考えさせることで、どちらも温めると体積が大きくなり、冷やすと体積が小さくなることに気付かせることができた。さらに、空気は体積変化が大きく、水は体積変化が小さいことにも気付かせることができた。

(場面2) 情報活用能力



温度の違う湯を用いて実験させた。ぬるま湯では体積変化が小さく、熱い湯では体積変化が大きいことから、温度変化が大きいと体積変化も大きくなることに気付かせることができ、温度変化と体積変化を関係付けて考えさせることができた。

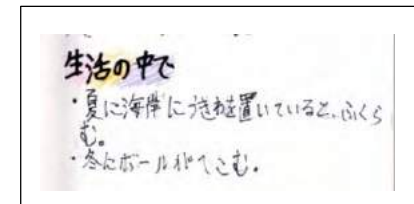
(場面3) 言語能力



空気と水を温めたり冷やしたりした結果をもとに、空気と水を比較したり、温度変化と関係付けたりしながら共通点と相違点を整理させることで、温度変化と体積変化について考察させることができた。

<児童の姿>

- 生活経験を基にしたり、既習の「空気や水を圧したとき」の実験結果と関係付けたりして仮説を発想する姿が見られた。
- 空気と水について交互に実験を繰り返すことで、空気と水を比較しながら仮説を検証する姿が見られた。
- 夏に海岸で浮き輪がパンパンに膨らむこと等、身近な生活の事象との関わりについて考えることができた。
- △実験結果を整理して温度変化と体積変化について捉えることはできているが、自分の言葉でまとめて書く段階になると、整理して論理的に書くことがむずかしい。



2年 生活科「わくわくおもちゃランドをひらこう～つくろう あそぼう くふうしよう～」指導者 越水 万理

目標

○身近にある物を使ってうごくおもちゃを工夫して作り，おもちゃの動きや面白さや不思議さに気付くとともに，みんなで遊びを楽しんだり創り出したりすることができる。

つきたい力

○（言語能力）分かったことや気付いたことを整理し，伝え合う力

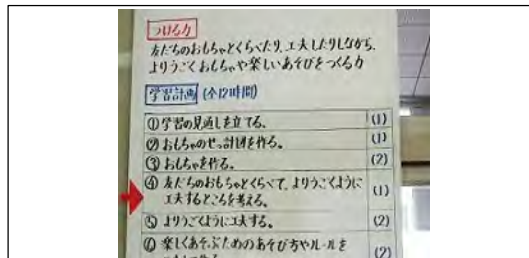
【思判表】

○（情報活用能力）必要な情報を収集する力【知技】

○（問題発見・解決能力）友達の考えをもとに問題を解決する力【主】

<授業の展開>

（場面1）情報活用能力



学習リーダーが中心となり，単元の目標や本時の内容を確認し，めあてを決めた。また，単元の学習計画を立てていることで，児童が主体的に見通しを持って，学習を進めることができた。

（場面2）問題発見・解決能力



友達のよいところを見つけるという視点を持たせて，自分のおもちゃと友達のおもちゃを比べさせた。自分のおもちゃの課題や友達の工夫点に気付くことができた。

（場面3）言語能力



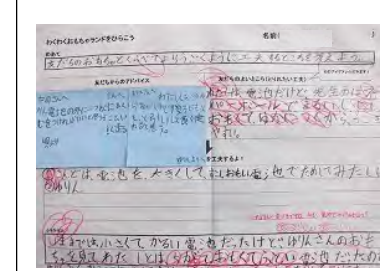
分かったことや気付いたことを整理し，グループで交流した。考えを伝え合うことで，自分では気付かなかった工夫点に気付くことができた。次時に改良したい点を明確にすることができた。

<児童の姿>

○単元を通してつきたい力と活動のゴールを明確にした学習計画を立てたことで，学習リーダーを中心にして児童が主体的に学ぶ姿が見られた。

○友達のおもちゃと比べたり，考えを交流したりする活動に取り組むことで，自分のおもちゃの課題や友達のおもちゃの工夫点に気付くことができた。

△友達の考えと比べながら聞き，自分の考えを表現する力をつけていく必要がある。



向島中学校区 総合的な学習の時間 全体計画

【向島中学校区 教育目標】 可能性への挑戦 ～これからの社会に役立つ資質・能力の育成を目指して～	学校名	向島中学校		【総合的な学習の時間の目標】 探究的な見方・考え方を働かせ、ふるさとへの貢献や国際教育、キャリア教育に関わる総合的な学習の時間を通して、目的や根拠を明らかにしながら課題を発見・解決し、自己の生き方を考えることができるようにするための資質・能力を育成する。 (1) ふるさとへの貢献や国際教育、自己の生き方に関わる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、日本文化や地域のよさに気付いたり、自己の将来について考えたりするよさを理解する。 (2) ふるさとへの貢献、国際教育、自己の生き方の中から問いを見だし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことを、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。 (3) ふるさとへの貢献、国際教育、自己の生き方の探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。
	学年	単元名	概要	
	3年	★Dreamキャッチ隊Ⅲ ○Teamしまっ子～今の自分たちにできること～	進路決定に向けて、高等学校やその後の将来について考える探究的な活動を通して、自己のキャリア形成について客観的に振り返る。その取組を論理的に組み立て、まとめることで自分のこれまでのキャリア形成について考えを広げる。 国際社会の現状を踏まえて、自分たちにできることを考える探究的な活動を通して、相手の立場や考えを尊重しながら課題解決に向けて論理的に話し合い活動を行い、自己の考えを広げる。	
	2年	★Dreamキャッチ隊Ⅱ	職場体験学習や東京での企業訪問などの体験活動から社会で働くことについて考える探究的な活動を通して、社会に出て働く場を想像し、自己のキャリア形成について、立場や考え方を尊重しながら意見交流を行い、自己の考えを広げる。	
1年	★Dreamキャッチ隊Ⅰ ○Teamしまっ子～世界の文化との出会い～	自分の将来つきたい職業や、自分自身の職業適性について調べる探究的な活動を通して、自分の生き方に展望を持ち、その実現方法について模索する中で、筋道を立てて考えたことを伝え合い、自己の思いや考えを広げる。 自分たちの住んでいる地域のよさ（魅力）を交流し、それをさらに探究的な活動を通して、地域の伝統・文化についての調べ、その知識を筋道を立てて伝え合うことで、自己の考えを広げる。		

学校名	高見小学校			向島中央小学校			三幸小学校		
学年	単元名	概要	単元名	概要	単元名	概要			
6年	○高見探検隊～江府島探検をしよう～ ★～向島のよさを再確認しよう～	江府島に自分たちの力で渡る方法を考え、実際にいかだを使って渡る活動を通して、友達との絆を深めたり、活動に関わってくださった方々に感謝の気持ちを持つたりして、向島を愛する心を育てる。 総合的な学習の時間に関わってきた地域の方々の仕事について考えていくことを通して、昔から向島に住み、仕事をしている人々や、向島を選んで仕事をしている人々がいることに気付かせ、自身の生き方について見つめ直し、それに向けて実践していくことを考える。	○すごいぞ 日本の伝統文化 ○向島歴史発掘～向島・塩田物語～ ★自分が輝く未来のため（将来のわたし）	日本の伝統文化を修学旅行先で紹介する場を設定し、伝統文化に流れる考えを探究する学習を通して、自分の思いや考えを広げ、筋道立てて考えたことを伝え合う。 向島の産業であった塩田について博物館を開いて地域の人に紹介する場を設定し、向島と塩田とのかかわりを考える探究的な学習を通して、地域の発展について自分の思いや考えを広げ、筋道立てて考えたことを伝え合う。 自分の特長や様々な職業について調べたことをまとめる活動を設定し、自己の可能性や将来の選択肢について追究していく探究的な学習を通して、自分の思いや考えを広げ、豊かに感じたり想像したりしたことを伝え合う。	○大発見！私たちのふるさとのよさ～向島の魅力を伝えよう～ 人がすき 君がすき 自分がすき ★夢 卒業プロジェクト	学校周辺をサイクリングで通る観光客に地域の観光資源を紹介する場を設定し、その方法を考える探究的な学習を行うことを通して、自分の思いや考えを広げ、筋道立てて考えたことを伝え合う。 幼稚園児との1年間の継続した交流を通して、コミュニケーション能力を高めながら、相の思いを大切にしながら受け止め、自分の考えを相手の状況に合わせて適切に伝える。 6年間の自らの成長について振り返り、「卒業を祝う会」という場を設定する中で、自分が必要とする情報を収集し、筋道を立てて自分の考えをまとめ、内容に適した表現方法を選択し、自分の思いを伝え合う。			
5年	★福祉体験プロジェクト～自分にできることを見つけよう～ ○高見の山調査隊 校内や家庭に発信しよう	校区にある高齢者や障害者への福祉施設への見学やインタビュー、インターネットや書籍等を活用して探究する活動を通して、収集した情報を整理・分析したり、高齢者や障害者及びそれらの方々に関わる人々の思いや願いと結び付けながらこれからの自分のかかわりについて考えたりしたことをレポートにまとめ、表現方法を選び発信する。 高見山を散策し、植物の生態について調査する活動を通して、収集した情報を整理してまとめたり、森林の保全活動に携わる人々の思いや願いと結び付けながらこれからの自分のかかわりについて考えたりしたことをレポートにまとめ、表現方法を選び発信する。	○守れ！島人の宝	尾道の産業と郷土の特色について地域内外へ発信する場を設定し、生産者や販売者の工夫や努力、地域の産業が抱える課題やその解決方法について考える探究的な学習を行うことを通して、自分の思いや考えを広げ、筋道立てて考えたことを伝え合う。	○ふるさと自慢 築こう 平和な世界！ 未来へつなごう 美しい向島！	向島の特産物「わけぎ」「みかん」について生産されている人にインタビューすることを通して、地域のよさをまとめた動画を作成し、自校だけでなく他校へも発信する。 戦争の恐ろしさや悲しさを実感し、平和な世界を築くために自分たちに何ができるかを考える場を設定し、探求的な学習を行うことを通して、自分たちの生活を見つめ、身近に行動できることを発信する。 生活を支える資源・エネルギーの活用と自分たちの生活とのかかわりについて体験的な学習を通して自分の問題意識を持たせ、自らのもの見方や考え方にどう活かしていくか筋道立てて伝え合う。			
4年	防災プロジェクト ○高見の山調査隊 ★二分の一人式プロジェクト	地域を巡検し、防災マップを作成することを通して、必要な情報を収集したり、関連付けて整理したりしたことを自分の考えを付け加えながらレポートにまとめ、表現方法を選び発信する。 高見山を散策し、植物の生態について調査する活動を通して、収集した情報を整理してまとめたり、森林の保全活動に携わる人々の思いや願いと結び付けながらこれからの自分のかかわりについて考えたりしたことをレポートにまとめ、表現方法を選び発信する。 ★夢に向かって～二分の一人式をひらこう～	○向島の歴史探検隊 ○平和のためにできること～平和を願う気持ちを届けよう～ ★夢に向かって～二分の一人式をひらこう～	平和について調べたことや考えたことを全校児童に発信する場を設定し、戦争の悲惨さや平和の尊さについて時間的、空間的な視点で考える探究的な学習を行うことを通して、自分の思いや考えをまとめ、筋道立てて考えたことを伝え合う。 10年間を振り返り、お世話になった人々へ感謝と自らの成長を披露する場を設定し、その内容や方法を考える探究的な学習を行うことを通して、自分の思いや考えをまとめ、豊かに感じたり未来へ向けて想像したりしたことを伝え合う。	○伝統～昔から今つながよう～ 町のやさしさ発見 ★二分の一人式をしよう	地域に伝わる伝統的行事（祭り）を調べる活動を通して、昔から今につながる人々の願いや伝統行事を受け継いできた思いを感じ取り、3年生に向けてまとめたことを発信する方法を工夫し、自分の思いや考えを伝える。 人々とのふれあいや体験活動から感じたやさしさや温かさを3年生に向けて発信する活動を通して、必要な情報を収集したり、相手意識を持って発表内容を工夫したりする。 今までの10年間を振り返り、自分の夢と感謝の気持ちを家族に伝える会を計画し、インタビュー活動や調べ学習などの主体的な学びを通して、新たな課題への展望を自分の言葉で伝え合う。			
3年	○高見の海調査隊～春と夏の生き物～～秋の生き物～～高見の海の生き物～ ★綿育成プロジェクト～コットンボールから素敵を広げよう～	高見の海の生き物を採集し、それらの生き物について調べる活動を通して、高見の海に棲む生き物の生態や季節による変化の情報を集め、共通点や差違点を整理・分析して発信する。 地域とのつながりから綿を育てる場を設定し、栽培した綿を紡いで糸にしたりその糸で物を作ったりする活動を通して、綿や綿に関わる人々について体験したことや見聞きしたこと、調べたことなどを順序立てて発信する。	○向島・尾道～わたしたちのまちじまん～ ○向島・尾道～町のやさしさ発見～ ○向島・尾道～みんなきんさい向島～	学校のみんなや保護者に向島の自慢を紹介する場を設定し、町の自慢とそれに関わる地域の人々について考える探究的な学習を行うことを通して、自分の思いや考えをまとめ、筋道立てて考えたり豊かに感じたりしたことを伝え合う。 学校のみんなや保護者に向島のやさしさを紹介する場を設定し、町のやさしさやくらしを支援する仕組みや人々について考える探究的な学習を行うことを通して、自分の思いや考えをまとめ、豊かに感じたり想像したりしたことを伝え合う。 向島のよさを町外に広めるために、みなと祭で披露する踊りで伝えたいことを考える探究的な学習を行うことを通して、豊かに感じたり想像したりしたことを表現する。	○ふるさと学習「安全な町づくり」 ○ふるさと学習「みゆき わくわくみかん隊！」 タイムスリップ～昔へ行こう～	災害のことや防災のことを理解し、それを推奨していく人々と関わり防災マップを作成することを通して、まとめたことを発信する方法を工夫したり、地域の人やお家の人に分かりやすく伝えたりする。 向島町の特産物であるみかん作りについて調べたり、体験したりすることを通して、農家の工夫や努力、喜びや苦勞を感じ取り、地域のよさや課題について自分の考えをまとめ、事実を意見とを区別してわかりやすく伝え合う。 お年寄りとのふれあいを通して、昔の遊びやその由来について情報収集し、そのよさや遊び方について幼稚園児や1年生に分かりやすく伝える。			

【保護者・地域の願う子供の姿】
基礎基本の学力を身に付けた子供
何事にも努力し、くじけずたくましい子供
地域を愛し、地域に誇りをもつ子供
挨拶がしっかりでき、礼儀正しい子供

向島中学校区で育成を目指す資質・能力 **表現力** にかかると系統

	小学校			中学校		
	1・2年	3・4年	5・6年	1年	2年	3年
表現力	自分の思いや考えをもち、順序立てて考えたことや、感じたり想像したりしたことを、日常生活における人との関わりの中で伝え合うことができる。	自分の思いや考えをまとめ、筋道立てて考えたことや、豊かに感じたり想像したりしたことを、日常生活における人との関わりの中で伝え合うことができる。	自分の思いや考えを広げ、筋道立てて考えたことや、豊かに感じたり想像したりしたことを、日常生活における人との関わりの中で伝え合うことができる。		自分の思いや考えを広げたり考えたりして、論理的に考えたことや、深く共感したり豊かに想像したりしたことを、社会生活における人との関わりの中で伝え合うことができる。	
キーワード	<ul style="list-style-type: none"> ○考えをもつ ○順序立てる ○相手意識 ・発言を受けて話をつなぐ 	<ul style="list-style-type: none"> ○考えをまとめる ○筋道立てる ・理由や根拠 ○相手意識 ・意見の共通点や相違点に着目 ○目的意識 ○場面意識 	<ul style="list-style-type: none"> ○考えを広げる ○筋道立てる ・理由や根拠 ○相手意識 ・相手の反応を踏まえる ・他者の考えと比較、批判的検討 ○目的意識 ○場面意識 		<ul style="list-style-type: none"> ○考えを広げ、深める ○論理的に ・根拠的的確さ ・相手を説得できる論理の展開 ○相手意識 ・立場や考えを尊重、合意形成 ○目的意識 ○場面意識 	

低学年

伝え合おう！(向島スタンダード)

(レベル1) 思ったことを声に出す
大げさな声を出して話す。
*自分の考えたこと、感じたこと、想像したことを、相手に伝える。

(レベル2) わが言で伝える
相手に話しかける。
*自分の考えたこと、感じたこと、想像したことを、相手に伝える。

(レベル3) わが言で伝える
相手に話しかける。
*自分の考えたこと、感じたこと、想像したことを、相手に伝える。

(レベル4) 自分の考えを伝え合おう
*自分の考えたこと、感じたこと、想像したことを、相手に伝える。

聞き合おう！(向島スタンダード)

(レベル1) 反応し合おう
相手の話を聞いて、自分の考えを伝える。
*自分の考えたこと、感じたこと、想像したことを、相手に伝える。

(レベル2) 反応し合おう
相手の話を聞いて、自分の考えを伝える。
*自分の考えたこと、感じたこと、想像したことを、相手に伝える。

(レベル3) 比べ合おう
相手の話を聞いて、自分の考えを伝える。
*自分の考えたこと、感じたこと、想像したことを、相手に伝える。

(レベル4) 自分の考えを伝え合おう
*自分の考えたこと、感じたこと、想像したことを、相手に伝える。

話し合おう！(向島スタンダード)

(レベル1) 自分の意見を伝え、自分の考えを伝える。
相手の話を聞いて、自分の考えを伝える。
*自分の考えたこと、感じたこと、想像したことを、相手に伝える。

(レベル2) 自分の意見を伝え、自分の考えを伝える。
相手の話を聞いて、自分の考えを伝える。
*自分の考えたこと、感じたこと、想像したことを、相手に伝える。

(レベル3) 自分の意見を伝え、自分の考えを伝える。
相手の話を聞いて、自分の考えを伝える。
*自分の考えたこと、感じたこと、想像したことを、相手に伝える。

(レベル4) 合意形成に向けて自分の考えを伝える。
相手の話を聞いて、自分の考えを伝える。
*自分の考えたこと、感じたこと、想像したことを、相手に伝える。

中・高学年

伝え合おう！(向島スタンダード)

(レベル1) 思ったことを声に出す
大げさな声を出して話す。
*自分の考えたこと、感じたこと、想像したことを、相手に伝える。

(レベル2) わが言で伝える
相手に話しかける。
*自分の考えたこと、感じたこと、想像したことを、相手に伝える。

(レベル3) わが言で伝える
相手に話しかける。
*自分の考えたこと、感じたこと、想像したことを、相手に伝える。

(レベル4) 自分の考えを伝え合おう
*自分の考えたこと、感じたこと、想像したことを、相手に伝える。

聞き合おう！(向島スタンダード)

(レベル1) 反応し合おう
相手の話を聞いて、自分の考えを伝える。
*自分の考えたこと、感じたこと、想像したことを、相手に伝える。

(レベル2) 反応し合おう
相手の話を聞いて、自分の考えを伝える。
*自分の考えたこと、感じたこと、想像したことを、相手に伝える。

(レベル3) 比べ合おう
相手の話を聞いて、自分の考えを伝える。
*自分の考えたこと、感じたこと、想像したことを、相手に伝える。

(レベル4) 自分の考えを伝え合おう
*自分の考えたこと、感じたこと、想像したことを、相手に伝える。

話し合おう！(向島スタンダード)

(レベル1) 自分の意見を伝え、自分の考えを伝える。
相手の話を聞いて、自分の考えを伝える。
*自分の考えたこと、感じたこと、想像したことを、相手に伝える。

(レベル2) 自分の意見を伝え、自分の考えを伝える。
相手の話を聞いて、自分の考えを伝える。
*自分の考えたこと、感じたこと、想像したことを、相手に伝える。

(レベル3) 自分の意見を伝え、自分の考えを伝える。
相手の話を聞いて、自分の考えを伝える。
*自分の考えたこと、感じたこと、想像したことを、相手に伝える。

(レベル4) 合意形成に向けて自分の考えを伝える。
相手の話を聞いて、自分の考えを伝える。
*自分の考えたこと、感じたこと、想像したことを、相手に伝える。